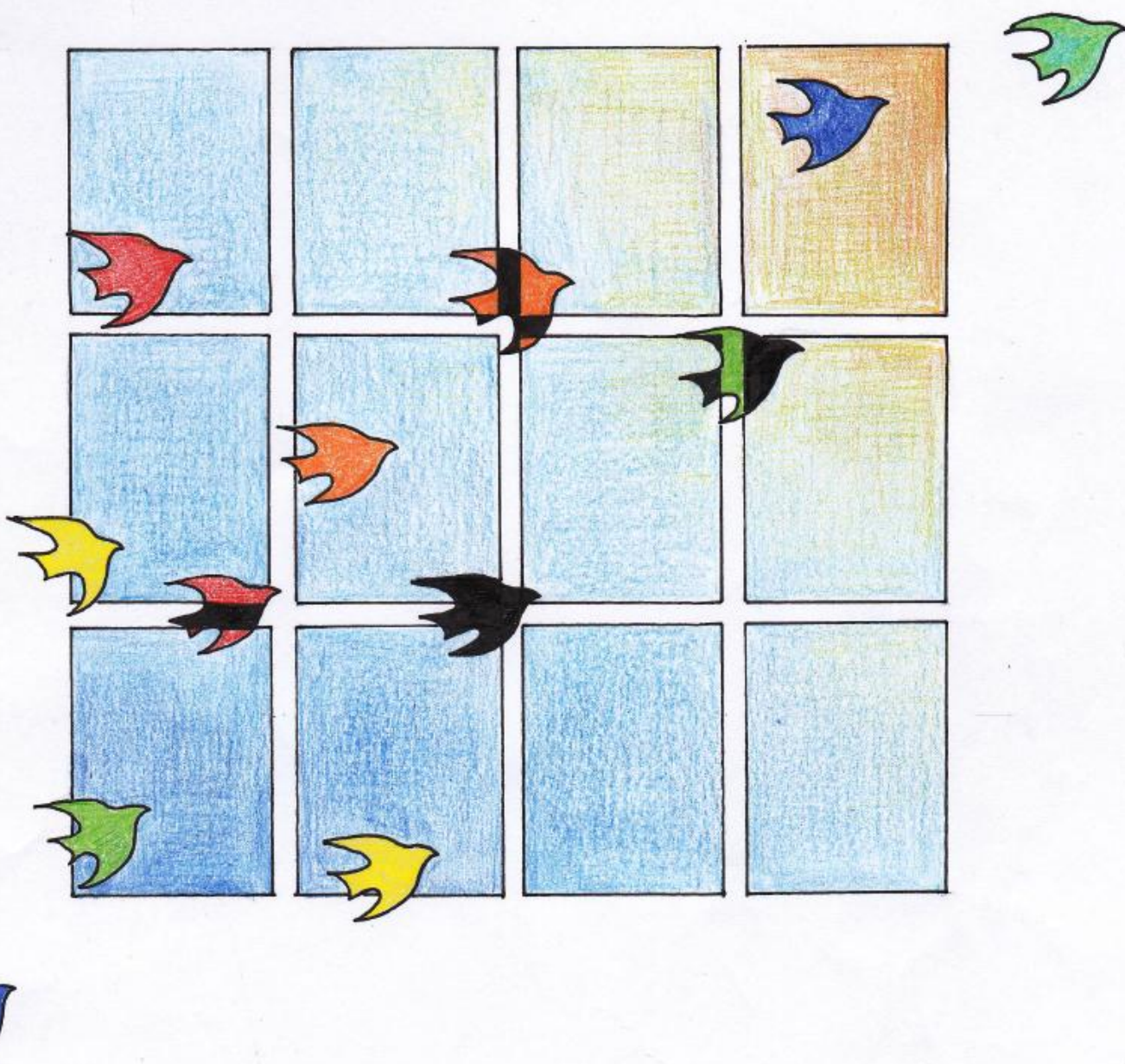


外国につながる子どもたちの

# 進路応援ガイドブック

～ 地域の支援者の皆様へ ～





## ガイドブックの発行にあたって

外国につながる子どもたちは、日本語能力の問題などから学校の勉強についていけず、不登校となって中学校を卒業できなかった、中学校は卒業したものの高校に進学できなかった、というケースが見受けられます。

そこで、県では、「外国人青少年の夢エスコート事業」として、子どもたちや保護者の皆様に進路に関する情報を提供することを目的に、『外国につながる子どもたちの進路開拓ガイドブック つなぐ・ひらく・未来』を作成いたしました。

あわせて、以前からそのような子どもたちを身近な地域で支援されているNPOやボランティアの皆様、そして、新たに子どもたちの支援に取り組もうと考えてみえる皆様に、支援の参考となる情報を提供することを目的に、この『外国につながる子どもたちの進路応援ガイドブック—地域の支援者の皆様へ—』を作成いたしました。

この二つのガイドブックは、豊田市の保見団地などで外国につながる子どもたちの教育支援等の活動をされている特定非営利活動法人トルシーダさんに企画・編集を委託するとともに、NPOのメンバー、学校の先生方、行政や国際交流協会の関係者、さらには外国人学校の先生や語学相談員の方々と構成する「外国人青少年の夢エスコート事業企画編集委員会」において、内容を検討してまいりました。

さらに、多くの団体や企業の皆様、夢を叶えた先輩などにインタビューを行うとともに、現在中学校や高校に通っている子どもたちにもアンケートにご協力いただきました。改めて、関係各方面の皆様に感謝を申し上げます。

外国につながる子どもの教育支援は、NPOやボランティアの皆様による活発な取組に支えられてきました。このガイドブックをご活用いただき、引き続きご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

愛知県多文化共生推進室

### ガイドブック企画・編集者より

「日本で、高い学費を払って、子どもを進学させる意味がどこにあるのか。」外国にルーツを持つ子どもたちの支援を始めたばかりの十数年前、ペルー人の保護者に聞かれたことです。「友人を作り、いろいろな経験をして、社会に出るために必要な常識を身に付けるため。」などということは、甘い答えなのだろうと想像して、言葉に詰まりました。

今回、このガイドブック作成の作業をしながら、この質問が頭の中を反芻することが度々ありました。「何のために進学するのか」知識を身につけるため。いい仕事を得るため。資格を取るため。豊かな人間関係を築き成長するため…

高校は、ほぼ全入。大学も以前に比べたら入りやすくなり、外国につながる子どもたちが当たり前前に大学に進学するようになりつつあります。母語と日本語、さらに英語といった3言語を使える子や、多様な文化的背景を持ち、幅広い視野で物事を見られる人材が育っています。対して、ホスト国である日本は、その貴重な人材が活躍できる社会へと変わってきたのでしょうか。

「日本で育つ外国につながる子どもたち」が活躍できる場があってこそ、進学することの意味が伝わり、情報不足から進学できなかったとか、中途半端な状態で勉強をあきらめるといことが無くなるのではないのでしょうか。多くの方に進学に関する情報を伺い、どう伝えたらいいのか整理する中で、受け入れ体制の大切さを改めて感じました。このガイドブックが、「外国につながる子どもたちを、地域でどう受け入れるのか」という視点を持ちながら、支援者の皆様に活用していただけることを願っています。

最後になりましたが、ガイドブック作成にあたり企画編集委員の皆様を始め、たくさんの方々にお世話になりました。この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

特定非営利活動法人トルシーダ

# 目 次

|                                      |           |
|--------------------------------------|-----------|
| <b>第1章 外国につながる子ども・保護者へのアンケート調査</b>   | <b>1</b>  |
| A. 調査の概要                             | 1         |
| B. 調査結果から見えること                       | 2         |
| 資料① 外国につながる子ども・保護者へのアンケート調査結果        | 5         |
| <b>第2章 日本の若者の就職・雇用状況</b>             | <b>18</b> |
| A. 若者たちをめぐる雇用の現状                     | 18        |
| B. 産業構造からみた仕事・職種の現状                  | 20        |
| C-1. 取材メモから（愛知労働局・名古屋外国人雇用サービスセンター）  | 21        |
| C-2. 取材メモから（外国人を採用している企業）            | 23        |
| <b>第3章 進路（進学・就職）に関する情報</b>           | <b>25</b> |
| A. 進路・志望校選びを支えるためのポイント               | 25        |
| B. 高校への取材メモから                        | 27        |
| ＜コラム＞大学進学のためのアドバイス ―愛知淑徳大学准教授 小島祥美氏― | 32        |
| C. 奨学金などの利用について                      | 33        |
| D. 中学校を卒業していない子どもたちへの支援              | 35        |
| E. 海外の中学校などを卒業して進学したい子どもたちへの支援       | 37        |
| 資料② ブラジル・ペルー・フィリピンの教育制度              | 38        |
| 資料③ 事例から考える異文化理解                     | 40        |
| <b>第4章 地域において支援を行っている団体の事例</b>       | <b>42</b> |
| A. 義務教育年齢超過の青少年への進学支援の取組事例           | 42        |
| B. 学習支援・進路支援の取組事例                    | 50        |
| <b>第5章 夢を叶えた先輩から学ぶ</b>               | <b>58</b> |
| A. 進学の夢を叶えた先輩の事例                     | 58        |
| B. 就職した先輩の事例                         | 66        |
| C. 先輩たちへの取材から見てきたこと                  | 70        |
| <b>第6章 日本語と母語、学習言語について</b>           | <b>75</b> |
| A. 日本語と母語について（トロント大学教授 中島和子氏）        | 75        |
| B. 学習言語について（千葉県立柏中央高校 時原千恵子氏）        | 78        |

このガイドブックに掲載した内容は、2011年度の情報に基づいて作成しております。  
このため、今後内容が変更されることがあります。



# 第1章 外国につながる子ども・保護者へのアンケート調査

外国につながる子どもたちの夢や希望を、前向きな努力に繋げるためには、子ども一人ひとりの状況に合わせた働きかけと情報提供が必要です。現在の勉強の状況、卒業後の希望や、進学や就職に関する情報等について、子どもたちや保護者が、どのような状況に置かれているか、どのような認識をもっているか、全体的な傾向を把握するため、アンケート調査を行いました。

## A. 調査の概要

### 調査対象

外国にルーツがあり、ポルトガル語、スペイン語またはタガログ語を母語とする子どもとその保護者のうち、次に該当する者

- ・ 愛知県内の中学校の生徒（主に2～3年生）とその保護者
- ・ 愛知県内の高校の生徒（主に1～2年生）とその保護者
- ・ 愛知県内のブラジル人学校の中等部、高等部の生徒とその保護者
- ・ 不就学の子どものとその保護者

※ 以下、「愛知県内の中学校」「愛知県内の高校」「愛知県内の中学校及び高校」を、それぞれ「日本の中学校」「日本の高校」「日本の学校」と表記します。

### 主な調査項目

- ・ 成育歴（来日時期、母語能力、勉強の状況等）
- ・ 将来の夢や生活する国
- ・ 卒業後の進路希望
- ・ 進学に関して得ている、必要とする情報
- ・ 進学に関する情報の入手方法
- ・ 将来の仕事に対する考え
- ・ 相談相手

### 調査の時期・方法

2011年9～10月に、主に学校経由でアンケート調査票を配布

### 回答者

計797人（子ども412人、保護者385人）  
※ 以下の調査結果は、不就学の子どものと保護者を除いた790人（子ども406人、保護者384人）を集計したものです。

### アンケートの回答の言語について

子どもには、母語と日本語の両方の調査票を用意し、答えやすい言語を選んでもらいました。その結果は次のとおりです。

- ①ポルトガル語を母語とする子ども
- ・ 日本の学校の生徒
    - 日本語で回答 124人（66%）
    - ポルトガル語で回答 63人（34%）
  - ・ ブラジル人学校の生徒
    - 日本語で回答 11人（8%）
    - ポルトガル語で回答 126人（92%）
- ②スペイン語を母語とする子ども
- 日本語で回答 35人（81%）
  - スペイン語で回答 8人（19%）
- ③タガログ語を母語とする子ども
- 日本語で回答 24人（62%）
  - タガログ語で回答 15人（38%）

【回答者の内訳】（人）

|         |     | 計   | 生徒(子ども) |        |       |       | 保護者 |        |       |       |
|---------|-----|-----|---------|--------|-------|-------|-----|--------|-------|-------|
|         |     |     | 計       | 母語     |       |       | 計   | 母語     |       |       |
|         |     |     |         | ポルトガル語 | スペイン語 | タガログ語 |     | ポルトガル語 | スペイン語 | タガログ語 |
| 日本の学校   | 中学校 | 439 | 227     | 161    | 37    | 29    | 212 | 155    | 33    | 24    |
|         | 高校  | 79  | 42      | 26     | 6     | 10    | 37  | 23     | 5     | 9     |
| ブラジル人学校 | 中等部 | 122 | 61      | 61     |       |       | 61  | 61     |       |       |
|         | 高等部 | 150 | 76      | 76     |       |       | 74  | 74     |       |       |
| 不就学     |     | 7   | 6       | 1      |       | 5     | 1   |        |       | 1     |
| 計       |     | 797 | 412     | 325    | 43    | 44    | 385 | 313    | 38    | 34    |

## B. 調査結果から見えること

### 成育歴

#### ①生まれた国

日本の中学校とブラジル人学校中等部の生徒は、「日本で出生」と「生まれてから来日」がほぼ同数となっています。

一方、日本の高校とブラジル人学校高等部の生徒は、それぞれ「日本で出生」が17%と9%、「生まれてから来日」が76%と70%となっています。

#### ②母語能力

日本の学校では、中学校の生徒よりも高校の生徒の方が、母語能力が高い傾向がみられます。また、会話よりも読み書きの方を苦手としている傾向がみられます。

ブラジル人学校の生徒は、ほぼ全員が母語での会話や読み書きができると回答しています。

#### ③学校での成績

全般に、保護者よりも生徒の方が、成績を低く感じている傾向がみられますが、日本の中学校の生徒と日本の高校の生徒を比べると、「普通」「あまり良くない」などの回答割合から、高校の生徒の方が、成績を高く感じている傾向がみられます。

教科については、日本の中学校の生徒、日本の高校の生徒とも、英語を得意とし、国語や社会を苦手とする傾向がみられます。

なお、数学については、中学校の生徒では「苦手」と回答した者が最も多い教科であるものの、高校の生徒では、得意と回答した生徒数が、苦手と回答した数を上回っています。

#### ④日本に住み始めた年齢、母語能力、学校の成績の関係（日本の中学校の生徒）

日本に住み始めた年齢が高いほど、母語で読み書きができる割合が高くなっています。

また、母語で読み書きができる生徒は、できない生徒に比べ、英語を得意とする傾向があります。

学校での成績を「とても良い・良い」と回答している生徒は、英語や数学を得意とし、国語を苦手としています。他の教科は苦手意識はあまりみられません。

学校での成績を低めに回答している生徒は

ど、数学と英語を苦手とする割合が特に増えています。

### 将来の夢や生活する国

#### ①将来の夢

日本の中学校の生徒の41%、日本の高校の生徒の52%が、「将来勉強したいこと、就きたい仕事などの夢がある」と回答しています。

一方、ブラジル人学校では、中等部の生徒の67%、高等部の生徒の58%が「夢がある」と回答しており、それぞれ、日本の学校の割合を上回っています。

#### ②将来生活する国

日本の中学校の生徒の67%、保護者の55%が、「将来日本で生活する予定」「将来日本で生活してほしい」と回答しています。

日本の高校の生徒の67%、保護者の54%も同様の回答をしており、日本の学校の生徒や保護者は、将来日本での生活を希望する傾向がみられます。

一方で、ブラジル人学校の生徒や保護者で「将来日本で生活する予定」「将来日本で生活してほしい」と回答した割合は、7~16%にとどまっています。将来日本での生活を希望する傾向が低くなっていますが、その一方で、「わからない・未回答」とした生徒の割合も、中等部で64%、高等部で46%にのぼっています。

### 卒業後の進路希望

#### ①高校や大学等への進路希望

（日本の中学校・ブラジル人学校中等部の生徒、保護者）

日本の中学校の生徒の84%、保護者の86%が、日本の高校への進学を希望しています。

高校への進学希望者のうち、高校卒業後にさらに進学を希望する割合は、中学校の生徒の66%に対し、保護者は88%となっています。

#### ②大学等への進路希望

（日本の高校・ブラジル人学校高等部の生徒・保護者）

日本の高校の生徒の大学等への進学希望は45%で、保護者の64%に比べ低くなっています。

す。

なお、女子生徒に限ると、日本の高校の生徒の大学等への進学希望は42%で、日本の中学校の生徒の高校卒業後の進学希望の78%に比べ低くなっています。

また、全日制高校と定時制高校の生徒を比べると、全日制高校の方が進学希望が高く、定時制高校は未定が多くなっています。

ブラジル人学校高等部では、生徒、保護者とも50%以上の者が母国での進学を希望しています。

#### <参考>

愛知県内の外国籍中学校生徒の  
卒業後の進路状況（2011年3月卒業生）

高校等への進学 83%

就職 1%

その他 16%

※回答があった一部の市町村の状況を集計

### 進学に関して得ている、必要とする情報

#### ①日本の高校への進学に関して

（日本の中学校の生徒、保護者）

知りたい情報として、40%以上の生徒と保護者が、「学費」「勉強内容」「取得できる資格等」「入試内容」を挙げています。

この他に、60%以上の保護者が、「奨学金」「卒業後の進路状況」を挙げています。

今知っている情報については、50%以上の生徒と保護者が知っているとは回答した項目は皆無で、生徒、保護者とも、全般的に知っている割合が低い傾向がみられます。

特に、「内申点」について知っているとは回答した保護者の割合は13%にとどまっています。

#### ②日本の大学等への進学に関して

（日本の高校の生徒、保護者）

知りたい情報として、50%以上の生徒と保護者が、「学費」「勉強内容」「取得できる資格等」「奨学金」「卒業後の進路状況」を挙げています。

この他に、60%以上の生徒が、「入試内容」を挙げています。

#### ③国内の外国人学校や、国外の学校への進学に関して（ブラジル人学校中等部・高等部の生徒、保護者）

知りたい情報として、中等部、高等部とも

に、50%以上の生徒が、「勉強内容」や「卒業後の進路状況」を挙げています。

### 進学に関する情報の入手方法

#### ①日本の高校への進学に関して

（日本の中学校の生徒、保護者）

「学校の先生」、次に「友人」から情報を入手しようと考えている傾向がみられます。

#### ②日本の大学等への進学に関して

（日本の高校の生徒、保護者）

「学校の先生」のほか、「日本のメディア」や「体験入学」と回答している生徒も50%以上に上っています。

#### ③国内の外国人学校や、国外の学校への進学に関して（ブラジル人学校中等部・高等部の生徒、保護者）

「学校の先生」や「母国のメディア」から情報を入手しようと考えている傾向がみられます。

### 将来の仕事に対する考え

#### ①将来働く国

日本の中学校の生徒の63%、高校の生徒の60%が、日本での仕事を希望しています。

一方で、保護者は、「日本で仕事をしたい」と「こだわらない」がほぼ同数となっています。

また、ブラジル人学校の生徒や保護者で、日本での仕事を希望する割合は、3~13%にとどまっています。

#### ②将来の働き方

日本の中学校の生徒よりも日本の高校の生徒の方が、正社員を望む割合が高くなっています。

一方で、日本の学校の保護者は、50%以上の者が正社員を望んでおり、この割合は生徒よりも高くなっています。また、自営業・起業を望む割合も12~19%を占めています。

ブラジル人学校では、生徒、保護者とも、日本の学校の生徒、保護者と比べて、正社員を望む割合が低く、自営業・起業を望む割合が高くなっています。

また、日本の中学校や高校の生徒や保護者の、仕事をする上で大切だと思うことについての回答状況をみると、「給料」「やりたい仕

事か」「会社の信用」「職場の人間関係」と回答した割合が高くなっています。

なお、「会社の規模」は他の項目に比べて重視されていない傾向がみられます。

## 相談相手

日本の中学校の生徒で相談相手がいる割合は57%、日本の高校の生徒では76%となっ

おり、高校生の方が相談できる人が多い傾向がみられます。

また、相談相手としては、生徒は「親」「学校の先生」「友人」、保護者は「学校の先生」「友人」「親戚」と回答した割合が高くなっています。なお、中学校の保護者で「役所の相談窓口」と回答した割合も36%にのぼっています。

### 【参考】外国人の子どもの教育相談の窓口について（一例）

愛知県や市町村の国際交流協会などに相談することが考えられますが、その一例を紹介します。

| 実施団体                        | 日時                        | 場所                        | 内容                                        | 通訳対応 | 問合せ先                              |
|-----------------------------|---------------------------|---------------------------|-------------------------------------------|------|-----------------------------------|
| 名古屋国際センター<br>「海外児童生徒教育相談」   | 水・金・日<br>10～17時<br>(要予約)  | 名古屋国際センター3階<br>情報サービスコーナー | 海外勤務に伴う子どもの教育や生活問題（渡航時・帰国時）や、外国籍の子どもの教育全般 | 要相談  | (公財)<br>名古屋国際センター<br>052-581-0100 |
| 豊橋市教育委員会<br>「外国人児童生徒相談コーナー」 | 平日<br>10～17時<br>(木曜は午前のみ) | 豊橋市役所<br>東館3階             | 就学相談、進路相談など                               | ポ・ス  | 豊橋市教育委員会<br>学校教育課<br>0532-51-2826 |

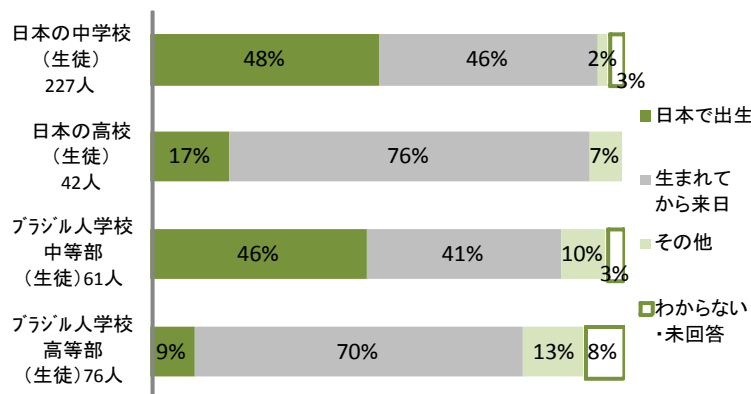
通訳対応の「ポ」はポルトガル語、「ス」はスペイン語



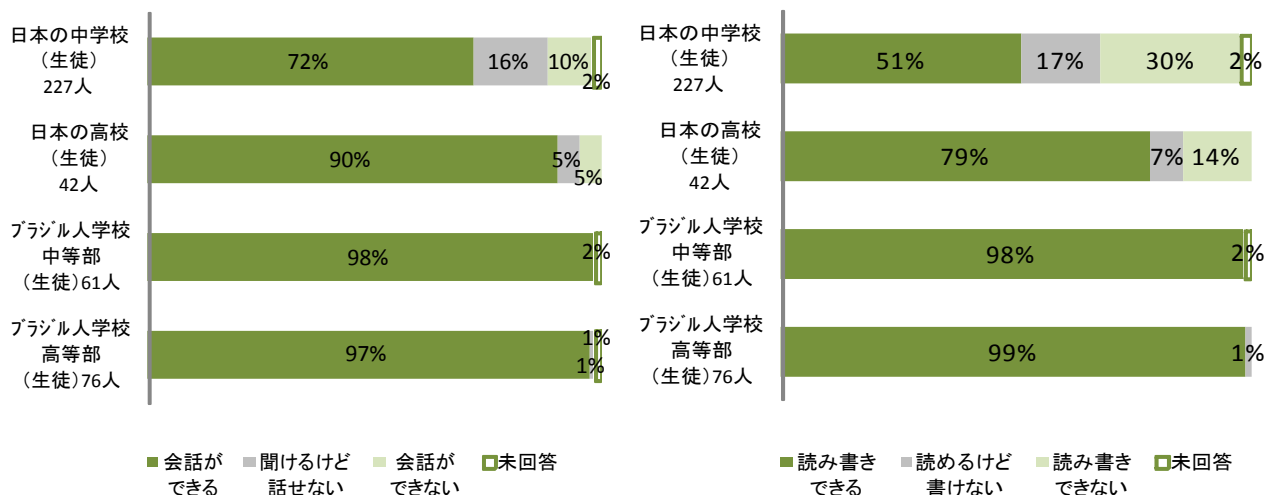
## 外国につながる子ども・保護者へのアンケート調査結果

## 1. 成育歴

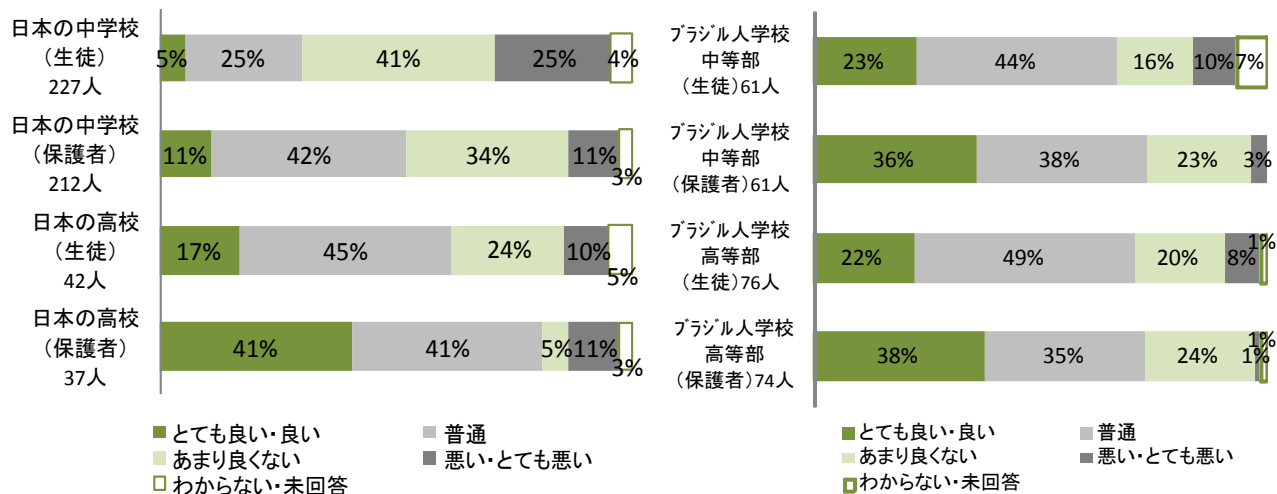
【1-1】日本にいつから住んでいますか。



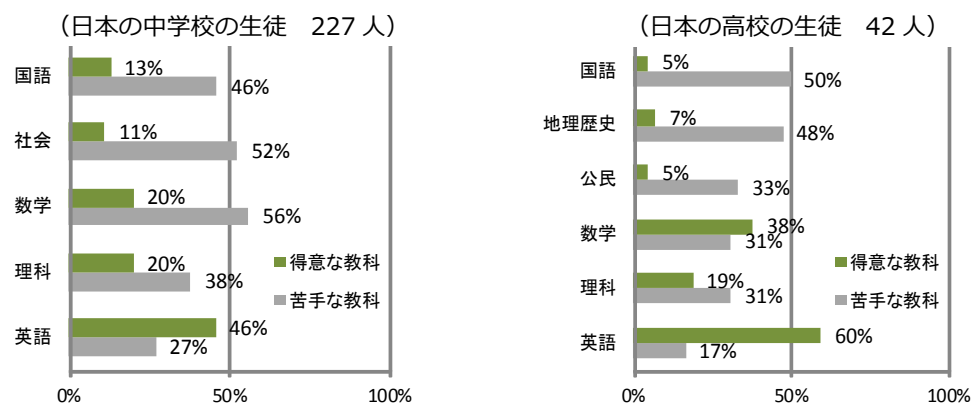
【1-2】母語で会話や読み書きができますか。



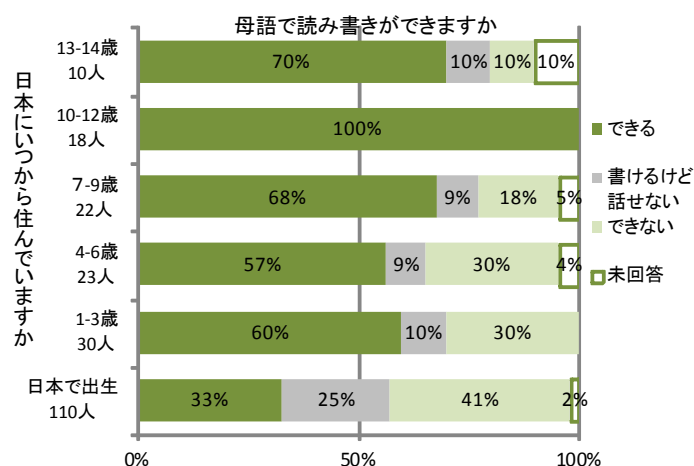
【1-3】学校での成績はどうですか。



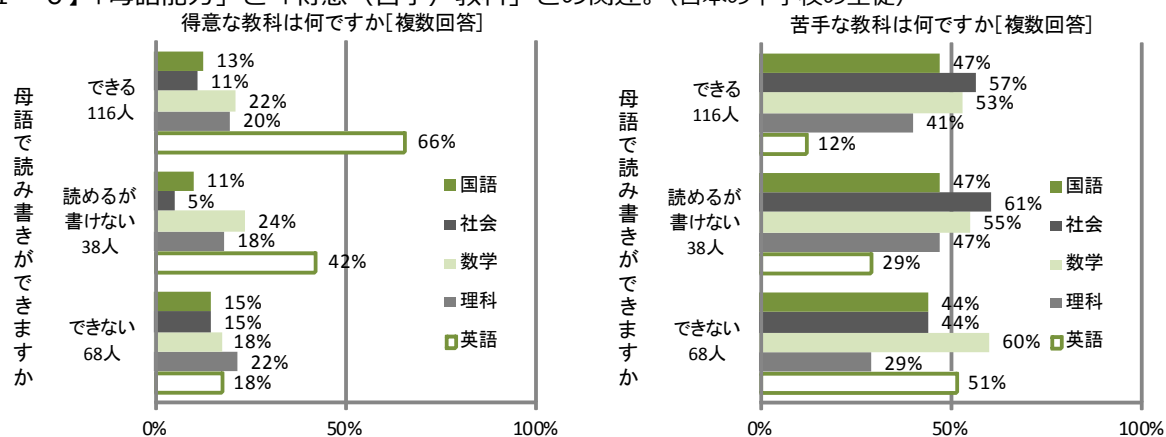
【1-4】得意（苦手）な教科は何ですか。〔複数回答〕



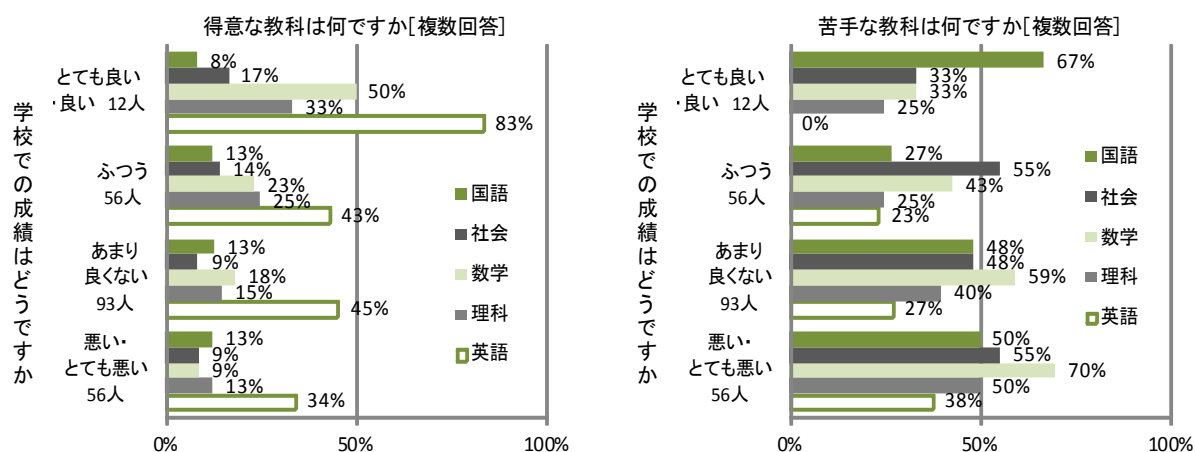
【1-5】「日本に住み始めた年齢」と「母語能力」との関連。(日本の中学校の生徒)



【1-6】「母語能力」と「得意（苦手）教科」との関連。(日本の中学校の生徒)

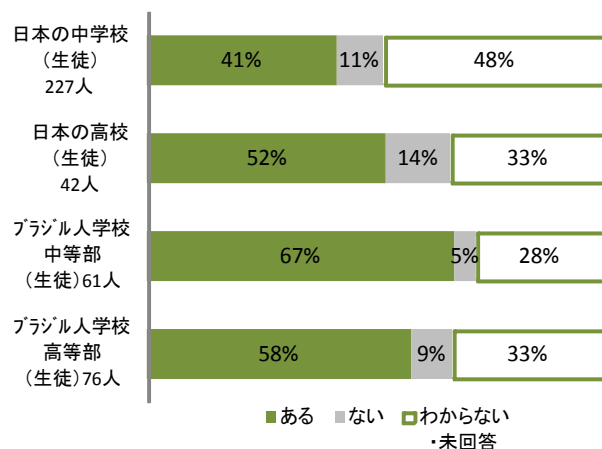


【1-7】「学校の成績」と「得意（苦手）教科」との関連。(日本の中学校の生徒)

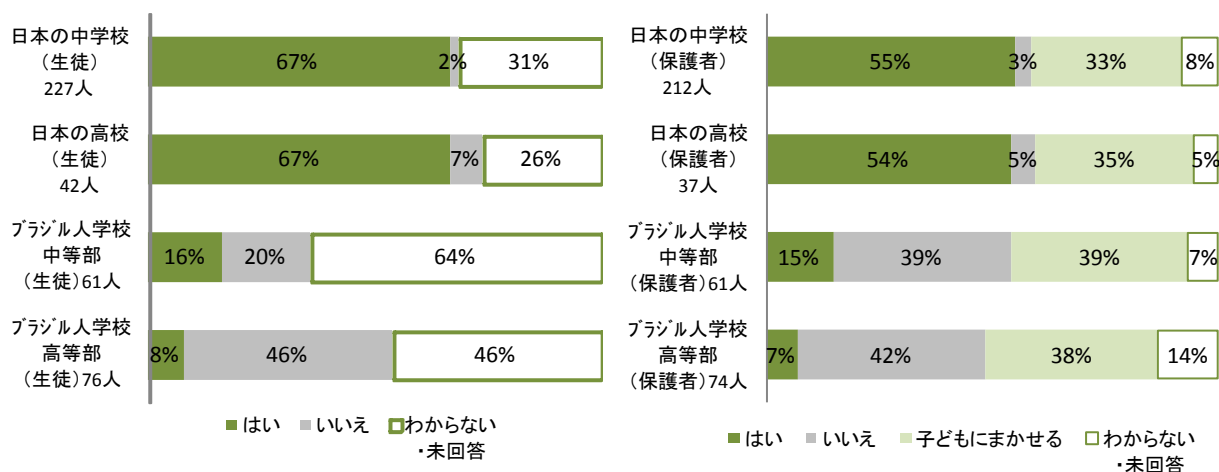


## 2. 将来の夢や生活する国

### 【2-1】将来勉強したいこと、就きたい仕事など、夢はありますか。

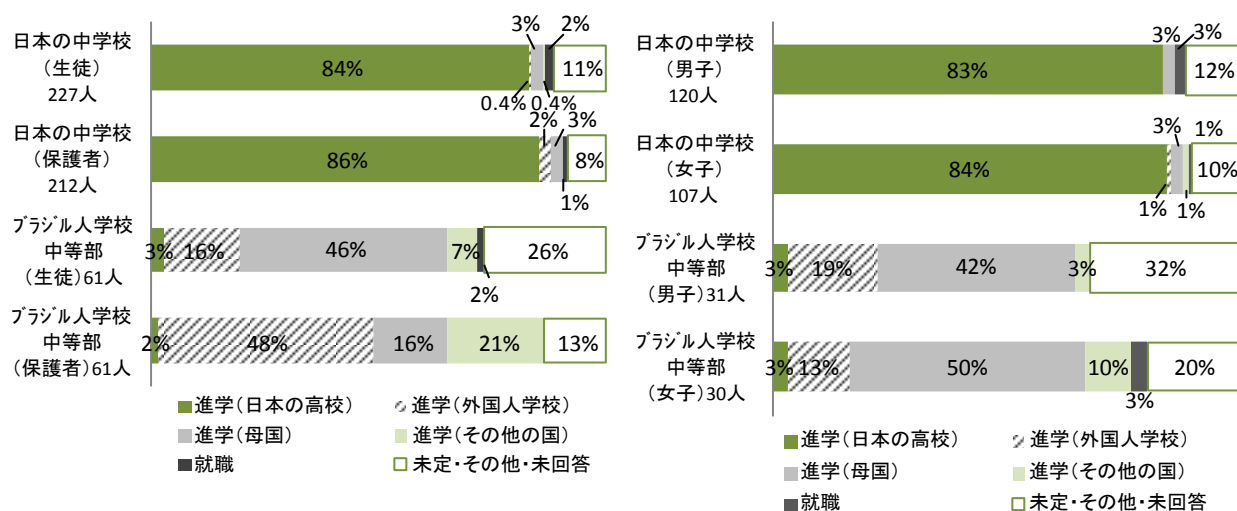


### 【2-2】将来日本で生活する予定ですか（日本で生活してほしいですか）。

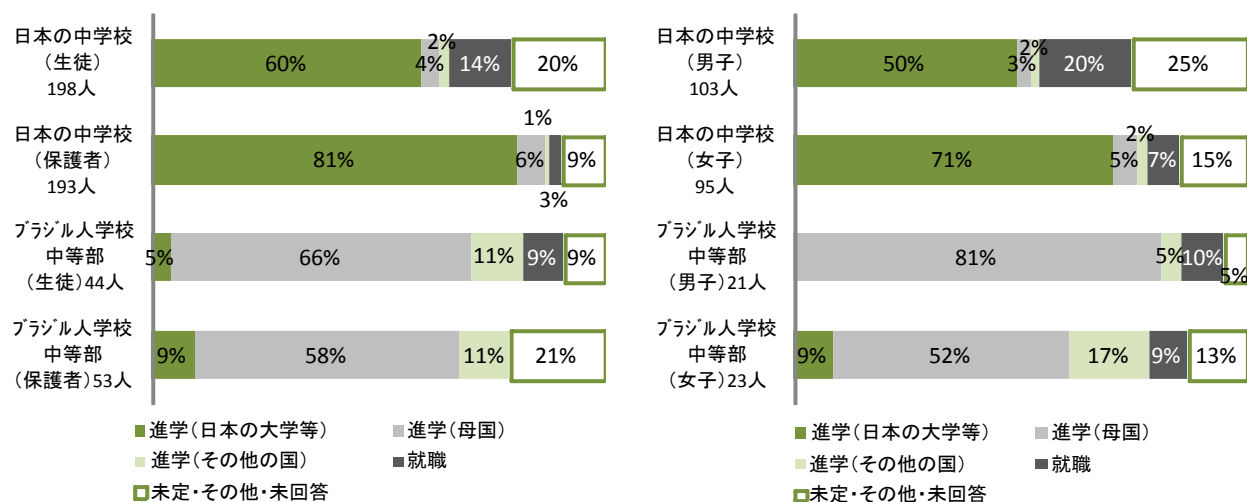


## 3. 卒業後の進路希望

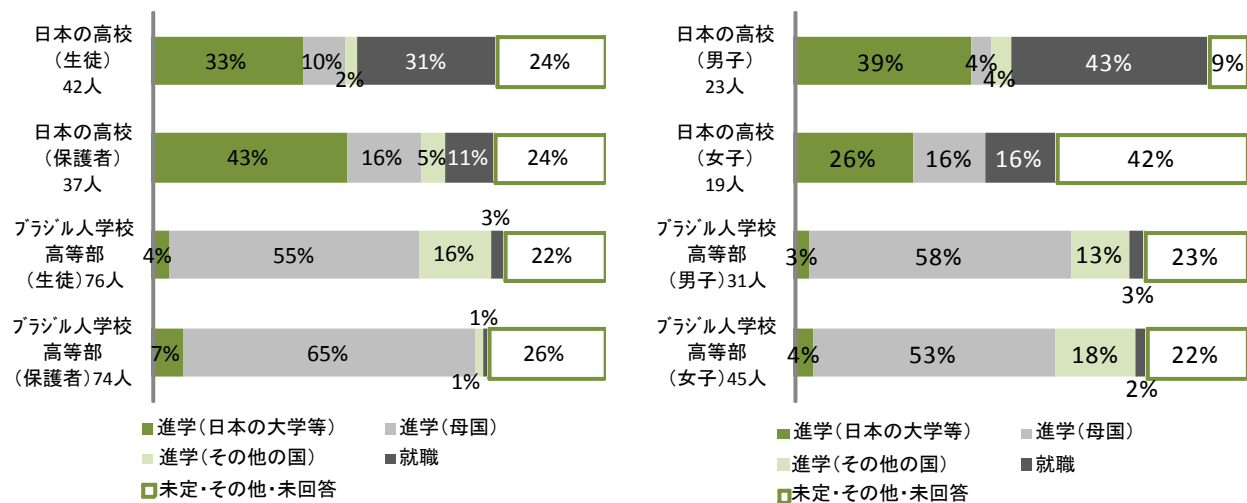
### 【3-1】中学校卒業後の進路希望は。（日本の中学校・ブラジル人学校中等部）



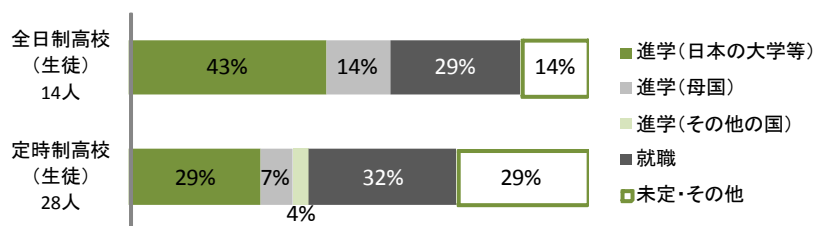
【３－２】高校等卒業後の進路希望は。（【３－１】の「進学希望者」）



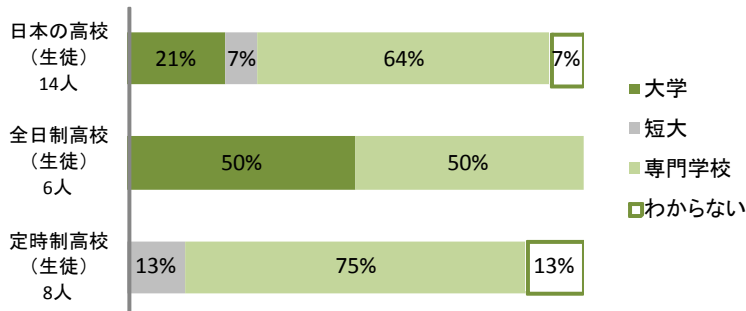
【３－３】卒業後の進路希望は。（日本の高校・ブラジル人学校高等部）



【３－４】卒業後の進路希望は。（全日制高校・定時制高校）



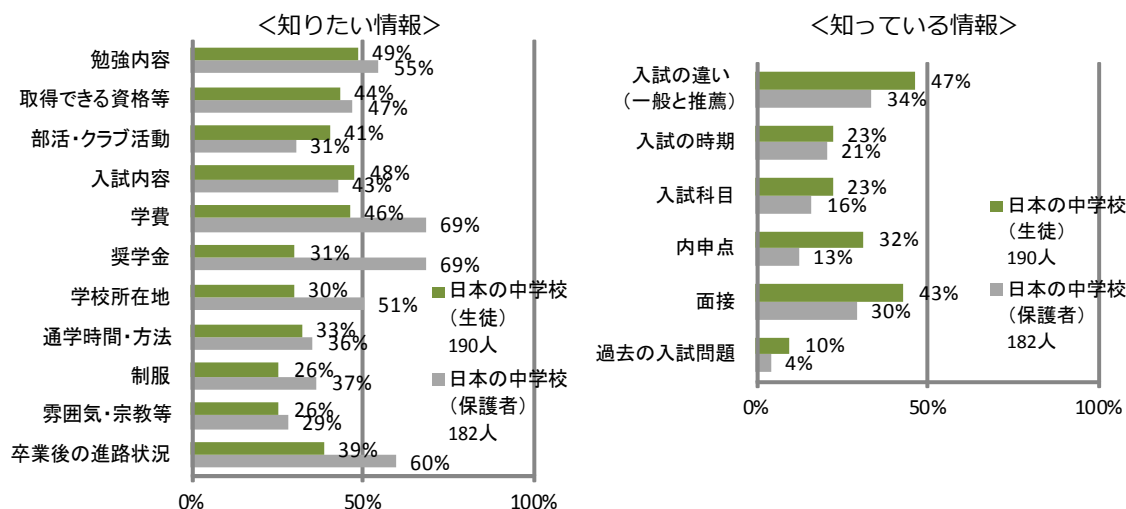
【３－５】進学先の希望は。（【３－３】の「日本の大学等への進学希望者」）



## 4. 進学に関して得ている、必要とする情報

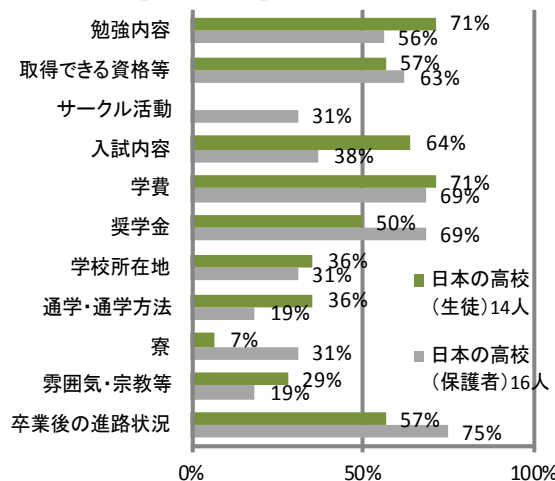
【4-1】日本の高校への進学に関して知りたい情報や、高校入試に関して今知っている情報は。

〔複数回答〕（日本の中学校の生徒・保護者のうち、「日本の高校への進学希望者」）



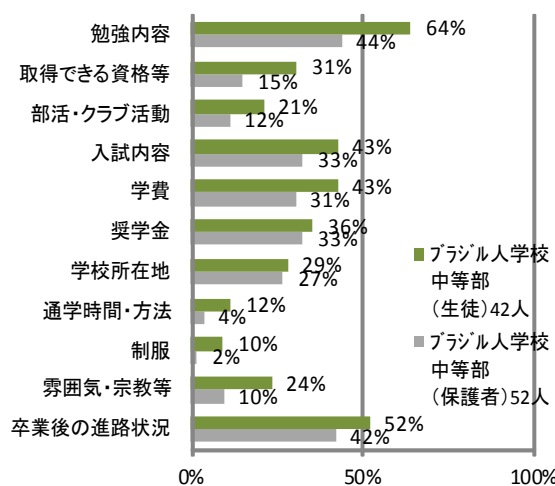
【4-2】日本の大学等への進学に関して知りたい情報は。

〔複数回答〕（日本の高校の生徒・保護者のうち、「日本の大学等への進学希望者」）

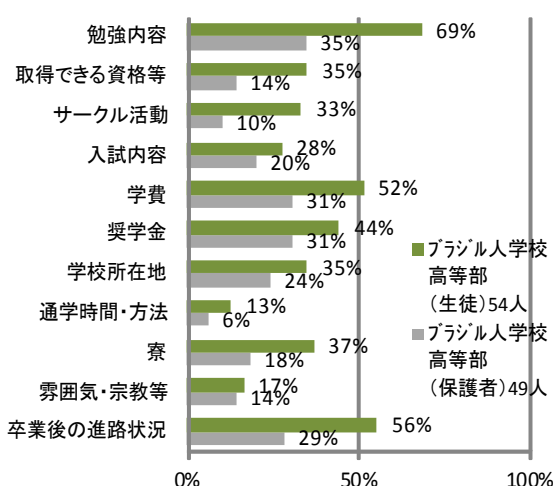


【4-3】国内の外国人学校、国外の学校への進学に関して知りたい情報は。〔複数回答〕

（ブラジル人学校中等部の生徒、保護者のうち、「日本の高校以外への進学希望者」）



（ブラジル人学校高等部の生徒、保護者のうち、「日本の大学等以外への進学希望者」）

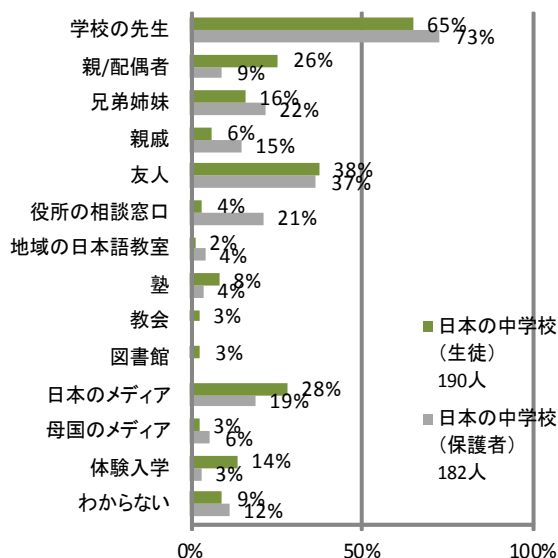




## 5. 進学に関する情報の入手方法

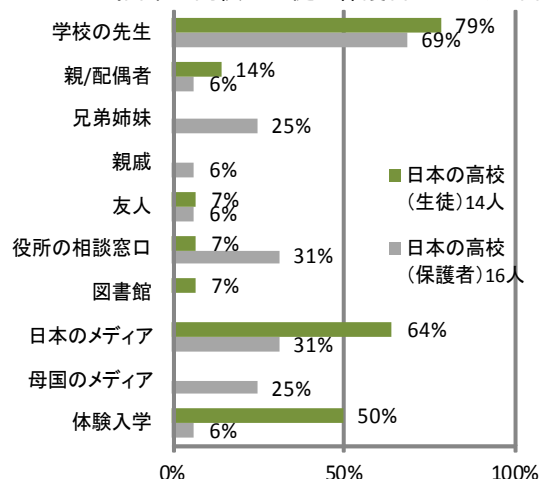
### 【5-1】日本の高校への進学に関する情報をだれに聞きますか。[複数回答]

(日本の中学校の生徒・保護者のうち、「日本の高校への進学希望者」)



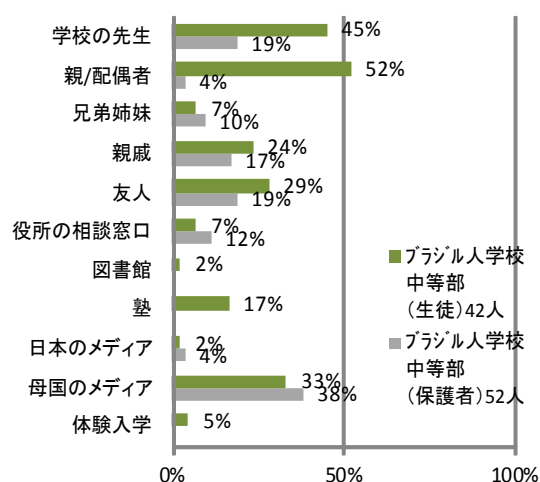
### 【5-2】日本の大学等への進学に関する情報をだれに聞きますか。[複数回答]

(日本の高校の生徒・保護者のうち、「日本の高校への進学希望者」)

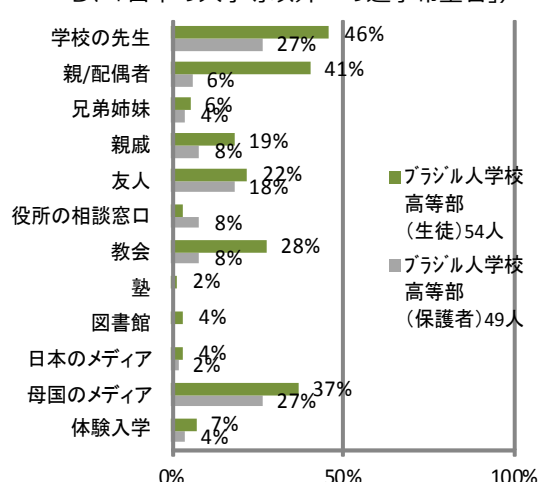


### 【5-3】国内の外国人学校、国外の学校への進学に関する情報をだれに聞きますか。[複数回答]

(ブラジル人学校中等部の生徒、保護者のうち、「日本の高校以外への進学希望者」)

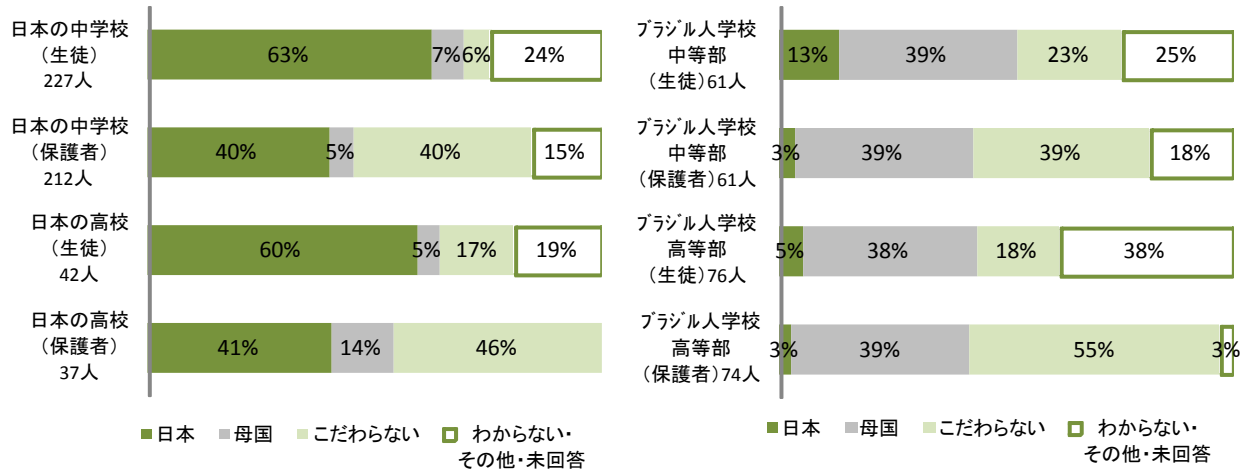


(ブラジル人学校高等部の生徒、保護者のうち、「日本の大学等以外への進学希望者」)

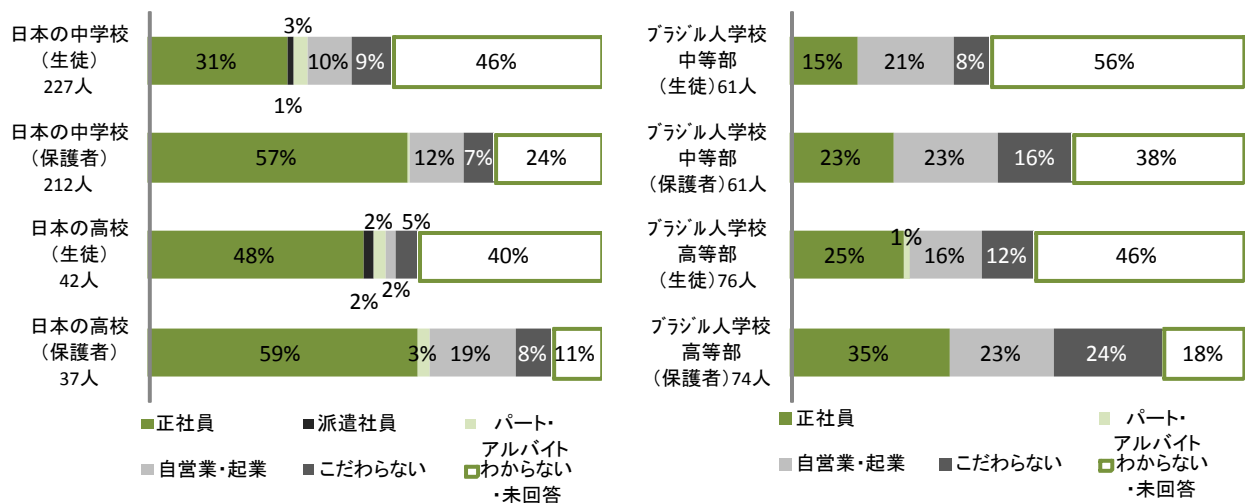


## 6. 将来の仕事に対する考え

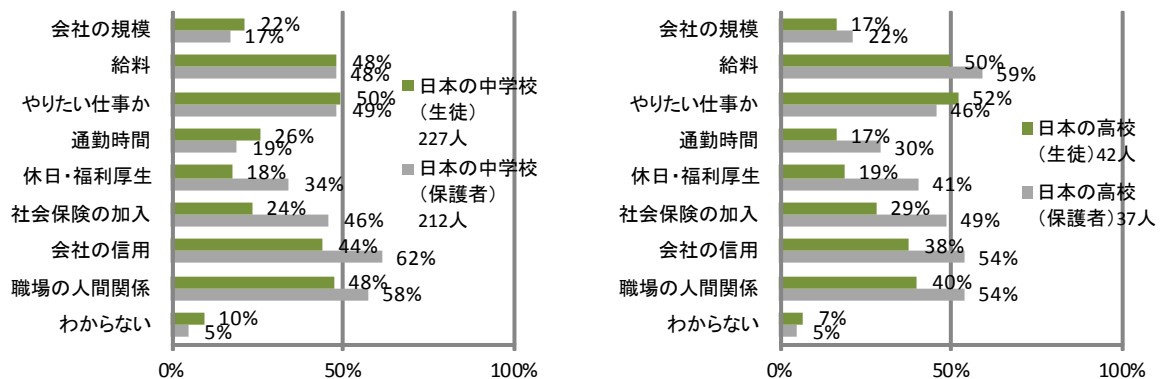
### 【6-1】どこの国で仕事がしたい（仕事をしてほしい）ですか。



### 【6-2】どんな働き方がしたい（働き方をしてほしい）ですか。

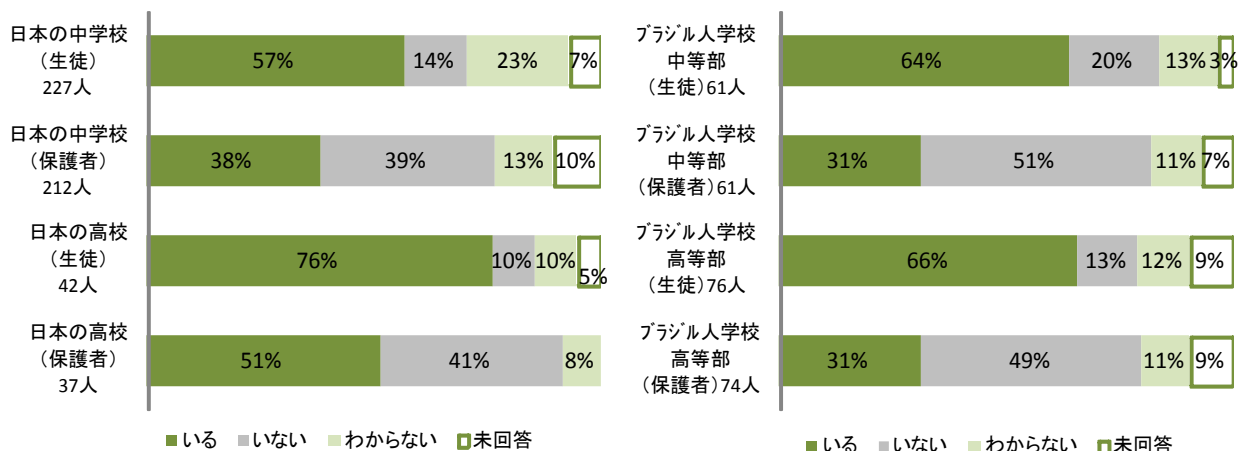


### 【6-3】仕事をする上で大切だと思うことは何ですか。〔複数回答〕

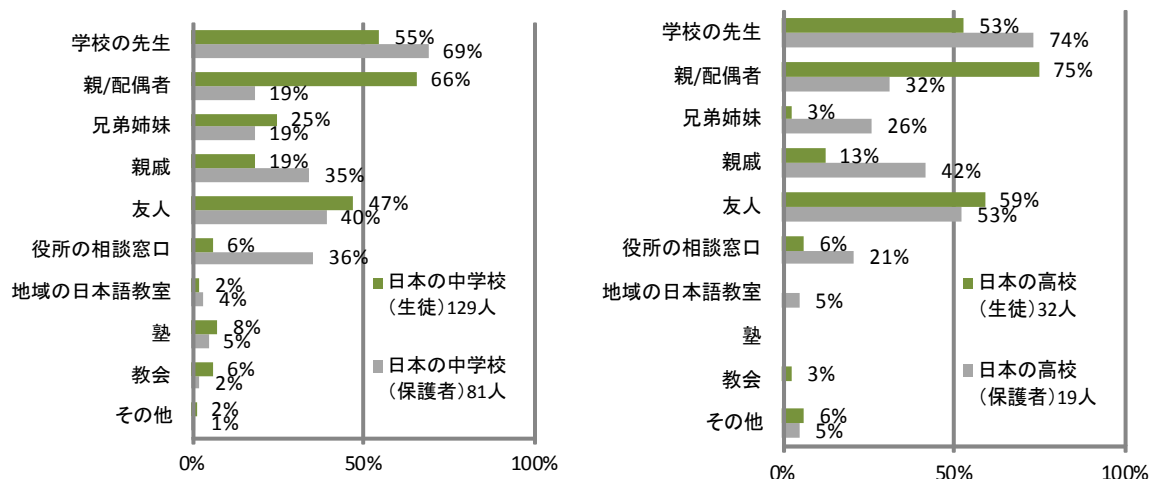


## 7. 相談相手

### 【7-1】相談できる人がいますか。



### 【7-2】(相談できる人がいる人は) だれに相談できますか。[複数回答]



【自由記述】将来勉強したいこと、なりたいもの、やりたい仕事など、夢はありますか。  
夢のために、今準備していること、これから準備したいと思っていることは何ですか。

①日本の中学校の生徒より（一部を抜粋して紹介）

| 将来の夢                                                    | 準備している（準備したい）こと                                                           |
|---------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 通訳になりたい。                                                | 英語とフィリピン語を忘れないように、英語とフィリピン語の本を読んでいる。                                      |
| 英語を勉強して、いろいろな国に行ってみたい。                                  | 英語の勉強を頑張って、いい成績をとれるようにしたい。                                                |
| 日本語とポルトガル語が話せるので、英語も頑張って話せるようにし、それらの事と関わる仕事がしたい。        | 中学校を卒業したら、英語教室などに通いたい。                                                    |
| 兄がいて、二人も高校に通うと金銭的にたいへんなので、アルバイトをしながら学校に通いたい。            | 国際関係の仕事につきたいので、日本語や外国語を勉強していきたい。                                          |
| 日本語、スペイン語、ポルトガル語、英語の通訳をすることで、人の役に立ちたい。                  | 今、自分が話せる日本語、スペイン語をしっかりと勉強しながら、英語とポルトガル語を理解する。まずは、日本語とスペイン語、それぞれの文化について学ぶ。 |
| 具体的にまだ決めていないが、旅行や、英語を中心に使うような仕事がいい。                     | 英検を受ける。英語をペラペラにする。ポルトガル語も忘れない。日・ポ・英語以外に、いろいろな言語を覚える。                      |
| 小さな頃から歌うことが大好きなので、歌手になりたい。                              | ボイストレーニング教室などに通いたい。作詞、作曲の勉強もしていきたい。                                       |
| 歌手になりたい。                                                | 歌をうまく歌えるようになって、音楽関係のことを勉強して、日本を代表する歌手になる。                                 |
| 絵を描く人になりたい。                                             | 今、絵を描く勉強をしている。                                                            |
| 漫画家になりたい。                                               | 今は絵の練習や漫画の描き方の勉強などをしている。                                                  |
| アメリカの芸能界へ出て、歌手になりたい。ユニセフ活動もしたい。                         | 苦手な勉強をする。専門学校卒業後、アメリカに行けるかどうか。                                            |
| 音楽とコンピュータが好きで、二つ一緒にやれる仕事がしたい。コンピュータで作曲し、いろんな人に曲を聞いてほしい。 | ギターの練習をして、コンピュータのしくみ、使い方をもっと調べて、少しでも夢に近づきたい。                              |
| パティシエールになりたい。                                           | 専門学校で勉強をしたい。                                                              |
| エステのことを勉強したい。                                           | たくさん勉強をしている。エステのことを検索している。                                                |
| 美容師になりたいので、高校卒業後、専門学校に通いたい。専門学校へつながる高校に行きたい。            | まずは、高校に行くために勉強に精一杯取り組みたい。高校に行ったら次は、専門学校に行くための勉強をしていきたい。                   |
| 美容師になりたい。                                               | まずは普通の高校に行って、専門から美容に関することを学びたい。                                           |
| いい将来を持ちたい。美容院の仕事とエステの仕事もしたい。                            | たくさん勉強をして、よく働く人、勤勉な人になりたい。                                                |
| 子どもの世話をする仕事に就きたい。                                       | ピアノを弾けるようにすること。保育士について勉強すること。                                             |
| 幼稚園の先生になりたい。                                            | 幼稚園の先生になるために、いろんな情報を集めたり、どの学校がいいか調べている。                                   |
| 動物関係、ブリーダーや獣医などの仕事に就きたい。                                | ペットに関する本や、ビデオをよく借りている。                                                    |
| 天文学。                                                    | 理科系の高校に入って勉強したい。                                                          |
| 心理学を勉強して、心理学者やプロファイラーになりたい。調理師にもなりたい。                   | 自分の進みたい将来にちゃんと合っている学校に進学したい。まずはいい学校を探している。                                |
| 自動車整備士などの車関係で働きたい。                                      | 理科や数学などの受験の勉強に励んでみたい。                                                     |

|                                                               |                                                                               |
|---------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 車の関係で働きたい。                                                    | 車について勉強している。                                                                  |
| モデルにもなりたけれど、機械類の仕事もしたい。                                       | 勉強をいっぱいして頭をよくする。                                                              |
| バレーボールの選手になりたい。                                               | 部活でがんばっている。                                                                   |
| ブラジルでサッカー選手になりたい。                                             | 部活でサッカーをしたり、父とサッカーの練習もしている。サッカースクールに行きたい。                                     |
| 弁護士になるために、いろいろな勉強をして、夢を叶え、親を喜ばせたい。                            | 法学部のある大学を調べ、偏差値など、入試対策をしたい。                                                   |
| 自分のお店や会社を持つか、大きい会社の社員になりたい。                                   | 目的を叶えるように頑張っている。将来は兄弟や両親を助けてあげたい。                                             |
| 人に喜ばれる仕事をしたい。各国ボランティアなどにもたくさん参加したい。                           | —                                                                             |
| 貧しい国に行って、ボランティアをする。                                           | 英語を覚えたい。                                                                      |
| —                                                             | 学校を修了して、お父さんたちが自分にしてくれたサポートに応えたい。                                             |
| 歌手とヘアスタイリストとスタイリストになりたい。                                      | 授業で英語、数学、理科と音楽を頑張っている。家で歌を歌ったり、土日にヘアスタイルの練習をしている。スタイリストに必要なイメージを作るようなこともしている。 |
| バレーボール選手になりたい。みんなを勇気づけたい。美容師にもなりたい。髪を切り新たな気持ちでお客さんがいけるようにしたい。 | 部活でバレー部に入り、しっかり勉強し、バレーボールの選手になれるよう努力している。美容師では大学か専門学校に行って勉強したい。               |

## ②日本の高校の生徒より（一部を抜粋して紹介）

| 将来の夢                                                                | 準備している（準備したい）こと                                            |
|---------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 英語を勉強して通訳者になりたい。                                                    | 英語の発音やしゃべり方の勉強。                                            |
| 翻訳者になりたい。                                                           | 英語をたくさん勉強する。                                               |
| 将来日本に住むかブラジルに帰国するのかわからないが、どこにいても働けるように仕事につきたい。貿易関係の仕事や企業の通訳として働きたい。 | 今から母国語であるポルトガル語、そして日本語、英語、スペイン語をしっかりと学びたい。                 |
| 通訳の仕事をしたい。外国語が学べる大学に行きながら働きたい。                                      | 分からない言葉を辞書などで調べたりしている。                                     |
| 日本とブラジルがもっと繋がることのできる仕事につきたい。                                        | 日本語能力試験 2 級と英検 3 級を受けた。                                    |
| 漫画家になりたい。                                                           | 専門学校に入って勉強したい。                                             |
| 専門学校で作家を勉強し、デビューして人気作家になりたい。                                        | 書きたい作品の内容をいくつか考えたい。いいものがあれば、新人賞などを出す。専門学校の入学金や学費のためのアルバイト。 |
| パティシエになりたい。                                                         | できるだけお菓子を作っている。                                            |
| 英語担当の教師になってみたい。                                                     | 働いてお金を貯めながら、少しずつ勉強も進めて、大学に入学したい。                           |
| 医者になって人の命を助けたい。                                                     | 手術系のテレビ番組を必ず見るようにしている。薬の名前は結構わかるし、医療系は自分なりに学んでいる。          |
| 動物学について勉強したい。                                                       | ブラジルに帰って、大学に入りたい。                                          |
| 情報の勉強をして、システムエンジニアになりたい。                                            | 大学に入るためのセンター試験などの準備。                                       |

|                                |                                           |
|--------------------------------|-------------------------------------------|
| 大学はアメリカに行ってスケート選手になりたい。        | 英語を勉強していてスケートの練習もしている。                    |
| 裁判官になりたい。大学で法律の勉強をしたい。         | 一生懸命勉強して働けば、神様がつかっているから、自分は何んでもできると信じている。 |
| 料理やパソコン、旅行が好きなので、関連性する仕事に就きたい。 | 資格をとったり、自主勉強をしている。                        |
| 働きながら勉強することは考えていない。いい仕事を見つけない。 | 会社に入って、正社員になって、生活を安定させたい。                 |
| 勉強していい仕事につきたい。                 | 日本語を勉強してもっと話せるようになりたい。                    |

### ③ブラジル人学校中等部の生徒より（一部を抜粋して紹介）

| 将来の夢                                | 準備している（準備したい）こと                                      |
|-------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 輸出に関係する仕事や、ジャーナリストになりたい。            | たくさん勉強して、いい成績をとり、情報を探す。                              |
| 宝石デザイナーになりたいが、だめでもいい仕事につきたい。        | 宝石デザインが好きで、時間があるときにいつもデザインを描いている。                    |
| DJになりたい。                            | 今はダブステップをやっている。音楽と踊りが好き。                             |
| 勉強して体育の先生になりたい。                     | スポーツのことを勉強して、いろんなことを知りたい。                            |
| 他の国で獣医の大学に入り、獣医になって自分のペットショップを持ちたい。 | 英語の勉強を2年間している。大学に入るための交流をしたい。ブラジルとアメリカ、カナダの大学を調べている。 |
| 医学の勉強をしたい。自分と人のためになるから。             | 医学の大学に入ってたくさん勉強したい。                                  |
| 生物を勉強して、生物学者になりたい。                  | たくさん勉強をして、有名な生物学者になりたい。                              |
| 車のデザインをするのが好きなので、そういう仕事がしたい。        | 将来使うために、今、絵を描いている。                                   |
| いい大学を出ていい給料をもらいたい。                  | 勉強をして、いい大学を卒業をして、いい仕事につきたい。                          |
| 尊敬される人になりたい。                        | 勉強して奨学金をもらえるようにしたい。                                  |
| 歯科医かバスケの選手になりたい。                    | 勉強をして歯医者になって、バスケの練習もしたい。                             |

### ④ブラジル人学校高等部の生徒より（一部を抜粋して紹介）

| 将来の夢                                                               | 準備している（準備したい）こと                                                                              |
|--------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高校を卒業したら大学に行って、留学をしたい。カナダ、韓国、アメリカの国へ。                              | 留学や進学のために、心とお金の準備が必要。                                                                        |
| 自分がやりたいこと、何になりたいかをはっきりと決めて、勉強の基礎を固める必要がある。国際関係論、システム工学につながる勉強をしたい。 | 今一番大事なことは、勉強に集中して、いい成績をとって、仕事につながる勉強はどんなものがあるかを調べる。調べてやりたいことが分かったら、目標が決まる。一番いいのは、好きなことをすること。 |
| 踊りの勉強をして、ニューヨークにあるバレエ団に入り、有名なバレリーナになりたい。                           | 英語を勉強しているので、アメリカでバレエを教えたい。                                                                   |
| ファッション関係で働きたい。大好きな経験をして、生活も自分で稼いで、何も困らないようにしたい。                    | 大学に入って、海外の専門コース、絵に関するコースと情報科学のコースにいきたい。                                                      |
| グラフィックデザインか芸術に関する仕事に就きたい。                                          | 入試の情報をいろいろ探している。                                                                             |
| 美容師になるための勉強をしながら、仕事をしてお金をためて、自分のサロンを開きたい。                          | 仕事をしながら、勉強を最後までしたい。                                                                          |



|                                                      |                                                               |
|------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| 体育の勉強をして、体育教師かトレーナーになりたい。                            | 体育大学に入れるように、勉強を準備したい。                                         |
| 動物が好きなので、動物関係の仕事がしたい。                                | インターネットや本で、動物のことを調べている。                                       |
| 歴史の勉強をして、その分野の仕事をしたい。                                | いろいろ調べたい。その仕事をしている人と話をしたい。                                    |
| ブラジルに帰って文学、そしてそれから心理学を勉強したい。                         | 成績を上げて、ブラジルに帰り、必要であればいい仕事につきたい。                               |
| 土木技師や建築家になりたい。外国の言葉も好き。作家、音楽のことも好き。                  | 好きなことの勉強をいろいろしている。自分のレベルを上げるために、いろいろな経験を積んでいる。                |
| エンジニアになりたい。                                          | 大学に入る前に自分が何をしたいか決めるためにも、たくさん勉強をしたい。                           |
| 情報科学の勉強をしてゲームをデザインしたい。大きな会社に入りたい。                    | 情報科学を学べる大学の場所、給料などを調べている。                                     |
| 建築学科に入って建築事務所に入りたい。                                  | 今考えているのは、高校が終わったら、いつどのようにブラジルに帰るのか。                           |
| 大学が終わったら起業して経営者になりたい。                                | たくさん勉強して、いい大学に入り、自分でビジネスをしたい。                                 |
| 経済学か弁護士か会社経営の勉強がしたい。                                 | 今は勉強をしている。働いて自分の国（ブラジル）に帰りたい。                                 |
| 料理で自分のレストランを開きたい。                                    | 自分の仕事をして、大学に行き、自分のレストランを開くこと。                                 |
| 高校を卒業して、大学に行き、気に入ったいい仕事でいい給料を稼ぎたい。                   | 入試に合格するために、予備校に行く。                                            |
| 法律学か言語学を勉強したい。                                       | ブラジルで勉強するために、お金を貯める。そしてブラジルで入試を受けるための準備をする。国公立大学に行きたい。無理なら私立。 |
| ホテルの勉強をして、クルーザーで働きたい。                                | 英語を勉強して上手になって、クルーザーの中のバーテンダーの勉強をしたい。                          |
| 情報科学かメイクの仕事。今はブラジル人が経営しているコンピュータの事務所で研修していて、気に入っている。 | 授業後、事務所で研修をしている。メイクの方に行くなら、学校が終了してから始めないといけない。                |

【自由記述】これから高校進学を目指す子どもたちに、あなたの経験から何かアドバイスできること。  
(日本の高校及びブラジル人学校高等部の生徒より：一部を抜粋して紹介)

#### ①夢や進路選択へのアドバイス

夢を叶える努力をしてほしい。勉強はすごく大切だとわかってほしい。だって、将来何かになりたかったら、勉強するしか、道はないでしょ。

選んだことが正しいかどうか、よく考えてほしい。やる気をもって勉強して。そこにあなたが人生において必要なことが全てある。

あきらめないで頑張ること。トップを本気で目指す人は、人生でうまくやっていくことができる。きちんと仕事をしたら、いい生活ができる。

大学に入りたいなら勉強に集中することが一番いい。講座とか、何か他の活動をすることもいい。

やりたい勉強、本当に好きなことを選んで。

勉強を続けて夢をあきらめないで闘う人は、常に勝つことができる。

もし将来に夢があったら、高校を適当に選ばず、その将来に関係する高校を選んで。

#### ②高校入試へのアドバイス

高校に入ることは、とてもいいことだと思う。もっと勉強もできるし、友達も増える。就職をするためにも、とてもいいと思う。得ることが多いので、高校に入って。

面接時や通常の学校では、服装に気をつけること。入試の勉強をしっかりとやること。

ブラジルでは高校入試がないけれど、日本では高校入試があるので、小学校6年生からきちんと勉強して。教育が一番のプレゼント。なぜなら、一生使えるから。

#### ③勉強へのアドバイス

とにかく勉強に取り組んでほしい。基礎をしっかりと勉強すれば、応用することは容易。

勉強をちゃんとして、学校を欠席しないこと。そうすれば、先生や友達にも認められて、勉強をしっかりとすることができる。

授業中で分からないことがあったら、すぐに聞きに行くか、メモして後でまとめて聞くことは大切なこと。

頭が良くなくても、資格をたくさん取ったり、授業で発言すると、成績が上がると思う。

勉強はちゃんとやっておいた方がいいと思う。後で後悔するよ。

小学校のころから、勉強をがんばれ！ゲームやマンガで遊ぶのは良いけど、遊ぶ前の一時間くらい前に勉強したら、成績が上がるよ。

【自由記述】これから高校進学を目指す子どもや保護者に、あなたの経験からアドバイスできること。  
(日本の高校及びブラジル人学校高等部の生徒の保護者より：一部を抜粋して紹介)

#### ①子どもに向けて

子どもたちには、諦めてほしくない。やり始めたことは最後までやり通してほしい。

やる気をもって勉強を続ければ、いい将来につながっていく。

勉強はいろいろなことを知るためにとても大切。将来のためにチャンスがあれば掴んでほしい。

ちゃんと勉強をして、先生の言うことを聞いて。そうすることで、わかることが増える。

#### ②保護者に向けて

子どもが行きたい高校に入れば、成績も上がるので、行きたい高校に行かせて。

高校に入るのは難しいけれど、私たちが前もって情報をもらって、子どもを不安にさせないようにしたい。

子どもには刺激を与え、勉強へのモチベーションが上がるようにしている。私たちとは違う将来を歩いてほしい。

会合に参加して、先生か学校の校長先生と話す。

勉強をがんばっていい将来を迎えるためにアドバイスをしてほしい。

子どもが必要なことを全部サポートして子どもの隣にいつもいて、いつも悩みを聞くことが大切。

勉強できるように励ましてあげて。

親は大人になる前の大切な時期だから、子どもの考えていることや、学校の人間関係や、勉強していることをよく見た方がいい。

## 第2章 日本の若者の就職・雇用状況

### A. 若者たちをめぐる雇用の現状

第1章「外国につながる子ども・保護者へのアンケート調査」によれば、日本の中学校に通う子どもの保護者が「高校進学に向けて知りたい情報」のうち、高い割合を占めていたものの一つが「高校卒業後の進路状況」でした。

また、日本の高校に進学した子どもたちの「卒業後の進学先」の希望は、「大学・短大」が28%、「専門学校」が64%でした。こうした声を踏まえ、高校を選ぶ際には、卒業後の進路も視野に入れて考えていくことが求められます。

#### 就職者の中心は高卒から大卒へ

進学や就職はその時々々の経済や社会の動きに大きく左右されますが、バブル経済崩壊以降、一時の持ち直しはあったものの、若者の就職難は続いています。

表①はここ10年間の各学校種別の新卒の就職者数をまとめたものですが、2011年3月卒で最も多いのは大卒で34.0万人、高卒（通信制除く）17.2万人、専修学校専門課程（以下「専門学校」）卒16.4万人、短大卒4.6万人となっており、中卒は0.4万人にとどまっています。

ちなみにバブル経済当時の1991年3月卒では、新卒就職者で最も多かったのは高卒で

60.7万人、大卒は34.8万人でした。ここ20年間で高卒就職者数が激減したことがうかがわれます。

厚生労働省「就職内定状況調査」で高卒新卒への3月末時点での求人倍率を見ると、1992年3月卒の3.34倍を最高に、それ以降は減少傾向が続き、2011年3月卒は1.24倍となりました。

こうした高校生の就職難を背景に増加しているのが、大学や短大、専門学校への進学です。表②で2011年3月卒の高校卒業者の進路状況を見ると、大学等への進学率は53.9%。専門学校への進学を合わせると70.1%に達しています。

表① 学歴別の就職者数 □文部科学省「学校基本調査」より (人)

| 学歴 \ 卒業年度 | 2001.3卒 | 2006.3卒 | 2007.3卒 | 2008.3卒 | 2009.3卒 | 2010.3卒 | 2011.3卒 |
|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 中卒        | 13,168  | 7,573   | 7,777   | 7,331   | 5,777   | 4,979   | 4,106   |
| 高卒（通信制除く） | 240,176 | 208,815 | 211,108 | 205,328 | 192,361 | 167,370 | 172,323 |
| 大卒        | 312,450 | 355,778 | 377,734 | 388,417 | 382,434 | 329,132 | 340,143 |
| 短大卒       | 92,661  | 67,476  | 64,623  | 60,413  | 54,585  | 46,722  | 45,580  |
| 学歴 \ 卒業年度 | 2000年度間 | 2005年度間 | 2006年度間 | 2007年度間 | 2008年度間 | 2009年度間 | 2010年度間 |
| 高卒（通信制）   | 7,575   | 7,136   | 6,827   | 7,443   | 6,695   | 5,971   | 5,919   |
| 専門学校卒     | 206,150 | 227,413 | 224,003 | 211,297 | 189,106 | 166,584 | 164,185 |

表② 高校卒業後（通信制除く）の進路 □文部科学省 平成23年度「学校基本調査」より

| 進路先            | 人数      | 割合（%） |
|----------------|---------|-------|
| 大学等進学者数        | 571,797 | 53.9  |
| 専修学校（専門課程）進学者  | 172,032 | 16.2  |
| 専修学校（一般課程）等入学者 | 66,328  | 6.2   |
| 公共職業能力開発施設等入学者 | 6,897   | 0.6   |
| 就職者            | 172,323 | 16.2  |
| 一時的な仕事に就いた者    | 14,994  | 1.4   |
| その他            | 57,193  | 5.4   |

2011年3月卒 計1,061,564人

## 大卒・短大卒・専門学校卒の就職

### ＜大学・短大卒＞

表③で2011年3月卒の大学、短大卒業者の進路状況を見ると、大卒は大学院などへの進学者が12.8%、就職者は61.6%となっています。一方、短大は進学者が11.1%、就職者は68.2%です。

大学や短大では、幅広い教養と高度な専門教育を受けることができます。そのことで将来への可能性は大きく広がり、選べる仕事も増えていきます。特に医師や薬剤師、獣医師、学校の先生などを目指す場合には大学で各分野の専門教育を受けなければなりません。一方、大学・短大ではサークル活動やボランティア、海外留学などの様々な授業外活動を通して、人間性や社会性を磨くことができます。第5章の「夢を叶えた先輩から学ぶ」には「大学進学で人間的に成長できた」との声がよく読み取れます。

一方で、大卒の19.4%、短大卒の17.7%が「一時的な仕事に就いた者」あるいは「上記以外の者」となっています。大学生の就職活動については、「早期から活発に活動する人とそうでない人」「企業からの内定が多数得られる人と得られない人」の「二極分化」が指摘されています。単に大学や短大に入れば将来が保障されるわけではなく、将来意識を持ちながら「勉強や経験」を積み上げていくことが大切になります。

表③ 大学、短大の卒業生の進路(2011年3月卒)

□文部科学省 平成23年度「学校基本調査」より 人(%)

|                | 大学             | 短大            |
|----------------|----------------|---------------|
| 計              | 552,358        | 66,871        |
| 進学者            | 70,465 (12.8)  | 7,451 (11.1)  |
| 就職者            | 340,143 (61.6) | 45,580 (68.2) |
| 臨床研修医          | 8,923 (1.6)    | 0 (0.0)       |
| 専修学校・外国の学校等入学者 | 12,192 (2.2)   | 1,488 (2.2)   |
| 一時的な仕事に就いた者    | 19,107 (3.5)   | 3,208 (4.8)   |
| 上記以外の者         | 88,007 (15.9)  | 8,642 (12.9)  |
| 死亡・不詳の者        | 13,521 (2.4)   | 502 (0.8)     |

### ＜専門学校卒＞

専門学校は、職業に関する知識を学ぶことが目的とされており、卒業後の進路もある程度方向づけられます。表④にもあるように、就職率も75.4%と高い割合となっています。

各分野別で、就職者の割合と関連分野に就職した人の割合をみると、特に「医療」「衛生」「教育・社会福祉」分野は就職者数の割合が多く、専門性を生かした就職が行われています。一方、「服飾・家政」は就職する人の割合が50%台と厳しい状況ですが、「関係分野に就職した割合」は高くなっています。

表④ 専門学校の分野と関連分野への就職

□文部科学省 平成23年度「学校基本調査」より (%)

| 分野        | 卒業者のうち、就職した者の割合 | 就職者のうち、関係分野に就職した割合 |      |
|-----------|-----------------|--------------------|------|
|           |                 | 男                  | 女    |
| 計         | 75.4            | 89.9               | 94.3 |
| 工業関係      | 72.9            | 87.3               | 86.2 |
| 農業関係      | 74.3            | 91.3               | 87.2 |
| 医療関係      | 87.6            | 97.4               | 99.1 |
| 衛生関係      | 84.7            | 97.2               | 96.6 |
| 教育・社会福祉関係 | 87.2            | 97.2               | 97.6 |
| 商業実務関係    | 72.7            | 83.9               | 91.0 |
| 服飾・家政関係   | 54.7            | 94.4               | 93.9 |
| 文化・教養関係   | 55.5            | 77.9               | 83.1 |

### 新卒は人生最大のチャンス

日本の企業などでは、新しく高校や大学・短大・専門学校を卒業した若者を一括して採用するシステムがあります。

日本の企業に就職を希望する場合、あらゆる年齢を通じて、新卒を対象にした求人が最も多く、就職希望者にとっては人生最大のチャンスと言えます。

近年は中途採用や通年採用などを行う企業も出てきましたが、大多数の企業はまだまだ、新卒一括採用を基本としています。

こうした新卒一括採用に対応して、高校(専門学科など)や大学・短大・専門学校では、企業からの求人の紹介や実際の就職試験への対策など、手厚い就職支援を整えています。



## B. 産業構造からみた仕事・職種の現状

### 「モノづくり」から「サービス」へ

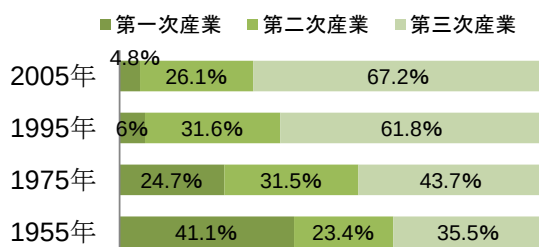
第一次産業（農林漁業）や第二次産業（製造業など）の就業者は減少傾向にあり、2005年におけるその割合は、それぞれ 4.8%、26.1%となっています（図①）。

代わって増加し続けているのは第三次産業（サービス業、運輸・通信業、不動産業、金融・保険業、卸・小売業など）です。これらは日本経済の主力産業がハード（モノづくり）からソフト（サービス中心）へと転換してきたことを示すものです。

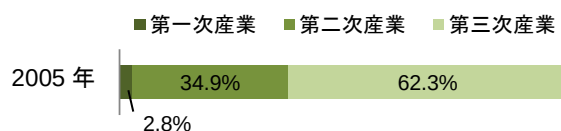
このような産業構造の変化は、職業従事者の構成にも大きく影響しています。総務省「国勢調査」によれば、一貫して増えているのは「専門的・技術的職業従事者」、「サービス職業従事者」です。対して「生産工程・労務作業者」（ものづくりの現場で働く技能者など）は、1990年代以降は減少傾向にあります。ここに、企業が高卒から大卒・短大卒・専門学校卒へと新卒採用をシフトさせていった一つの背景があります。

ただし、愛知県の就業者の割合は、2005年度において、第一次産業 2.8%、第二次産業 34.9%、第三次産業 62.3%となっています（図②）。これは県内には輸送用機器などを中心とした「ものづくり」の企業が多いことによるものです。こうした産業構造によって、例えば後から見ていくように、高校新卒者への製造業からの求人が全国的に見ても多いという特徴があります。

図① 産業別就業者の構成（全国） □ 総務省「国勢調査」



図② 産業別就業者の構成（愛知県） □ 総務省「国勢調査」



### 若者を中心に非正規雇用、増える

近年、「経営の合理化」の一つとして人件費抑制を図るために、正社員の新規採用を抑えたり、正社員からアルバイトやパート、派遣社員や契約社員などの「正社員以外の人（非正規雇用）」を増やしたりする傾向がみられます。そのあおりを受けているのが、若年労働者です。

総務省「労働力調査」によれば、2010年の完全失業者数は15～34歳で134万人。失業率は15～24歳では9.4%と、全ての年齢層で最も高い状況です。また、25～34歳も6.2%となっていました。

こうした15～34歳の「若年層のパート・アルバイトおよびその希望者」は「フリーター」と呼ばれています。2010年平均のフリーターは183万人。うち「パート・アルバイトの雇用者」は159万人に上っています。さらに派遣社員等を合わせた「若年層の非正規の職員・従業員及びその希望者」は313万人で、若年層人口の11.0%となっています。

フリーターは、①正社員への就職が難しくなる（経歴が評価されにくい） ②職業キャリアが積みにくい ③賃金が安い ④福利厚生が不十分 ⑤「雇用の調整弁」となるため、安定した将来設計が築きにくい など様々な課題があります。

例えば賃金を見ると、正社員以外の人とは正社員とは賃金体系が異なるため、長く勤めても給料が上がりにくく、ボーナスや退職金ももらえません。UFJ総合研究所の試算（2004年3月）では、大卒正社員の生涯賃金が2億1,500万円に対し、フリーターは5,200万円。また、福利厚生や年金などについても大きな不利があります。

### 正社員になりにくい中卒・高校中退

外国につながる子どもたちの場合、様々な事情から、中学校を卒業してから働きだす人や高校を中退して働き出す人がしばしば見受けられます。しかし例えば、日本教育学会特別調査研究「若者の教育とキャリア形成に関する研究会」による「若者の教育とキャリア形成に関する調査」によれば、高卒未満の男性の正社員の割合は男性で32.0%、女性で7.1%という結果が出ています。

非常に厳しい雇用環境の中、できれば「高卒資格」を得ることが、様々な職業を選ぶチャ

ンスにつながります。

## C-1. 取材メモから（愛知労働局・名古屋外国人雇用サービスセンター）

### ●愛知労働局

#### 輸送用機器産業主体に高卒の求人多い

愛知県は輸送用機器を中心とした製造業が盛んであり、こうした企業を中心に高卒新卒への求人が堅調に行われてきました。2011年9月現在での高卒新卒者への求人倍率は1.51倍と、他地域に比べて高い割合となっています。業種で最も多いのは製造業（8,616人）、そのうち最多が輸送用機器（3,595人）、以下、医療・福祉（1,760人）となっています。

職種別に見ると最も多いのが「製造・製作の職業」で8,363人。求人全体の半数がものづくりに携わる人です。

地域と業種・職種の関係についてみると、名古屋は企業の本社や支社・支店が集中していることが求人にも反映されているほか、小売業・サービス業からの求人が多い傾向にあります。また三河地域は製造業が主体でものづくりに関する求人が多くあります。

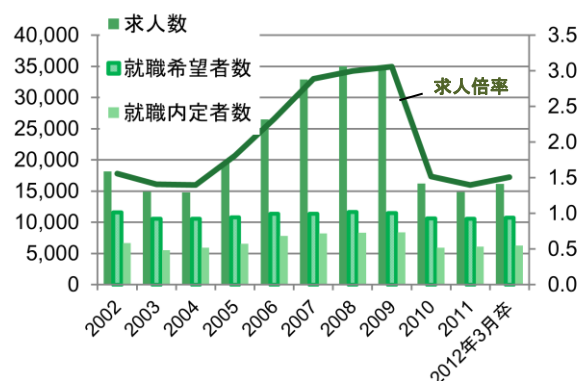
#### 「モノづくり」に高卒就職者

こうした状況を反映し、従来から愛知県の高校生の就職希望者は他地域に比べて多い傾向にあります。例えば2011年9月末段階の愛知県の高校生の就職希望者は10,749人と全国一です。ちなみに東京は5,798人、大阪は7,918人となっています。

高卒新卒で就職希望者が多い背景の一つには、中部地区の製造業を中心とした企業で高卒と大卒の賃金格差がそれほど大きくないことがあります。これまでの年功序列型の賃金体系では、早く入社してきちんと勤めればそれなりに賃金も上昇し、安定した生活を送ることができてきたという経緯があります。

図③ 過去10年間の愛知県の新規高卒者の求人・求職・就職状況の推移（各年9月末現在）

□愛知労働局職業安定部職業安定課調べ



#### 男子と女子で異なる傾向

男女別に高卒予定者の就職希望者数を見ると、2011年9月末は男子6,262人、女子が4,487人でした。男子は「ものづくり」を希望する男子生徒が多く、女子は「事務職や販売職」の希望が多くなっています。

男子の就職希望者は製造業に順当に就職できる人が多いですが、女子が希望する事務職や販売職の求人は非常に少なく、競争率も高く厳しい状況です。企業はかつて、高卒に対しても事務職を採用していました。しかし経営の合理化で採用数自体を減らすとともに、高卒での求人を大卒「総合職」に置き換えていきました。販売職も同様です。

今、代わって求人が増えてきたのが「サービス」、特に介護職が多くなっています。高校生を対象に私たちが行う「就職説明会」には「介護職コーナー」などもあり、近年は女子生徒が施設や職種について熱心に相談する風景もよく見られるようになっていきます。

#### 懸念される「円高と産業の空洞化」

次に愛知県の大学生を見ますと、「地元志向」が非常に強い傾向にあります。また保護者を中心に大手志向も強く、「大手企業に就職でき



なければ就職浪人でも…」と考えてフリーターとなる方も多く見受けられます。

2011 年度の大卒採用は東日本大震災の影響などで、大手企業の選考がずれこみ、中堅・中小企業にも波及してきました。長引く円高で、求人数全体が減ったこともあり、大卒は非常に厳しい状況でした。

今後、懸念されるのは円高の長期化によって製造業の海外移転が進むことで、国内雇用の空洞化が進むことです。これはいずれ、今は堅調な高卒採用にも響いてくることが予想されます。

## 新卒への就職支援

ハローワークでは新卒者の就職支援を進めるため、全都道府県に「新卒応援ハローワーク」を設置しています。また、「学卒ジョブサポーター」を置いて就職支援を行っています。

就職希望者がいる高校に対しては、担当者を決めて漏れなく支援できる体制を取っています。生徒の「いいところ・特性」を把握して、面接の仕方や就職に関するノウハウを保護者も交えて個別に支援します。ご本人さえ意欲を持ち「ぜひ就職したい」と思えば、個別に企業開拓などの支援も行います。

大学生の皆さんにも同様な就職支援を行っています。

また、「ヤング・ジョブあいち」（名古屋市中区栄 中日ビル 12 階）では高校・大学・短大・専門学校などの新卒・既卒の皆さんの就職活動を幅広く支援しています。通信制高校の生徒さんなども幅広く利用していただいています。

## 就職を目指す人たちに

もし日本で長期間生活するのであれば、ぜひ正社員として頑張ってもらいたい。多くの日本企業では、皆さんに「ここで定年までやります」という決意があれば、採用に結びつくと思います。

また、「今ではなく、10 年・20 年後に有望となることが見込まれるところを選ぶ」という視点も大切です。例えば超高齢社会の日本では、介護職は大変、有望な仕事です。

日頃意識したいのは「継続は力なり」ということです。企業がまず見るのは履歴書です。アルバイト歴などでも離転職を繰り返した人よりも、一か所に長期間勤めた人は信頼されます。その逆でやむを得ない理由のない高校中退などは採用されにくいことも覚えていただきたいと思います。

よく、「夢は持ち続けていれば必ず叶う」といいますが、何事も「早めの準備」が必要です。中学生ぐらいから将来、なりたい仕事や興味のある仕事を探しながら、実際にどんな仕事か、社会人に話を聞いてみる方がいいと思います。保護者の皆さんも、「なりたいもの」をお子さんに相談されたら、どうすればその夢が叶えられるのか、お子さんと一緒に考えてほしいですね。

表⑤ 「愛知県の産業・職業別求人状況」

（2012 年 3 月高校卒 求人計 16,189 人）

□愛知労働局調べ

| 産業別           | (%)  |
|---------------|------|
| 製造業           | 53.2 |
| 医療、福祉         | 10.9 |
| 卸売業、小売業       | 8.2  |
| 建設業           | 6.3  |
| 運輸業・郵便業       | 5.6  |
| 生活関連サービス業、娯楽業 | 5.4  |
| 上記以外の産業       | 10.4 |
| 職業別           | (%)  |
| 生産工程・労務       | 60.9 |
| （うち製造・製作の職業）  | 51.7 |
| 専門・技術、管理、事務   | 23.5 |
| サービス          | 8.8  |
| 販売            | 5.1  |
| 上記以外の職業       | 1.7  |

## ●名古屋外国人雇用サービスセンター（名古屋市中区栄 中日ビル 12 階）

### 相談の現場から

当センターには、日本の大学や専門学校な

どへの留学生とともに、16～17 歳ぐらいの外国につながる中卒の若者たちがよく相談に来ます。中卒の若者たちは「早くお金を稼いだ

い」という意識が強いのですが、残念ながら18歳以降でないと正社員として採用しない企業がほとんどです。雇用主の立場からすると、15～16歳では深夜残業ができなかったり、危険な作業も任せられないなどの事情があります。

そこで皆さんに紹介するのはパートやアルバイトになりますが、それを繰り返してもスキルも身につかず、将来が心配です。

## 日本語力+母語の力も

外国につながる子どもたちの場合、「日本語能力試験」に合格していることが大切です。高卒では2級（N2）、大卒では1級（N1）を目指して下さい。中卒では日本語力もまだ弱いですが、大学まで進むとかなりの日本語力が身に付くので、就職のチャンスは広がります。

ただし、企業が外国人を採用する場合の基本スタンスは「海外業務の展開」です。そこで日本語と共に母語の会話はもちろん、読み書きができるようにしておくことが大切です。例えば「翻訳・通訳」などの仕事を希望している人の中には、日本語ができて母語の読み書きができないために、就職に結びつかないケースもあります。

## 進学で「選択肢」を増やす

就職してお金を稼ぐことは、多くの若者にとって人生の一つの目的になります。高校進学や大学進学は就職のための「選択の幅」「仕事の幅」を広げることになります。

特に大学へ進学すると、仕事の幅は格段に広がります。例えば従来から最も求人のある「営業職」の応募資格は「大卒」がほとんど。高卒は少ないのです。

## C-2. 取材メモから（外国人を採用している企業）

### ●株式会社 ヒサダ

#### 「実力」があれば誰でも評価

当社は自動車部品のドアフレーム、シートレールなどを製造しています。アメリカ、中国に現地法人があります。

従業員約1,200人のうち、70%が外国人の皆さんです。国内の工場ではブラジル人のほか、様々な国籍の人が働いています。製造ラインの仕事は軽作業が主ですので女性が行い、その他の体力が要る仕事は男性が担当しています。

当社は「能力・実力」があれば国籍を問わず評価し、責任のある仕事に登用しています。例えば入社15年で工場長になったブラジル人の社員もいます。外国人の皆さんは真面目で休みません。身体能力も高く、製造ラインでの昼夜勤務でも安定して作業に従事してくれています。ブラジル人役職者の約80%の人が日本語を話せます。

#### 新卒採用では……

今年度の新卒採用は、高卒7人、大卒3人でした。

高卒はライン内での軽作業が主な仕事です。明るく、真面目に高校生活を送っている人で学校推薦がもらえれば採用に結びつきます。今まで、外国人従業員は人材派遣業からの紹介で採用してきましたが、日本の高校を卒業していて、ポルトガル語なども堪能な人は大歓迎です。

大卒は設計や開発、技術営業などが主な仕事になります。そこで工学系の勉強をしてきた人で、海外勤務が可能で、コミュニケーション能力や提案能力に優れ、精神的にもタフな人を求めています。

## ●株式会社 メイドー

### 部活動などでのがんばりを評価

---

当社は高張力ボルト・ナットなど、主に自動車用のねじ製品の製造・設計・販売を行っています。

ねじの製造は奥が深く、「もの造り」の担い手として一生、やりがいをもって取り組むことのできる仕事です。

平成 23 年度の新卒採用は高卒 25 人、大卒 10 人でした。まず高卒の皆さんはねじの製造現場で活躍してもらいます。求める人物は「もの造りの担い手として、心身ともに健康で、周りの人々としっかり協力・連携できる協調性を持った、明るく前向きな人」。特に大切なのは「3 年間きちんとした高校生活を送っているかどうか」「部活動などでリーダーシップを発揮しているかどうか」ですね。各高校からこの方針に合う生徒さんを推薦してもらっており、地元の豊田や岡崎はじめ、岐阜や長野、九州、北海道など各地から採用しています。

大卒では事務系と技術系で半々程度を採用

します。「もの造り」を知らないと何もできませんので、事務系でもまず現場を良く知り、製品についての理解から始まります。なお、技術系採用は大学の研究室からの推薦が主でしたが、今は自由応募が中心です。愛知県内の理工系大学の場合、地域にメーカーが多く恵まれていると思いますが活躍を期待しております。

### 日本語でマニュアルの読み書きができること

---

製造業の正社員を目指すのであれば、日本語のマニュアル（仕様書）の読み書きは欠かせません。昇給の査定や昇格を目指すならば、日本語の文書のやりとりが必要だからです。ただ、日本の高校を卒業できる日本語力が身につけていけば問題ないと思います。

また「自分のことは自分でやりきる人間」でいてほしいですね。基本的な生活を自分の責任できちんとやりくりできることは、仕事を毎日続けていく上でも、とても大切です。

## 第3章 進路（進学・就職）に関する情報

### A. 進路・志望校選びを支えるためのポイント

外国につながる子どもたちの進路選びを支援する立場の人に、考えてほしいことや知っておいてほしいポイントなどを見ていきます。

#### まず、子どもの状況を知る

進路選びを支援する大前提は、個々の子どもたちの状況をできるだけ把握し、子どもたちの立場に立って考えていくことです。

把握しておきたい事柄としては、「基本的な成育歴（来日時期、就学状況、日常の使用言語等）」「現在の就学状況（成績程度、部活動、学校での過ごし方など）」「どんな進路を希望しているのか（志望校など）」「現時点での夢」「今、悩んでいること（例：帰国するかどうか、成績が上がらない、学費が準備できない、やる気が出ない……）」などが考えられます。

こうした事情は、個人に関わる情報であり、中には複雑な家庭的な背景を持つケースも少なくなく、子どもたちが支援者に心を開くのに時間を要する場合も予想されます。そこで支援者は、まずは子どもたちときちんと向き合い、「ここは安心できる場所である」というメッセージを送り、信頼関係を築くことが第一です。

#### 進路は「本人と親」が決める

もう一つの大前提が、「進路を最終的に決めるのは『本人と保護者』」ということです。支援者はそれをほんの少し後押しできるだけ、という心積もりが大切です。

進路を受け身で選んだ場合、その後も受け身の高校生活になりやすいもの。逆に主体的な進路選択は、前向きな学校生活や勉強につながる可能性が高いと言われています。

外国につながる子どもたちは、高校に進学した後も、日本語能力の面や学習面、日本的な文化や生活習慣への適応などの面で、日本人生徒に比べて多くの努力が必要になり、「それを乗り越える意思を持ち続ける」ことが大切になります。そこで高校進学を「一生の問題」として真剣に考え、実現していこうとするそれなりの「覚悟」が進学時に求められるのです。

一方、保護者にも「進路決定の場面で子ど

もと真剣に向き合う」ことが求められてきます。進路選択は、青少年の発達や自立へのチャンスですが、経済的にも心理的にも保護者の支えが無ければ子どもたちの進路は実現できません。こうした状況を保護者にもしかりと考えてもらうことが必要になります。

そこで支援者としては、親身になりつつも、客観的でバランスの取れた支援や助言が求められるところです。

#### 子どもたちと保護者、学校を橋渡しする

こうした前提に立った上で、支援者に求められる大きな役割の一つが、子どもたちと保護者、学校を「橋渡しすること」です。

保見中学校（豊田市）の川崎 均先生は、「外国人の生徒は高校進学について入試制度や学校の特色、入試までのスケジュールなどについて、どこまで理解できているのかがわかりにくい状況にあります。また、保護者に日本での高校入試について経験や情報が乏しい上に、言葉の面などからも親子での話し合いにハンディのあるケースがよくあります。」と語っています。

そこで支援者には、日本の事情も踏まえながら、高校入試や進路情報をわかりやすく説明することが期待されます。支援者自身もこうした情報を子どもたちと共に積極的に調べていくことが求められます。

一方、個別の進路決定の場面では、子どもたちが自分の希望をうまく言えなかったり、逆に学校や保護者の意向がうまく子どもたちに伝わっていなかったり…、ということも考えられます。また、子どもたちが進路実現に向けて、様々な悩みを抱えていることもあります。

そこで支援者には、担任の先生の話を知りやすく本人や親に伝えたり、子どもが自らの思いを親や先生たちに伝えられるように引き出したり、整理したりするなどという形で、「両者の橋渡し、通訳者」としての役割も求められるところです。

## 知っておきたい「志望校選びのポイント」

第1章の「外国につながる子ども・保護者へのアンケート調査」では、「高校進学に向けて知りたい情報」は、多い順に、子どもは「勉強内容（49%）」「入試内容（48%）」「学費（46%）」、保護者が「学費（69%）」「奨学金（69%）」「卒業後の進路状況（60%）」という結果でした。

これらを踏まえ、志望校選びのポイントとして、「外国につながる子どもたちの進路開拓ガイドブック」では「進路」「生活」「学力」の3つを挙げました（7ページ）。ここではそれぞれについて補足します。

### ①日本の進学・就職事情を調べる

外国につながる子どもたちは、日本人ならば広く知っているような、各高校の特色や進学・就職状況を知らない人が多いと思われます。そこで、「学校案内」や「各高校のホームページ」「卒業生の動向」などで、進学先やその数、就職先やその数などを調べ、卒業生の大まかな進路傾向をつかんでいきます。

### 進学希望の場合

普通科が一般的ですが、進学者が多い伝統校を除いた場合、「生徒の能力を伸ばしてくれるかどうか」「特色ある教育が行われているのか」なども検討してみます。経済的にゆとりがあれば私立高校も検討します。

進学先の大学や短大、専門学校については、大学入試の現状（入試難易度など）や卒業後の進路状況などを関わらせながら解説することが考えられます。

なお、近年生徒に人気の高い「総合学科」は系列別に分かれていたり、自分で授業を選択したりするなど、各高校で様々な特色があります。そこで、「自分で勉強したい分野」「将来の就職希望」とすり合わせてみるといいでしょう。

### 就職希望の場合

専門学科（工業科、商業科、農業科、福祉科など）を考えます。普通科高校に比べて、企業の情報が集まりやすく、就職指導もハローワークと連携しながら進めていく仕組みになっています。例えば愛知県内で製造業などへの就職を目指す場合、工業科卒生は優秀であれば大卒よりも就職時に有利な場合もあります。なお、最近は専門学科からも推薦入試

などにより、大学や専門学校に進学する人も増えています。

専門学科の特徴の一つは、様々な資格取得ができること。例えば商業科では簿記検定や珠算検定などに力を入れています。

なお、経済的にゆとりがあるものの、学力的に厳しい生徒の場合、「専修学校（高等課程）」も選択肢の一つになります。これらの中には、高卒の資格を得られるところもあります。

また、短大卒の資格が得られる「国立高等専門学校（高専）」や、就職しながら高卒の資格を得られる「企業内学園」は、狭き門です。

### ②早めに通学手段や学費などを調べる

調べておきたいポイントは、家からの交通手段と所要時間／学費（授業料と諸経費＜制服代、教科書代、設備費、修学旅行の積立代、部活の費用など＞）と納期／部活動の内容／校風（校則や制服など）などです。

また、「奨学金制度」や私立高校の「授業料減免制度」「特待生制度」なども調べます。

支援者に求められることは、教育資金の確保を早い段階から繰り返し伝えていくことです。高校や大学などへの進学は特に入学時にまとまった費用が必要で、小学校や中学校への進学とは全く違うことを具体的な金額とともに提示しましょう。子どもの年齢により、学資保険などについて話してもいいかもしれません。

### ③愛知県の高校入試の仕組みなどを調べる

各高校では教科内容や進度などが大きく異なり、それが反映されるのが「高校入試」です。

日本の中学校などに在籍している場合は各中学校で詳しい進路指導と情報提供がなされますが、そうでない場合は、まず県教育委員会高等学校教育課に問い合わせてみます。

高校入試の仕組みについては「外国につながる子どもたちの進路開拓ガイドブック」の11～12ページに掲載してあります。「入試のスケジュール」「学力レベルと入試の関係」などをよく理解してもらうことが大切です。

特に「調査書（内申点）」の内容と入試での関わり方は、詳しく説明していくことが大切です。



## どこで情報を得ればいいか

### ●中学校の進路説明会／進路指導室

中学校の進路説明会は志望校選択で最も重要な機会です。「資料を持参して、生徒と一緒に内容を理解する」などの支援が考えられます。また、中学校の進路指導室は、高校のパンフレットや入試情報などがあり、情報の宝庫です。

### ●高校のホームページ

今ではどの高校もホームページを持っています。自宅にいながら見ることができます。

ただし、保護者は日本語が読めない人が多いので、内容をわかりやすく説明します。

### ●高校の体験入学・入学説明会

夏休みに行われる体験入学は、高校の雰囲気や入試、進路について知る大きなチャンスです。保護者も一緒に参加することが望まれます。また、入学説明会を行う高校もあります。

### ●地域での進路説明会

名古屋市、豊橋市、豊田市、小牧市などでは毎年、高校進学のための進路説明会が行われています。

【参考】各地域における進路説明会の実施状況（23年度 一例）

| 実施地域 | 名称                     | 開催時期 | 開催場所                     | 主催者                            | 通訳対応       |
|------|------------------------|------|--------------------------|--------------------------------|------------|
| 名古屋市 | 外国人の子どもと保護者のための進学ガイダンス | 9月   | 名古屋国際センター                | (公財)名古屋国際センター                  | 英・ポ・ス・中・フィ |
| 豊橋市  | 外国人生徒と保護者のための進路相談会     | 8月   | 豊橋市役所                    | 豊橋市教育委員会                       | ポ・ス・英・中    |
| 豊田市  | 外国人児童生徒・保護者教育説明会       | 7月   | 豊田産業文化センター「とよたグローバルスクエア」 | 豊田市教育国際化推進連絡協議会（事務局：市教育委員会）    | ポ・ス・中・タ    |
| 小牧市  | 進路説明会                  | 7月   | 小牧勤労センター                 | 小牧市外国人児童生徒連絡協議会進路部（市教育委員会から委託） | ポ・ス・中・タ    |

「英」は英語、「ポ」はポルトガル語、「ス」はスペイン語、「中」は中国語、「フィ」はフィリピン語、「タ」はタガログ語

## 高校中退を防ぐために

来日して日が浅い子どもたちや、基礎学力がついていない子どもたちの場合、高校に進学しても授業が理解できないなどで中退する人が少なくありません。しかし、高校中退はその後の進路の大きなハンディとなります。

そこで志望校選びで大切なことの一つに、「学力に応じた学習内容かどうか、支援はど

うか」を見ることがあります。例えば定時制高校などは学習の進み方も緩やかで、生徒個々の理解に応じた指導が行われている高校が多くあります。外国につながる子どもたちにとっては、日本語力をつけながら教科学習を積み上げることが、その後の進路選択につながるということを、意識しておきたいところです。

## B. 高校への取材メモから

ここでは実際に訪問した4つの高校から、外国人生徒の指導の様子や、目指してほしい人物像などをレポートしていきます。

### ●愛知県立衣台高等学校（全日制課程／普通科）

#### 学校の特徴

衣台高校は昭和49年に設立した普通科高校です。1学年の入学定員は6クラス240人です。

#### コースの内訳と教育課程

本校では1年次は普通コースと情報活用コースのどちらかに所属しますが、2年進級時に普通コースは文系と理系に分かれます。ま



た3年次には文系が文Ⅰと文Ⅱ（特進）に分かれます。

文Ⅱと理系は国公立大学も含めた難関大学への進学も視野に入れています。情報活用コースでは、教科「情報」を中心に科目が編成されています。

## 外国人生徒及び中国帰国生徒等にかかる 入学者選抜（以下「外国人生徒選抜」）について

本校では平成14年度から、原則として小学校4年生以降に日本の小・中学校に編入してきた生徒を対象に、外国人生徒選抜を実施しています。

試験は国語・数学・英語の筆記試験と面接で、これらを総合的に判断して可否を決めます。高校に入学後、学習内容が理解でき、授業についていける生徒を選抜します。また面接での会話力なども判断・確認材料となります。

従来はブラジルなど南米系の生徒が多くいましたが、最近は中国やフィリピン、ベトナムなどアジア系の生徒も入学するようになりました。

## 外国人生徒への対応について

本校には一般入試で入学する外国人生徒と外国人生徒選抜で入学する生徒がいます。

一般入試で入学した生徒は日本人と同様の授業を受けますが、外国人生徒選抜で入学した生徒は、原則として普通コースから文Ⅰに入ります。授業は、日本語能力が不十分なため、「取り出し授業」で行います。取り出し授業があるのは国語、社会、数学、理科などです。教科書は日本人生徒と共通のものを使用しますが、学力や日本語力のばらつきが大きいため、学習指導要領に対応しつつ、進度はゆっくりにしています。また外国人生徒サポーターに支援をお願いしています。

先生方は「進級・卒業できるように」を目標に、個々の生徒を見ながら工夫して授業を進めています。例えば国語の授業では小中学校の問題集などを用いて日本語力をつけたり、四字熟語の問題集などを用いて漢字の習得に取り組むなどしています。

昨年度の一年生は愛知教育大学の研究の一環として、日本語のリライト教材を用いながら問題集に取り組みました。毎週、それぞれの日本語力のテストを行い、その結果を元に

個別の課題を課すというもので、生徒は興味を持って学習しています。この取組は3年間行われます。

## 外国人生徒選抜で入学した生徒について 感じるこ

### 教科指導

日本語能力が授業の理解に直結します。教科書にルビをふるなどしていますが、言葉の「概念」を理解してもらうのが難しく、教員側もできるだけ易しい言葉で説明するよう、苦心しています。

1年次は成績に差もありますが、努力すれば3年次に差がなくなります。また、英語が得意な生徒が多い傾向にあり、日本語力が伸びると英語力もさらにアップします。

### 生活面

来日して日の浅い生徒の中には、文化の違いから、学校の規則をなかなか理解してもらいにくいと、粘り強く指導しています。保護者との連絡には外国人生徒サポーターに通訳をお願いすることもあります。意志疎通がすぐにはできず、難しい面があります。

一方、外国人生徒はイベント好きで人見知りしないため、体育祭や文化祭ではダンスの振り付けをするなど、日本人生徒を引っ張り、リーダーシップを発揮してくれる生徒もいます。

## 外国人生徒選抜による入学者の進路

### 傾向

以前は就職者が多い傾向にありましたが、不況の影響もあり、最近は大学や専門学校への進学が増えています。

大学入試ではAO入試や推薦入試が中心ですが、一般入試受験の生徒もいます。英語力を生かす進路を希望する生徒も増えてきています。

過去3年間の進学先は、愛知工業大学、名古屋外国語大学、名古屋学芸大学、名古屋商科大学、同朋大学、名城大学などです。

### 進路指導

進路ガイダンスは1年次から行っています。外国人生徒は「募集要項」を読んで理解するところから始めなければなりません。受験対策は担任を中心に放課後遅くまで個別指導し

ます。作文を書くことが難しい生徒が多いので、時間をかけて指導しています。

## 高校からのメッセージ

---

異文化である日本のよさを体感し、グローバル社会で生きる力をつけてほしいと考えて

## ●愛知県立小牧工業高等学校（全日制課程／専門学科）

### 学校の特徴

---

全日制課程で、機械科、自動車科、電気科、情報技術科、化学工業科のある工業高校です。普通科高校と違い、実習などといった実技の時間が多くあり、知識だけでなく実際に体験することで、生きた技術や技能を身につけます。卒業生の8割程が、小牧市周辺や県内の企業に就職します。

1年生から普通科目の他にそれぞれの学科で、機械・電気・化学関係といった専門科目を学びます。

### 就職を目指した資格取得

---

小牧工業高校では、様々な資格が取得できます。技能士・自動車整備士・電気工事士・基本情報技術者・危険物取扱者などの資格に挑戦しています。特に自動車整備士の資格は、本校が指定校になっており、実技免除で取得することができます。

資格やコンテストの入賞実績をポイント制にしたジュニアマイスター顕彰制度で、高い得点を得ると就職に有利です。

この制度は、全国工業高校学校長協会が実施するもので、現在約170の職業資格・検定と約60のコンテストが登録されています。生徒は、職業資格や各検定の取得と、コンテストに参加することで、ポイントを得ることができます。30点以上を『ジュニアマイスターシルバー』、さらに45点以上の特に優れた生徒には『ジュニアマイスターゴールド』の称号が贈られます。（出展：社団法人全国高等学校長協会）

資格の取得は、就職に役立つということの他に、目標を持って努力することの大切さを学ぶといった側面もあります。

います。

なお、本校入学を希望するのであれば、日本語の文章を読めるように努力してください。そうでないと授業についていけません。また高校では部活動に入って様々な経験を積むといいと思います。

### キャリア教育

---

進路指導にあたり、進学・就職の希望を調査したうえ、生徒がどのような方面に就職を希望しているのかを踏まえ、繰り返し進路説明会を実施します。進路希望に合わせ、先輩や企業の方からの話を聞いたり、工場見学に行ったりします。

安定した身分で就労するためには正社員になることが大切だということを、1年生から指導しています。希望者は2年生の夏休みに、インターンシップに行きます。実際に体験することにより、想像していた仕事の内容を現実のものとして理解できることから、多くの生徒が参加できるように様々な働きかけをしています。就職に向けての面接や作文指導では、外部から招いた専門家にも指導をいただいています。

### 進学について

---

2割程の生徒は進学します。推薦枠がいくつかあり、関係する大学や専門学校に推薦で入ることができます。愛知工業大学、中部大学、大同大学などに進学します。

### 就職について

---

生徒の就職率は、平成23年度は100%です。大学から入社することが難しい企業にも就職しています。小牧工業高校を卒業し、役職に就いて活躍している先輩も少なくありません。在学中にしっかり知識、技術・技能を身に付け、将来のスペシャリストとして活躍してほしいと思います。

## 小牧工業高校についてもっと知るために

---

毎年8月に、小牧市外国人生徒連絡協議会の主催で外国人向けの高校説明会を行っています。学校の特徴や、進路先などを4～5言語で説明します。

夏休みには、体験入学を実施しています。

## ●豊橋市立豊橋高等学校（昼間定時制課程／普通科）

### 昼間定時制課程普通科について

---

定時制課程というと、夜間部が思い浮かぶますが、豊橋高校には昼間部があります。

定時制課程は4年間で卒業する（4年卒）ことが基本ですが、豊橋高校は単位制であることから、卒業に必要な単位を、学校で開設する特設講座や他の通信制高校等で勉強（併修）すれば、3年間で卒業することもできます。3年間で卒業する（3年卒）生徒は、全体の6～7割くらいです。

生徒数は、全体で約500人、外国人生徒は50人です。半分以上がアルバイトをしています。また、昼間定時制課程は制服があります。

### 二部制について

---

豊橋高校昼間定時制課程普通科は二部制です。1部と2部では、始業時刻と終業時刻が違います。1部は9:00～0:45、2部は10:45～3:00です。

学習する内容は、全日制課程普通科とほぼ同じです。

### 単位制について

---

豊橋高校は、単位制ですが学習指導、生活指導を効果的に行うために、学年制の形をとっています。

未修得の科目があっても、学校で定めた必要単位が修得できれば、1年から2年へ進級できます。2年から3年への進級も同じです。留年は2年まで、3～6年間在学できます。

定時制課程の授業は、1日4時間×5日で、週に20時間勉強します。そのうちの1時間は、ホームルーム活動の時間で、19時間×4年で76単位になります。

3年で卒業したい生徒は、19時間×3年な

各専門学科の実験・実習を体験することや、施設の見学を行っており、詳しくはHPで案内しています。

上記以外にも、説明が聞きたいなどといった、問い合わせに随時対応しています。

ので57単位、残りの単位をいろいろな形で修得します。例えば、豊橋高校で開設される特設講座の他に、定時制と通信制の併修や、豊橋市教育委員会が主催する社会人講座、科学技術学園の単位も単位認定をします。他校を退学した場合も以前の単位を認定します。

4年生で足りない単位や必修単位など、自分がどの単位がとれているか、とれていないかをしっかり把握することが大切です。

### 卒業率について

---

平成19年に入学した生徒で、3年卒、4年卒合わせて、77.5%が卒業しました。

それ以前の卒業率は約50%でしたから卒業率は上がってきています。つまり、4年生に残る生徒も多くなりましたが、辞める生徒が少なくなったということです。

### 卒業後の進路

---

卒業生の約半分が進学しますが、就職については、経済的な低迷が続く状況から、厳しいのが現状です。継続的な就職指導を行っています。

### 入学試験について

---

豊橋高校昼間定時制課程普通科の定員は160人です。入るときは人気が高く、一昨年は、2倍くらいでした。昨年は1.78倍くらいです。作文、基礎学力（中学校の国・数・英）、面接、調査書で総合的に判断します。

外国籍の生徒、日本籍の生徒ともに同じです。外国籍の生徒へのサポートは、現在、特別にはありません。

入学検定料は950円です。

## 学費他

---

- ・授業料は無料
- ・入学時の学校徴収金 40,000 円  
(教科書、教材費、実習費、体育服、体育

- 館シューズ、4 月分 PTA 会費、生徒会費)
- ・PTA 会費、生徒会費 毎月 900 円
- ・修学旅行積立(1・2 年) 毎月 2,500 円
- ・制服 冬服・夏服併せて 約 60,000 円

## ●愛知県立刈谷東高等学校(通信制課程)

### 通信制課程について

---

通信制課程は、「仕事や家庭の都合で毎日通学できないが、高等学校の卒業資格を得たい、生涯学習のために学びたい」という人のためにあります。

教科は全日制高校の普通科と同じで、教科書も同じものを使います。

最近では、不登校の傾向の生徒も、月に 2～3 回の登校ならば通信制課程で学び、卒業していくこともあります。

1 年から 2 年に進級できるのは 6 割前後です。試験が前期、後期に各 1 回ずつあります。修業年限は、通常は 4 年ですが、高校卒業程度認定試験の合格科目の単位認定との組み合わせや、通信制課程内での併修などを利用して、努力すれば、3 年で卒業することもできます。

また、刈谷東高校通信制課程では、他の定時制高校の生徒(併修生)や一部の科目のみを受講する一般の方(特科生)も勉強しています。

幅広い年齢層や経歴の生徒がいるという環境が生徒を育てます。社会の集団構成と似ていて、自然と規範が身に付きます。見学は随時受け付けています。落ち着いて勉強に励んでいる姿に、少し驚かれるかもしれません。

### 面接指導(授業)とレポートについて

---

通信制課程には、スクーリングという面接指導(授業)があります。月に 2～3 回登校して一斉授業の形で面接指導を受けます。面接指導は、正規には日曜日ですが、火、金どちらかで補充面接指導があります。また、面接指導に基づきレポートを提出します。

レポートは、B4 判両面で、例えば国語では、2 つほどの作品について問題を解きます。解き方は、教科書と学習書を参考にして、各自で解きます。全てのレポートについて、提

出が必要です。先生方も丁寧に対応していただけます。レポートを提出していない人は定期試験を受けることができません。

### 勉強について

---

基礎学力をつけるため、英語と数学と国語については、2 年かけて中学の復習も含めて、高校の基礎的内容を勉強します。

また、国籍にかかわらず、日本語を話したり聞いたりすることは問題がなくても、日本の教科書の文章を読んで理解することや文章を表現することは難しいものです。入学者選抜の作文は、400 字程度の文章を書きますから、日本語の表現力が必要となります。

### 卒業後の進路

---

新卒者の場合、希望者に就職斡旋をしますが、その数は年に数人程度です。一般には、それまでの仕事を続けたり、中途採用等、各自で就職先を探していくことが多いです。

大学、専門学校への進学については、推薦入試もあり、成績が校内の基準を満たし生徒指導上問題がなければ推薦されます。試験入学も含め毎年 30 人くらいが進学しています。

### 入学者選抜について

---

1 学年で約 280 人が定員です。後期選抜は愛知県公立高校全日制課程、定時制課程、全ての入試結果が出てからの出願が可能です。新入学者選抜は、書類審査、作文及び面接、転・編入学者選抜は、書類審査、学力検査(高校 1 年次修了程度の国・数・英)及び面接により総合的に判断します。



## 進学を希望する人へ副校長先生からのアドバイス

高校の課程を勉強したい気持ちがある方、本校の通信制課程で一緒に勉強しましょう。

オリエンテーションは4月、5月に2回あり、1日は、学校生活の進め方、勉強の仕方を学びます。もう1日は、生徒会が中心となって、仲間を受け入れるイベントを行います。校庭で大きな鍋でカレーライスを作って皆で食べます。「同じ釜の飯」を食べた仲間、ここからが学校生活のスタートです。

面接指導、ホームルーム活動などの他に、体育大会や文化祭をはじめ、キャンプや水泳、

スケートなどの行事もあります。仲間づくりを苦手としている生徒達でも、気軽に参加できる場を作っているのも、仲間とともに生きる楽しさを味わってほしいです。

## 学費他

- ・入学科、学校徴収金等で年間約 15,000 円
- ・教科書・学習書の購入代金約 15,000 円  
＋補助教材費約 5,000 円
- ・制服なし、上履きは指定のスリッパを使用
- ・正規面接指導日には校内に託児所が開設され、託児費用は、子ども1人1回1,000円程度

## ＜コラム＞大学進学のためのアドバイス —愛知淑徳大学准教授 小島祥美氏—

### 大学に触れてみよう

日本の大学は「大学全入時代」を迎え、以前より大学進学の壁が低くなりました。入試方法も多様化し、得意分野が評価される方法で入試に挑むことができるようになりました。

このことは、大学進学をめざす外国人の子どもにとっては喜ばしいことといえるでしょう。その一方で、大学進学後に今後の目標が持てずに悩んだり、中途退学したりする外国人大学生と出会うことも多くなりました。このような現状から、子ども自身がどのように社会で働きながらこれからの人生を進んでいきたいと考えているかを引き出し、具体的に将来像を描いたサポートが、とても重要ではないかと感じています。

外国人の子どもやその保護者が具体的な大学生像を描くために、オープンキャンパスに参加することは有意義な機会となるでしょう。オープンキャンパスでは、学べる学業内容について大学教員や現役大学生と直接話しができます。また、受験方法や受験対策について担当者から説明を受けることができたり、奨学金や大学生活についても個別相談ができたりなど、「大学生」を体験できるメニューが数

多くあります。オープンキャンパスには志願者の子どもだけでなく、保護者も参加でき、多くの場合が参加費も無料です。

### 支援は大学進学後も

近年の外国人大学生にとって、本人が希望する職種や職業に正規採用として就職することが珍しくなくなってきました。こうした外国人大学生は、大学生活のなかで職業（就労）体験できるプログラム（インターシップ）や地域のボランティア活動に積極的に参加するなど社会経験を数多く積むことで、自信に繋がっているようです。こうした情報提供など、大学入学後のサポートも外国人大学生にとっては必要であるでしょう。

「大学に進学した！」という親や周囲の期待のなかで外国人大学生は、私たち支援者が想像する以上に、進学後も大学生活や将来に対して不安を抱いています。したがって、可能な限り支援者は、大学進学後も継続して外国人大学生に多くの「励まし」の声かけをお願いしたいです。

## C. 奨学金などの利用について

進学に必要な費用を補う方法として、奨学制度の利用があります。日本語で書かれた奨学制度の概要を理解し、必要書類を揃え、期限までに提出するために、ゆとりをもって準備を進めていく必要があります。また、「奨学金」＝「返済義務なし」と誤解している場合があります。奨学金という名がついても貸付金であることが多いので、返済の必要義務があることを伝えましょう。

お金の工面が難しい場合は、学校の事務室に相談をすると、状況に応じて柔軟に対応してくれる場合があります。※下記以外にも、「私立高校独自の奨学金」、「銀行の教育ローン」などがあります。

### ●減免（返済義務なし）

#### 「愛知県立高校の入学料・授業料減免制度」

県立高校の入学料及び授業料が、保護者の所得状況などにより減額または免除されます。

なお、2011 年度現在、授業料については、公立高校の全日制、定時制及び通信制に在籍する生徒は無償となっているため、減免は専攻科のみが対象です。

##### 【対象】

県立高校に在籍し、経済的な理由により学費の支弁が困難な方

##### 【申込方法】

在籍する高校へ申請

##### 【問合せ先】

愛知県教育委員会財務施設課  
〒460-8534 名古屋市中区三の丸 3-1-2  
☎052-954-6763

#### 【参考】県立高校の入学料・授業料

(2011 年度：減免前の額)

| 課程など | 入学料     | 授業料（毎月）   |
|------|---------|-----------|
| 全日制  | 5,650 円 | 無償        |
| 定時制  | 2,100 円 |           |
| 通信制  | 500 円   |           |
| 専攻科  | 5,650 円 | 118,800 円 |

### ●補助金（返済義務なし）

#### 「愛知県私立高等学校入学納付金補助制度（全日制のみ）」 「愛知県私立高等学校授業料軽減補助金」

私立高校の入学金及び授業料の一部が補助されます。補助金を利用することで、公立高校との費用の差を少なくすることができます。

また、特別な事情（父母の病気、失業など）がある場合は、年度の途中でも申込みをすることができます。

学校により、①あらかじめ減額された額を提示される場合と、②支払った入学金や授業料が後日補助金として戻ってくる場合があります。

##### 【対象】

県内の私立高等学校及び私立専修学校高等課程に在籍し、世帯収入が基準内の方

##### 【補助額】

| 世帯収入<br>(父母の合算) | 入学金<br>補助額 | 授業料補助(月額)<br>*国の就学支援金を含む |
|-----------------|------------|--------------------------|
| 年収 約 250 万円未満   | 100,000 円  | 32,600 円                 |
| 年収 約 350 万円未満   | 100,000 円  | 32,600 円                 |
| 年収 約 610 万円未満   | 65,000 円   | 19,100 円                 |
| 年収 約 840 万円未満   | 48,000 円   | 14,200 円                 |

※ 年収は 4 人家族（父母、子ども 2 人）の場合の、おおよその目安の額

##### 【申請方法】

4 月に、入学した高校へ申請

##### 【問合せ先】

愛知県私学振興室  
〒460-8501 名古屋市中区三の丸 3-1-2  
☎052-954-6187

### ●貸付金（返済義務あり）

#### 「愛知県高等学校等奨学金（無利子）」

無利子で借りることのできる奨学金です。

1 回の申請で借りられる期間は 1 年間のみですので、希望者は毎年申請をする必要があります。

高校卒業後、大学や専門学校などに進学する場合は、申請により返還が猶予されます。

入学する高校が決まっていなくても、中学



3年次の7月中旬頃に奨学金を予約することができます。この奨学金は、旧日本育英会（現日本学生支援機構）の高校奨学金事業が各都道府県に移管されたものです。

#### 【対象】

親権者または未成年後見人が愛知県内に在住する国公立の高校、専修学校高等課程の生徒で、世帯収入が基準内の方

※ 世帯収入基準は、名古屋市内在住の4人家族の場合約610万円

#### 【貸与月額】

国公立 11,000円または18,000円  
（自宅外通学者は23,000円）

私立校 11,000円または30,000円  
（自宅外通学者は35,000円）

#### 【貸与期間】

全日制は3年、定時制は4年

#### 【貸与時期】

8月末（4～8月分）、12月末（9～12月分）、2月末（1～3月分）の年3回

#### 【他の奨学金を受ける場合】

「愛知県高等学校定時制・通信制修学資金」「母子・寡婦福祉法による修学資金」などとの併用は認められていません。

#### 【返還方法】

卒業の半年経過後から返還が始まり、貸与月額により返還期間が6年、10年、12年と異なります。

#### 【申請方法】

在学する学校が指定する時期（5月中旬から6月中旬まで）に学校へ申請（決定は8月中旬）

#### 【奨学金の予約】

中学3年生を対象に、在学する中学校で7月中旬頃に奨学金の予約をすることができます（決定は11月中旬頃）。

※ 高校等に入ってから、再度、申請書類（下記参照）を提出する必要があります。

#### 【申請書類】

高等学校等奨学金貸与申請書

世帯状況調べ

所得等を証明する書類

予約決定通知書

（中学3年で予約決定した方）

保証書など

#### 【問合せ先】

愛知県教育委員会高等学校教育課  
〒460-8534 名古屋市中区三の丸3-1-2  
☎052-954-6785

### 「愛知県高等学校定時制・通信制修学資金」

定時制、通信制課程に通う勤労学生を対象とした奨学金で卒業時に返還が免除されます。

#### 【対象】

定時制または通信制高校に通う勤労学生で、年収279万円以下の方

#### 【貸与月額】

公立高校 14,000円

私立高校 29,000円

#### 【申請方法】

在学する高校に申請

#### 【問合せ先】

##### 公立高校

愛知県教育委員会高等学校教育課  
〒460-8534 名古屋市中区三の丸3-1-2  
☎052-954-6785

##### 私立高校

愛知県私学振興室  
〒460-8501 名古屋市中区三の丸3-1-2  
☎052-954-6187

### 「私立高校及び私立専修学校高等課程入学者への入学納付金貸付制度（無利子）」

入学金を無利子で借りることができます。私立高校の合格発表後、入学までの間に手続きを行います。

#### 【対象】

私立高校または私立専修学校高等課程に在籍し、世帯収入が基準内の方

※ 収入のおおよその目安の額は、4人家族（夫婦と子ども2人）の場合、年収950万円程度未満

#### 【申請方法】

2～3月に、入学する学校に申請

※ 入試の種類や学校により、申請時期が異なります。

#### 【貸付額】

私立高校 100,000円以内

私立専修学校高等課程 50,000円以内

#### 【返還方法】

入学した翌年から修学年限の2倍の期間（全日制の場合は6年間）、毎年3月に均等返還をします。

#### 【問合せ先】

（財）愛知県私学振興事業財団  
〒461-0011 名古屋市中区白壁1-50  
（愛知県白壁庁舎内）  
☎052-951-5691

## ●教育ローン

### 「日本政策金融公庫 教育ローン（有利子）」

対象となる学校や使い道の制限が比較的緩やかで一年中申込みできる制度です。入学金や授業料、教材費、通学費、修学旅行費などに充てることができ、高校の合格発表の前に申込みをすることも可能です。インターネットからでも申込みをすることができます。

#### 【対象校】

高校、予備校、特別支援学校の高等部、外国の高等学校（6ヶ月以上の留学）など

#### 【審査基準】

世帯の年間収入、勤務状況、借入状況、住宅ローンや公共料金支払状況などから、総合的に判断されます。

#### 【融資額】

生徒1人につき300万円以内  
（今後1年間に必要となる費用が対象）  
※ 申請後、審査に10日程度かかり、そ

の後手元に振り込まれるまでに、さらに1週間程度かかります。

#### 【利率】

年2.25%（H24.2.10現在）

#### 【申請方法】

日本政策金融公庫または最寄りの金融機関（銀行、信用金庫、農協、郵便局など）

※ 一年中いつでも申請可

#### 【返済方法】

借入日の翌月は翌々月からの返済が始まり、一定額を毎月支払う方法と、ボーナス月に増額して支払う方法があります。

在学期間中は元金を据え置き、利息のみの返済をすることもできます。

#### 【返済期間】

15年以内（交通遺児家庭または母子家庭の方は18年以内）

#### 【問合せ先】

日本政策金融公庫教育ローン  
コールセンター

☎0570-00-8656 または 03-5321-8656

## D. 中学校を卒業していない子どもたちへの支援

地域の中には、不就学のまま義務教育年齢を超えたり、編入のタイミングが合わなかったりして、中学校を卒業していない子どもたちがいます。

ブラジル人学校で9年目の課程を修了している場合も、高校受検をする資格がありません。このような場合、本人、保護者とよく話し合い将来について考えるきっかけを作ることが大切です。中学校卒業資格を得るためには、中学夜間学級に入学する方法があります。また、高校受検の資格を得るためには、中学校卒業程度認定試験（中卒認定試験）を受ける方法があります。

### 中学夜間学級で学ぶ

中学校卒業程度の学力をつけ、2年で中学卒業の資格を得ることができます。

#### 【対象】

15歳以上で小学校を卒業し、日本の中学校を卒業していない人（愛知県に住んでいる人）

※ 海外の中学を8年目の課程修了で卒業している人は、入学できません

#### 【場所】

愛知県教育会館3階

#### 【授業】

週3回（月・水・金）18:00～20:30  
名古屋市が中学校の教科書を使い

指導します。日常会話と、基礎的な読み書きができる日本語能力が必要です。

#### 【授業料】

無料

#### 【教科書】

無償支給

#### 【入学方法】

入学願書を提出し面接と簡単なテストを受ける。

#### 【入学願書の出願期間】

ホームページ等で案内

#### 【問合せ先】

（公財）愛知県教育・スポーツ振興財団  
教育振興課

〒460-0007 名古屋市中区新栄1-49-10

愛知県教育会館 2 階  
☎052-242-1588  
<http://aichi-kyo-spo.com/>

## 中学校卒業程度認定試験を受ける

中学校卒業程度の学力があるかどうかを認定するために、国が行う試験です。

試験は1年に1回ですが、受験者は、1回の試験において必ずしも全部の試験科目を受験する必要はありません。また、一部の試験科目に合格した人は、翌年以後の試験で、その科目の受験が免除されます。

全ての科目に合格した人には高等学校の入学資格が与えられます。

### 【対象】

15 歳以上で日本の中学校を卒業していない人、または海外の正規の学校で、9 年目の課程を修了していない人

### 【費用】

無料

### 【試験科目】

国語・社会・数学・理科・外国語（英語\*）

※ 実用英語技能検定（英検）3 級以上、英語検定試験 3 級以上、国際連合公用語英語検定試験（国連英検）E 級以上に合格している場合は免除

### 【試験会場（平成 23 年度）】

愛知県総合教育センター

〒460-8534

愛知郡東郷町大字諸輪字上鉾 68

### 【過去の試験問題】

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/sotugyo/1263187.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sotugyo/1263187.htm)

### 【日本国籍を有しない人への特別措置】

①日本語能力試験 N 2 以上に合格している場合は、国語の試験が免除される。

②ふりがな付きの問題冊子で受験できる。

※ 帰化した場合等、様々な条件があります。詳しくは、愛知県教育委員会に相談するか、文部科学省のホームページをご覧ください。

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/sotugyo/1310083.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sotugyo/1310083.htm)

### 【日程】

8 月 受験案内・願書等の配布開始  
文部科学省または愛知県教育委員会に請求をする。  
必要書類を整える。

9 月 書留郵便書で願書等を文部科学省に提出する。

9 月下旬 受験票や会場についての案内が  
～10 月 送られてくる。

11 月上旬 認定試験

12 月上旬 結果の通知（本人に郵送）

### \* 注意

中学校卒業程度認定試験に全教科合格しても、中学校の卒業資格は得られません。短い期間でも地元の中学校に通学し、卒業が認められれば、中学校卒業資格と高校の受検資格が得られます。そして、卒業後も進路相談が受けられます。

年齢や在籍できる期間などに不安がある場合でも、まずは中学校に編入できるかどうかを市町村の教育委員会に相談してください。（愛知県教育委員会義務教育課担当者）

### 【中卒認定試験に合格したら】

①文部科学省に交付申請書を提出して、認定証明書及び調査書の交付を受けます。

②学力、日本語能力、生活の状況等を踏まえて、志望校を決めます。

③公立高校を受検する場合、志望校が決まったら、愛知県教育委員会高等学校教育課に認定証明書を持参し、入学願書をお願いします。

④受検する高校へ、受付け日に入学願書、認定証明書、調査書を持参します。

### 【志望校を決めるにあたり】

学校へ行っていない場合、客観的な学力判定をすることが難しい面があります。民間の模擬試験は志望校合格の可能性を測るだけではなく、試験の雰囲気を知ることができます。また、高校の先生のお話を聞き、学校の雰囲気を知るためにも、各学校に問い合わせをして、学校見学に行くことも可能です。

### 【中学校卒業程度認定試験の問合せ先】

文部科学省生涯学習政策局

生涯学習推進課認定試験第二係

〒100-8959

東京都千代田区霞が関三丁目 2 番 2 号

☎03-5253-4111（内線 2024、2643）

愛知県教育委員会義務教育課

〒460-8534 名古屋市中区三の丸 3-1-2

☎052-954-6790

## E. 海外の中学校などを卒業して進学したい子どもたちへの支援

正規の学校（現地の上級学校へ進学が可能な学校）で、9年目の課程を修了していれば、高校受験の資格があります。ただし、高校で勉強できる学力と日本語能力が必要です。本人・保護者と2～3年先も日本にいるのか、将来どこで何がしたいのかを話し合い、支援の方法を考えます。

### 海外の中学校を卒業して公立高校の入試を受ける

#### 【対象】

正規の学校で9年目の課程を修了した人、修了見込みの人

#### 【方法】

- ①愛知県教育委員会高等学校教育課に電話して高校受験の相談に行く旨を伝える。
- ②海外の学校から、9年目の課程の修了証明書又は成績証明書（コピー不可）を取り寄せる。
- ③9年目の課程の修了証明書又は成績証明書、外国人登録証明書、パスポートを持って教育委員会へ行く
- ④教育委員会が資格審査をする。
- ⑤応募資格が認められたら、出願校を決める。
- ⑥教育委員会で、応募資格確認書と入学願書もらう。（11月下旬以降、印鑑が必要）
- ⑦応募資格確認書と、入学願書、成績証明書を願書受付日に出願校へ持っていく。

#### 【問合せ先】

愛知県教育委員会高等学校教育課  
〒460-8534 名古屋市中区三の丸 3-1-2  
☎052-954-6786

### 海外の高校から公立高校の編入学試験を受ける

高校で勉強する学力と日本語能力が認められれば、編入学が可能です。応募資格の確認も含め、愛知県教育委員会に相談します。

編入学するためには、高い学力と日本語能力が必要です。具体的なレベルは、学校によって異なりますので、個別に問い合わせます。

在日期间が短く日本語能力は十分でないものの、英語と数学の成績が良く、大学付属の私立高校に編入した例もあります。

#### 【公立高校の編入学試験の問合せ先】

愛知県教育委員会高等学校教育課  
〒460-8534 名古屋市中区三の丸 3-1-2  
☎052-954-6787

### エザミン スプレチーボ (Exames supletivos) でブラジルの初等・中等教育の修了資格を得る

ブラジル政府は日本でスプレチーボと呼ばれる、初等（小、中学校）・中等教育（高等学校）修了資格試験を実施してきました。この資格試験について、在名古屋ブラジル総領事館行政補佐の北口エンリッケ昌夫氏にうかがいました。

スプレチーボというのは、もともとブラジルで学齢期を過ぎた人たちが学歴を取得するために始まった試験で、1999年から、日本でも実施されるようになりました。

しかし、ブラジル本国では現在実施されておらず、encceja（エンセージャ）という名称で同様の試験が行われています。

今後、日本国内で、スプレチーボが実施されるのか、エンセージャに切り替わるのか、現状で分かっていることはありません。エンセージャ実施については Inep(Instituto Nacional de Estudos e Pesquisas Educacion)（国立教育研究所）のHPに案内が掲載されます。情報を得たい人は気を付けてご覧になってください。また、日本で試験が実施される場合は、領事館のHPでも案内をします。

Inep ホームページ <http://www.inep.gov.br/>

在名古屋ブラジル領事館ホームページ <http://www.consuladonagoya.org/japones>

## ブラジル・ペルー・フィリピンの教育制度

子どもたちの気持ちを大切にしながら寄り添い共に学び合う関係を作るためには、それまで子どもたちが育ってきた環境や背景を知ることが大切です。教育制度の違いや情報不足などから、進学に向けた意識付けが難しく、実際に高校への進学が困難になるケースも散見されるからです。そこで資料②では、ブラジル、ペルー、フィリピンの教育制度についてご紹介します。

6歳 7歳 8歳 9歳 10歳 11歳 12歳 13歳 14歳 15歳 16歳 17歳 18歳 19歳 20歳 21歳 22歳

### ブラジル連邦共和国

※現行の教育制度は、1996年に確立

|                                                                    |  |  |  |  |  |  |  |  |                                    |                          |                        |
|--------------------------------------------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|------------------------------------|--------------------------|------------------------|
| 小学校4年(Fundamental um)<br>中学校5年(Fundamental dois)<br>(9年間)<br>6～14歳 |  |  |  |  |  |  |  |  | 高校(Colégio)<br>(3年間)<br><br>15～17歳 | 大学(Faculdade)<br>(4～6年間) | 大学院<br>(Pós-graduação) |
| 1年 2年 3年 4年 5年 6年 7年 8年 9年                                         |  |  |  |  |  |  |  |  |                                    | 専門学校<br>(Escola técnica) |                        |

### ペルー共和国

|                                     |  |  |  |  |  |                                        |  |  |  |  |                              |                    |
|-------------------------------------|--|--|--|--|--|----------------------------------------|--|--|--|--|------------------------------|--------------------|
| 小学校(Primaria)<br>(6年間)<br><br>6～11歳 |  |  |  |  |  | 中学校(Secundaria)<br>(5年間)<br><br>12～16歳 |  |  |  |  | 大学(Universitaria)<br>(主に5年間) | 大学院<br>(Doutorado) |
| 1年 2年 3年 4年 5年 6年                   |  |  |  |  |  | 1年 2年 3年 4年 5年                         |  |  |  |  | 専門学校<br>(Instituto)          |                    |

### フィリピン共和国

|                                               |  |  |  |  |  |                                                                             |  |  |  |  |                                 |                        |
|-----------------------------------------------|--|--|--|--|--|-----------------------------------------------------------------------------|--|--|--|--|---------------------------------|------------------------|
| 小学校 (Elementary School)<br>(6年間)<br><br>6～11歳 |  |  |  |  |  | 中学・高校<br>( Junior HighSchool<br>・ SeniorHighSchool )<br>(4年間)<br><br>12～15歳 |  |  |  |  | 大学(College・Kolehiyo)<br>(4～5年間) | 大学院<br>(Post-gradweyt) |
| 1年 2年 3年 4年 5年 6年                             |  |  |  |  |  |                                                                             |  |  |  |  | 専門学校<br>(Vocational School)     |                        |

…義務教育



|                         | ブラジル連邦共和国                                                                                                            | ペルー共和国                                                                                                          | フィリピン共和国                                                                                                                                                         |
|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育省                     | Ministério de Educação                                                                                               | Ministerio de Educacion                                                                                         | Department of Education                                                                                                                                          |
| 学制制度                    | 9・3・4制                                                                                                               | 6・5・5制                                                                                                          | 6・4・4制<br>(カトリック系の私立学校では<br>7・4・4制の学校もある)                                                                                                                        |
| 初等・中等<br>教育の学校<br>段階、種類 | 小・中学校(1年生～9年生)<br>6歳～14歳<br>高校(1年生～3年生)<br>15歳～17歳                                                                   | 小学校(1年生～6年生)<br>6歳～11歳<br>中学校(1年生～5年生)<br>12歳～16歳                                                               | 小学校(1年生～6年生)<br>6歳～11歳<br>中・高校(1年生～4年生)<br>12歳～15歳                                                                                                               |
| 義務教育                    | 9年間<br>小・中学校1年生～9年生<br>(6歳～14歳)                                                                                      | 11年間<br>小学校1年～中学校5年<br>(6歳～16歳)                                                                                 | 6年間<br>小学校1年～6年<br>(6歳～11歳)                                                                                                                                      |
| 学校年度                    | 2月中旬～12月中旬                                                                                                           | 3月～12月                                                                                                          | 6月～翌年3月                                                                                                                                                          |
| 学期制                     | 2学期制など。成績は4回出る。<br>地域によって異なるが年間200日<br>の授業日がある。<br>(7月に21日間の休暇がある。)                                                  | 3学期制または4学期制<br>(1～2月に長い夏休みがある。)                                                                                 | 2学期制<br>6月～10月<br>10月～翌年3月                                                                                                                                       |
| 就学年齢基<br>準日             | その年の3月31日までに満6歳<br>になる者は、その年の2月に義務<br>教育の第1学年に入学                                                                     | その年の3月31日までに満6歳<br>になる者が、義務教育の第1学年<br>に入学                                                                       |                                                                                                                                                                  |
| 特色                      | ・現行の教育制度は、1996年に<br>確立された。<br>・初等教育(義務教育)は、当初<br>8年間だったが、2006年に9年<br>間に拡大された。<br>・中等教育は15歳～17歳まで<br>の3年間で普通科と専門科がある。 | ・現行の教育制度は、2008年に<br>確立された。<br>・学校は、国立、私立が大部分で、<br>公立は少ない。<br>・私立学校は、11年または12<br>年間の一貫教育を実施し、2学期<br>制としている学校もある。 | ・基礎教育期間は、初等教育6年<br>と中等教育4年の計10年。<br>・中等教育を受けるには初等教育<br>を終了していることが条件。何ら<br>かの事情で学校に通学できない<br>15歳以上の若者などを対象とし<br>た代替学習制度 ALS (Alternative<br>learning System) がある。 |
| 学費                      | ・学費は小学校から大学まで無料<br>(公立の場合)<br>・教材費は1年～9年まで政府負<br>担                                                                   | ・国立学校の小学校、中学校は授<br>業料無料<br>・教科書は小学校では無料配布、<br>中学校では年度当初に借りる。<br>・教材費は、地域により個人負担<br>となる場合がある。                    | ・小学校は無料<br><br>(義務教育ではないが公立の中<br>学、高校の授業料は無料。制服、<br>教材費有料)                                                                                                       |
| 給食                      | 公立の小・中学校では<br>給食は無料                                                                                                  | 昼食が必要な場合、各自持参                                                                                                   | 小学校1～3年生は、栄養不足の<br>児童を対象とした給食制度あり                                                                                                                                |
| 落第制                     | 初等教育において、出席日数や進<br>級試験による落第がある。3回ま<br>では、同じ学年にいられる。                                                                  | 義務教育であっても、試験の結果<br>が合格点に満たない生徒は進級<br>できない。落第があるが、復学は<br>自由で年齢制限もない。                                             | 落第制度がある。初等中等教育に<br>おいて、児童、生徒は各教科の単<br>位を満たした場合に進級できる。                                                                                                            |
| 交替制                     | 小・中学校の多くは2部制で、午<br>前か午後のどちらか4時間学校に<br>通う。高校の多くは3部制。夜間<br>部がある地域もある(小中高校)。                                            | 小学校、中学校は、午前・午後<br>の2部制と、午前・午後・夜間の3<br>部制がある。                                                                    | 小学校、中学校、高校は、午前、<br>午後の2部制と、午前・午後・夜<br>間の3部制がある。                                                                                                                  |
| 教授言語                    | ポルトガル語                                                                                                               | 国公立の学校はスペイン語                                                                                                    | 就学前から3年生はフィリピン<br>語、4年生から中等教育は英語及<br>びフィリピン語                                                                                                                     |

外務省、(財)自治体国際化協会の資料の他、ブラジルの情報については金田エリザさん(豊田市立保見中学校語学相談員)、ペルーの情報については松本ナンシーさん(主婦)からの情報を基に作成

## 資料③ 事例から考える異文化理解

地域の日本語教室には、いろいろな子どもたちがやって来ます。彼らと向き合う中で、「どうしてそうになってしまうのかな……」と悩むことがよくありますが、今回、ブラジル、ペルー、フィリピンの学校事情に詳しい皆さんにうかがった中に「そうなんだ！」と納得した答えがありました。

ここでは、進路に関する事例を通して、支援者の関わり方を考えてみたいと思います。

### 事例① フィリピン出身のK君（15歳）

昨年来日したK君。「1年間家にいたけれど、やっぱり学校へ行きたい」と日本語教室にやってきました。

来日した時に、どうしてもすぐに公立中学校へ編入しなかったのか、不思議です。



フィリピンの学校制度では、小学校を卒業すると、中学と高校が一緒になった中高一貫校（p.38）へ進学します。義務教育は小学校の6年生までです。

K君はフィリピンでいう Junior High School（中高一貫校の前半の2年）を修了しているため、K君の保護者は、日本の中学校に入る必要がないと思い込んでいたようです。

### 事例② ブラジル出身のT君（中学2年生）

T君は、勉強が嫌いというわけでもなさそうだし、やればできると思われるのに、のんびりしていてやる気が見られません。

もう少し頑張れば公立の進学校にだって行けそうなのに、このままのペースでは勉強が遅れてしまいそうです。



ブラジルでは、中学校から高校へ進学するときに特別な試験はありません。私立高校の中には入試が必要なところもありますが、公立高校は籍が空いていれば入れます。

「日本には落第がないので、高校進学と学力は関係ないと思っていた。」と言った学習者も、以前いました。高校受検について、早い時期からの情報提供が大切です。

### 事例③ ブラジル出身のJ君（15歳）

そろそろ志望校を決めたいと思い、J君の保護者と面談をしました。

日本語のレベルと学力を考えて、「続けること、卒業すること」を目標に、高校の話を出してみました。全く関心が無さそうです。

保護者の希望は、入学試験に合格しそうな高校で、どうしたらいいのか戸惑います。



ブラジルでは、子どもの進学先は保護者の持っている情報で決めることが多く、先生が進路に関与することはあまりありません。

保護者は、知り合いからの情報や、学校の雰囲気などで高校を決めます。入学ができるかできないかは早いもの順で、人気のある公立高校は、朝早く並んで籍を取ります。

日本の高校選びに際しての考え方を、丁寧に伝えることから始める必要があるかもしれません。

#### 事例④ ペルー出身のSさん（15歳）

日本の高校について、教室で説明をする予定です。

教室にはブラジルとペルーの生徒がいます。同じ南米でも教育制度は違うのでしょうか？



ペルーでは小学校（6年間）と中学校（5年間）を修了すると、大学や専門学校へ進学できます。日本の高校にあたる学校はありません。

一方、ブラジルでは、小学校（4年間）と中学校（5年間）を修了後、高校にあたる学校（3年間）を経て、大学や専門学校へ進学をします。

両国とも、進級試験があり落第することもあります。

#### 事例⑤ ペルー出身のKさん（？歳）

Kさんが来日したのは保育園の頃で、今は中学生です。

帰国する予定はないそうですが、将来についての考えを聞くと、「日本で進学するのか、ペルーへ帰るのか分からない」と言います。

Kさんの状況をどのように理解したらいいでしょうか？



Kさんの保護者は、Kさんに大学まで行ってほしいと思う一方、日本にいつまで居るのかについて、決めることができない様子でした

「子どもにスペイン語を忘れて欲しくない」、「日本の大学は学費が高いのでペルーの大学へ進学する可能性も失ってほしくない」と考えているようです。

さらに一番の問題は、日本で仕事が減ってきていることだと言います。日本に居たくてもリーマンショックの時のように帰国せざるを得ない状況が、また、来るかもしれないと話してくれました。

今できることを積み重ねて、将来に繋げていくことのできる継続的な関わりが求められます。

#### 事例⑥ フィリピン出身C君（16歳）

将来について、教室のみんなと話し合いをしました。

しかし、C君には世の中にどんな職業があるのか、またどうしたらその職業につけるのか、イメージが浮かばないようです。

「〇〇になるために頑張りましょう。」という働きかけは難しいのでしょうか？



フィリピンでは第2次産業が少なく、子どもたちに身近な職業は、看護師、先生、漁師などだそうです。銀行員は花形の職業の一つと聞いています。

「仕事を通して社会的に何かを成す」という考えはあまり一般的ではないようです。先を見通すことが難しい経済状況が背景にあると推測されます。

C君には、「お父さん、お母さん、家族のために頑張りましょう！」という働きかけの方が、理解しやすく、職業について考えるモチベーションが上がるかもしれません。

お話をうかがった皆さん

★ブラジルについて ……豊田市立保見中学校語学相談員 金田エリザさん

★ペルーについて ……大塚多文化共生の会に参加 村田カルメンさん

★フィリピンについて ……名古屋学生青年センター ネストール・L・プノさん

特定非営利活動法人アジア日本相互交流センター・I C A N 田口京子さん

## 第4章 地域において支援を行っている団体の事例

ここでは外国につながる子どもたちのサポートをしているボランティア団体、NPO法人等をご紹介します。地域や子どもの状況によって、その対応や支援方法は異なりますが、活動内容や実績など、これから携わろうとしている方々にも手がかりとなれば幸いです。

【ガイドブックで紹介する団体】

### A. 義務教育年齢超過の青少年への進学支援

NPO法人トルシーダ (豊田市)  
NPO法人可児市国際交流協会 (岐阜県可児市)  
認定NPO法人多文化共生センター東京 (東京都荒川区)  
NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ (横浜市)

### B. 学習支援・進路支援

|                        |                       |
|------------------------|-----------------------|
| NPO法人フロンティアとよはし (豊橋市)  | プラス エデュケート (豊明市)      |
| NPO法人外国人就労支援センター (豊橋市) | 国際子ども学校 (ELCC) (尾張旭市) |
| PECLA (豊川市)            | NPOまなびや@KYUBAN (名古屋市) |
| NPO法人子どもの国 (豊田市)       | NPO法人シェイクハンズ (犬山市)    |

### A. 義務教育年齢超過の青少年への進学支援の取組事例

## NPO法人トルシーダ

2003年11月設立 活動場所: 豊田市保見ヶ丘5-1 都市再生機構141棟第2集会 ☎090-6462-3867

#### 目指していること

- 進路が決まらない、また不就学・不登校の外国籍の子ども・青少年に昼間安心していられる居場所を提供すること。
- 子どもたちとの関わりをつくることを通して社会性をはぐくむこと。
- 地域の外国籍の住民に日本語学習の機会を提供すること。
- 外国籍の住民との地域社会との関わりをつくること。

#### ♥ 学齢超過年齢の子どもをサポートすることになったきっかけ

2007年に中国から来た15歳女子の日本語指導について、他団体から相談を受けたことがきっかけ。彼女は家族と共に来日したが、義務教育年齢を超えていて中学校に入れず、ひきこもりに近い状態になっていた。メンバーの一人が、ほぼ6ヶ月、その子の家に出向き日本語指導を行った。その結果、2年目には日本語教室に来られるようになり、高校受検をするという目標ができた。彼女はその後、定時制高校に入学、現在は看護師を目指して専門学校で学んでいる。

2008年3月には、ブラジル人学校に通っていた男子2名が、「高校へ行きたい」と教室を訪れた。中学校に問い合わせたが、15歳で編入はできず、中学卒業程度認定試験の受験を目指し、勉

強することになった。翌年、二人とも公立高校へ進学した。

これらの経験から、学ぶ機会さえあれば、進路開拓の可能性を広げられる子どもが地域にいることを知った。

[これまでの進学状況]

|        | 学習者数 | 中卒認定合格者数 | 高校合格者数 |
|--------|------|----------|--------|
| 2008年度 | 3人   | 2人       | 2人     |
| 2009年度 | 2人   | 2人       | 2人     |
| 2010年度 | 8人   | 2人       | 8人     |

## ■ 主な活動

### ①日本語教室CSN

……日本の学校へ通っていない子どもたちの居場所作りと日本語指導・学習指導

### ②中級日本語講座

……就労に役立つ日本語を学ぶ講座。就労支援セミナー、日本語能力試験対策など

### ①日本語教室CSN（月曜日～金曜日、1日4時間、習熟度と年齢別にグループ学習）

[受け入れ時に確認していること]

|              |                                                                                                    |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学習歴          | ①出身の国で9年の教育を修了しているか。<br>②日本の公立中学校を卒業しているか。<br>③ブラジル人学校の何年生まで修了しているか等を確認                            |
| 既習状況         | 基礎的な計算問題（繰り上がり、繰り下がり、掛け算、割り算、分数、少数など）と小学校6年生までの学習語彙の漢字を確認（どこから学習を始めるのかを決める）。                       |
| 進路についての考え方など | 本人と保護者の考えが違うこともあるので、入室時に本人と保護者の話をよく聞く。最初は、具体的な考えが無い場合も多い。学校見学や先輩の話聞く会などを計画し、進路について考える機会を作る工夫をしている。 |

[指導上留意していること]

#### ●基礎的な力となる日本語について

高校入学後は、教科学習が中心になり「日本語」の学習時間を取ることが難しくなることや、教室で学ぶ日本語と、高校での国語のレベルにはかなりの開きがあること等を考えると、積み上げ可能な日本語の力を付けておくことが大切だと思われる。中学卒業認定試験では、日本語能力試験N2に合格していれば、国語の試験が免除される。N2のレベルを目標にカリキュラムを立てている。

#### ●漢字学習

小学校1～2年生の基本的な漢字と共に、書き順の原則、画、音と訓、漢字の成り立ち（象形漢字）の学習をする。その後、組み合わせ漢字、形声漢字を学ぶことで漢字を構造的に理解するための時間をとっている。

#### ●教科指導

どの段階で日本語指導から教科指導へ移行するのかは、難しい問題で、CSNでは子どもたちの学習状況をみながら、手探り状態で進めているのが現状である。しかし、日本語の文法の時間の中でも、社会や理科の教科書の内容をトピックに使う等、「教科学習に繋がる内容」を心がけて指導している。



# NPO法人可児市国際交流協会(KIEA)

2000 年 5 月創立 〒509-0203岐阜県可児市下恵土 1185-7 ☎0574-60-1200

## 目指していること

- ➡ 地域社会に対して、地域に生活する人々が共に協力しあい、共に交流し、学びあい、協働活動等を行うことに関する事業を行い、国籍や民族文化・社会環境の異なる人々が、等しく平和に共生できる多文化共生社会を築く事に寄与すること

## ♥ 就学（進学）支援教室「さつき教室」発足のきっかけ

16 歳のブラジル人青年の中学卒業程度認定試験受験と高校進学のサポートをしたことがきっかけ。さらに「ばら教室 K A N I \*」を終えた子どもが高校受験に失敗し家にひきこもっているとの情報があつたこと、2008 年 4 月に可児市多文化共生センター「フレビア」（指定管理者：可児市国際交流協会）がオープンし活動拠点ができたことなどが、「さつき教室」発足へとつながった。

\* 「ばら教室 K A N I」可児市教育委員会が行っている初期日本語指導教室。日本の公立小中学校に編入した外国人児童・生徒を対象とし、基礎的な日本語や日本の学校生活のルール等について集中的に学ぶ。

[さつき教室の学習者数と高校合格者数]

|        | 学習者数 | 高校受験者数 | 高校合格者数 | 中卒認定合格者数 |
|--------|------|--------|--------|----------|
| 2005 年 | 1 人  | 1 人    | 1 人    | 1 人      |
| 2008 年 | 3 人  | 1 人    | 1 人    |          |
| 2009 年 | 12 人 | 7 人    | 7 人    | 1 人      |
| 2010 年 | 24 人 | 5 人    | 4 人    |          |
| 2011 年 | 23 人 | 4 人    | ・・・    |          |

- ・ 2010 年、高校合格者 4 人のうち 1 人は家庭の事情で辞退。
- ・ 2010 年、日本語学校へ進学した人が 1 人、留学生試験からの大学進学を考えている。

## ❖ 可児市の外国人の状況など

可児市は岐阜県南部に位置し、市内には岐阜県最大の工業団地がある。また、近隣市にも大手企業が進出しており、平成 23 年 5 月の外国人登録者数は 5,801 人。国籍別では、ブラジルが 3,358 人、フィリピン 1,618 人、中国 351 人、韓国・朝鮮 255 人、ベトナム 44 人、ペルー 43 人と続く。

## ■ 主な事業

[フレビア事業（可児市指定管理委託事業）]

- ①情報の収集・発信・提供業務
- ②日本語の学習支援業務
- ③在住外国人の相談に関する業務
- ④市民交流の場と機械の提供業務
- ⑤フレビアの管理運営業務

[多文化共生にかかわる事業（自主事業）]

- ①日本語指導支援活動
- ②多文化共生交流支援活動  
……就学（進学）支援教室「さつき教室」  
高校進学奨励奨学金授与など
- ③国際理解・語学学習活動
- ④情報交換・発信活動

## ②就学（進学）支援教室「さつき教室」

2008 年「教室に通えばいつでも先生がいる」という居場所づくりから教室がスタート。現在では、勉強だけではなく、七夕や節分などの日本文化に触れることや、社会見学、学校訪問なども行う。生徒は高校進学を確固たる夢として頑張るという子もいれば、友だちに会えて嬉しいという気持ちから教室に通ってくる子もいる。遠方の生徒も多く、中には電車で1時間かけて通学する子もいる。

※ 学校長の配慮のある不登校の子どもが「さつき教室」へ通うことで、中学校の出席日数に数えられているケースもある（報告書の提出あり）。

### 〔目的〕

高校に行きたい人の気持ちを支え、高校の入学試験に合格すること

### 〔基礎情報〕

|     |                                     |
|-----|-------------------------------------|
| 対 象 | 15 歳以上の高校に行きたい人（年齢制限はないが、20 歳ぐらいまで） |
| 時 間 | 10:00～16:00                         |
| 開催日 | 月火木金、50 分×5 授業                      |
| 授業料 | 毎月 2,000 円（2011 年度より徴収）             |

### 〔指導体制〕

担任一人、教科指導担当二人、日本語指導者一人。担任がカリキュラムや時間割作成を行う。

### 〔指導上の工夫、心がけていることなど〕

- ・得意な教科がある場合は得意教科の時間を増やし、できることを伸ばすようにしている。
- ・英語でコミュニケーションが取れる場合は、英語で教えたり、英語で書いたものを読ませたりして教科学習の理解につなげている（特に受験まで時間がない人の場合）。
- ・勉強が嫌にならない程度に、しかし目標達成ができるよう工夫をしている。

### 〔授業料〕

2011 年度は、子どもだけでなく保護者にも「進路について向き合ってほしい、進学を支える覚悟を持ってほしい」という気持ちから授業料を徴収。

### 〔教育委員会との連携について〕

可児市教育委員会の国際学級連絡協議会に年5回、メンバーとして参加。国際学級連絡会議では、情報共有、研究授業、進路説明会、進路学習会（外国人枠のある高校訪問）などを行う。

### 〔課題など〕

生徒を随時受け入れているため、入室時点で学力に差があり、一律に対応ができないことが難しい。各国の教育事情もあり、来日まもない子どもの入室が重なる時期がある。指導の負担が増えるが、目的とする高校受験まで続かないことが多い。必ずしも高校進学を目的としない子の受け入れは今後検討が必要。また、この教室は今後も継続して実施していきたいが、財源が安定していないのが最大の課題。

## \* ブラジル人学校での進路ガイダンスと職場体験

2011 年度岐阜県国際交流センターの委託事業で、ブラジル人学校「イザキニュートン校」の中学、高校生を対象とした進路ガイダンスと職場体験を実施。生徒への事前アンケートを行い、希望に沿うよう体験先を探した。美容院、コンビニ、多文化共生センター「フレビア」、可児市文化創造センター「アーラ」、フットサル場、病院（見学のみ）などから協力を得ることができた。いろいろな職業があることを伝えることが目的だったが、結果として「日本語をもっと勉強したい」という感想が多く寄せられ、日本語習得の大切さについても学ぶ機会となった。

# 認定NPO法人多文化共生センター東京

2001 年 4 月設立 〒116-0003 東京都荒川区西日暮里 1-5-8 ☎03-3801-7127

## 目指していること

➡ すべての子どもには教育を受ける権利がある。また、さまざまな文化や言語、価値観を持つ子どもたちが日本で育った子どもたちと共に学び、成長し、同じ社会の一員として参加できる、よりよい社会をめざす。

## ♥ フリースクール設立のきっかけ

設立当初より実施している教育相談において、学齢超過年齢に関する教育相談が多く寄せられたことから、学びの場づくりの必要性を感じ、2005 年 6 月、たぶんかフリースクールを設立。

学習機会と居場所を提供し、正規の学校（主に高校）につなげることを目指し、事業を実施している。

＊多文化共生センターについて……1995 年の阪神・淡路大震災の際に外国人被災者の支援を行った「外国人地震情報センター」が母体となり、同年 10 月に「多文化共生センター」が発足。活動は大阪・京都・兵庫・広島・東京と 5 つの地域へ広がり、2006 年 4 月には各地域が独立、それぞれの活動を展開している。

## ❁ 東京都の現況など

・外国につながる生徒を対象にした高校入試について

東京都は「来日 3 年以内」を対象に在京外国人生徒対象の入学者選抜を実施。平成 24 年度 4 月は 3 校で 55 人の枠があり、倍率はほぼ 2 倍。作文と面接により選考が行われ、どちらとも日本語または英語を選ぶことができる。

・夜間中学校

公立夜間中学校が 8 校ある。

## ■ 主な事業

- [教育事業] ①たぶんかフリースクール ②学習支援  
③多言語進学ガイダンス ④外国籍児童生徒調査  
[ファミリーサポート事業] ⑤親子日本語クラス  
[人材育成事業] ⑥多文化理解/ワークショップ  
[情報提供事業] ⑦情報提供／刊行物

### ① たぶんかフリースクール（荒川校、新宿校の 2 校）

生徒数は荒川校で 30 人～40 人、新宿校で 20 人程度。生徒の出身等は中国が約 8 割、フィリピンが 1 割。その他にタイ、韓国、ペルー、ネパール、ベトナムから来ている。学習期間は最長 1 年、8～9 月入学が多く、12 月に入校し、翌年 2 月～3 月の高校受検をする場合もある。

フリースクールの生徒はみんな外国から来た生徒であり、日本の友達がいらない。みんな日本に来て、日本の学校に行きたいのに、中学も高校も入れてくれる学校がないため、日本語を話す機会が限られている。学費もかかるし、学割もない。そのため可能な限り次年度には高校進学につなげている。中学卒業資格を持つ子どもがほとんどだが、受検資格がない場合は、夜間

中学につながっている。なお、荒川校は廃校になった小学校の一部を、教室として活用している（行政から無償提供）。

#### [開講クラス]

昼クラスは日本の中学校・高校両方に入ることのできない生徒、夜クラスは中学校へ通っているが日本語が不十分な生徒を対象としている。生徒と保護者に対しては、高校進学のための3者面談、情報提供、進路相談、面接練習などの進路指導を行っている。

その他：担任ミーティング（毎週） 教科会（英・数・日本語 不定期）

全体ミーティング（学期初・学期終） 必要に応じて各種行事あり

|      |                         |                                     |
|------|-------------------------|-------------------------------------|
| 朝クラス | 2か月                     | 荒川区ハートフル日本語適応指導事業<br>（通室による初期日本語指導） |
| 昼クラス | 週4回（火～金）<br>13：00～16：20 | 日本語指導、教科指導                          |
| 夜クラス | 週4回（火～金）<br>18：00～21：00 | 日本語指導、教科指導                          |
| 夜クラス | 3か月 週3回<br>18：00～21：00  | 荒川区ハートフル日本語適応指導事業<br>（補充学習指導）       |
| その他  |                         | 担任中心の進路指導（昼・夜クラス共通）                 |

#### [指導上心がけていること]

入試対策として面接の練習、小論文、作文の練習を丁寧に行っている。また、得意なことを伸ばす指導を心掛けている。例えば英語が得意なフィリピンの生徒の場合は、英検の受検を勧め、本人のモチベーションアップにつなげている。

### ④外国籍児童生徒調査

外国ルーツの子どもたちの高校進学の実態と問題点を解明することを目指し「東京都の外国ルーツの子どもたちの高校進学に関する実態調査」を2001年度から実施、報告書を作成している。

### ⑤多言語進路ガイダンス（5言語、夏と秋に3カ所で実施）

対象は中学生と学齢超過の生徒。参加者は保護者を含めると毎回80名程度で、都立高校や私立高校について、費用や教育システムなども含め説明をしている。実行委員会形式で開催。

### ■ 子どもたちが抱える課題

|     |             |                                                                       |
|-----|-------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 課題1 | 不十分な受け入れ態勢  | → 授業がわからず孤立、不登校や中退の原因に<br>→ 義務教育の中学は、誰でも通えるものではない                     |
| 課題2 | 学ぶ場のない子どもたち | 15歳以上で来日した子どももしくは母国で中学を卒業して来日した子どもは <b>基本的には日本の公立中学校に入学することができない。</b> |
| 課題3 | 高校受験の壁      | → 高倍率・5教科受検等                                                          |
| 課題4 | 家族のサポートが不十分 | → 進学に不可欠な情報が得られない                                                     |

# NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ (ME-net／みーねっと)

〒231-0062 横浜市中区桜木町 1-1-56 みなとみらい 21

クリーンセンタービル 5 階 横浜市市民共同オフィス内 ☎050-1512-0783

## 目指していること

- ➡ 外国につながる子どもたちの教育を支援し、外国につながる子どもたちとその周辺の子  
どもたちが共に生きられる社会を実現すること

## ♥ ME-net 発足のきっかけ

1995 年に実施された「高校進学ガイダンス（対象：外国につながる子どもや保護者）」をきっかけとして、関わった団体により発足したネットワーク型の NPO 法人。ガイダンスは実行委員会形式で実施され、その構成は地域の日本語教室関係者、高校教諭、学習教室の支援者などであった。

実施に至った経緯は、その当時、外国につながる子どもや保護者にとって「日本語のみで実施される高校入試が、高校進学の大きなハードルになっていること」、「進学に関する情報が不足していること」などが、懸念されていたことにある。

また、神奈川県には、もともと中華系や中国帰国者、韓国・朝鮮コミュニティがあったこと、インドシナ難民を受け入れる定住促進センターがあったこと、京浜工業地帯を中心に沖縄出身者の集住地域があり、日系南米人の移住者が多かったことなどから、他地域に先行する形で、地域における日本語教室活動が展開されたり、外国籍の子どもの公立学校への受け入れに関する議論がなされたりといった歴史的背景もある。

## ✿ 神奈川県の教育の現況など

### ➡ 学齢超過年齢の生徒の受け入れ状況

公立中学校での受け入れは、市町村によっては中学校長の裁量で受け入れる中学校もあるが、全く受け入れない市町村もある。横浜市の場合は学齢を重視し、夜間中学のみでの受け入れをしている。

### ➡ 夜間中学校

県内に 6 校の公立夜間中学校がある。

### ➡ 高校入試「在県外国人等特別募集（在県枠）」について

対象は在留 3 年以内の外国籍（含：日本国籍取得 3 年以内）の生徒で、在県枠のある高校は計 10 校、合わせて約 109 人の定員がある。学力検査は、英語、国語、数学（ふりがな付きの試験）の 3 教科で実施される。

### ➡ クリエイティブスクールについて

県内には 3 校の「クリエイティブスクール」と呼ばれる高校があり、中学校の成績（5 段階評定）が学力検査によらず、意欲や表現力を重視する入試が実施されている。部活で活躍した、英語が得意といった個性が、入試の際に評価される。



## ■ 主な活動

---

### ①高校進学ガイダンス

多言語通訳を配置し、県内五か所で毎年開催している。神奈川県教育委員会高校教育企画課も主催団体であり、役割分担について協定書を交わしている。また教職員組合や地域の国際交流の組織など計 16 の協力団体がある。内容は全体会（公立高校入試についての説明、高校生体験談、質疑応答）と分科会（個別相談、在県外国人等特別選抜募集校の相談ブース）などである。

### ②多言語版高校進学ガイドブック

日本語を母語としない生徒や保護者の方への高校進学の情報提供として、多言語版「公立高校入学のためのガイドブック」を作成している。神奈川県教育委員会と協働することにより、入試の正しい情報の提供、県内全中学校への配布数調査を行うことができている。

### ③かながわ外国人教育相談

ガイダンスで見えてきた教育にまつわる多様なニーズと、ガイダンスの少ない機会ではカバーしきれない教育に関する相談に対応するために、定期相談として開始。相談員派遣・講師派遣・会議参加等の依頼を受け、他団体との連携へとつなげている。

### ④多文化教育コーディネーターの高校への派遣（15 校）

高校進学後の高いドロップアウト率が見えてきたことで、入学後のサポートを充実させようと、2007 年度より開始。かながわボランティア活動推進基金 21 のなかで、外国につながる生徒の特に多い県立高校へ多文化教育コーディネーターの派遣を行っている。2007 年度に 4 校の試行ではじまり、2011 年度には 15 校にコーディネーターを派遣している。

### ⑤外国につながりをもつ子ども支援ネットワーク会議

県関係機関と外国につながりをもつ子どもたちを対象に活動を行っている NPO/NGO が、情報交換と課題共有、課題解決に向けた連携の可能性を検討するための会議を開催。

### ⑥たぶんかフリースクールよこはま

学齢超過などの理由で、制度の狭間に取り残されてしまう子どもたちの高校受検に対応した「学びの場」として、2009 年より開校。授業は、週 3 日、午後 1 時から 3 時間。教員や有資格者によって日本語・国語・数学・英語の授業をおこなっている。2011 年度も高校受検者は全員合格している。

### ⑦若者交流（交流会、キャンプ、フェスティバル）

ふだんはなかなか自分と同じように多文化、多言語の環境で育つ友だちに出会えない外国につながる子ども、生徒、若者が学校や地域の枠を超えて交流できる機会をつくることで、彼/彼女たちをエンパワーすることを目的とし、春の「オルタボイス交流会」、秋には 1 泊 2 日の「オルタボイスキャンプ」、3 月に「オルタボイスフェスタ」の 3 企画を行っている。

### ⑧CEMLA での連携

県立相模原青陵高校が運営している「多文化共生の学習支援拠点」への協力・連携を行っている。週 1 回学習支援教室 CEMLA スクールおよび多言語による教育相談・情報提供を実施している。

## ■ 課題

---

組織的な課題としては、安定した財政基盤の確保である。事業については、教育委員会との協定などにより着実に実施できている。外国につながる子どもたちの現状においては、相当数が大学へ進学していると推測されるが、就労の困難さが際だっている。大学と連携し、就労につながる支援をどう展開していくかが大きな課題である。

## NPO法人フロンティアとよはし

活動場所: 豊橋市東幸町字大山9-4「セミナールーム」

中野教室(中野校区市民館)、多米教室(多米市民館)、緑ヶ丘教室(東陵地区市民館)など

- 東三河周辺地域において、言葉を架け橋とした双方向の学びから理解を深める事業を行い、日本人と外国人が共生を目指せる地域づくりを行う。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>設立 1998年12月<br/>代表 河村 八千子<br/>子ども 約15名<br/>スタッフ 30名<br/>(各教室 約5名)<br/>社会人、大学生など<br/>有償 30名(公務員無償)</p> <p>活動時間と参加費<br/>①親子日本語教室<br/>毎土曜 10:00~12:00<br/>中野、緑ヶ丘教室<br/>多米教室 10:00~11:30<br/>1か月 300円<br/>②ポルトガル語教室<br/>毎土曜-中野、隔土曜-多米<br/>13:00~15:00<br/>1回 500円<br/>③アフタースクール<br/>小学生:<br/>7月下旬~8月上旬<br/>中学生:定期試験の前と<br/>夏休みの限られた日数<br/>中学生のみ1か月 300円<br/>(金田住宅は、無料)</p> <p>活動資金<br/>・会費収入年間3千円<br/>・行政からの助成金</p> | <p>主な活動と教材</p> <p>活動のはじまり</p> <p>目指していること</p> <p>対象者</p> <p>スタッフについて<br/>資格、募集方法、研修など</p>                                                                                                                                  | <p>①親子日本語教室:外国籍市民とその子弟に対する日本語指導と学習指導<br/>中野:みんなの日本語、多米:トウカーノ、漢字大好き、緑ヶ丘:みんなの日本語、漢字大好き<br/>②ポルトガル語教室:コミュニケーション増進を図るためのポルトガル語指導<br/>③豊橋市国際課アフタースクール:夏休みの宿題など日本語と教科支援・小学生<br/>定期試験対策と、夏休みの宿題など日本語と教科支援・中学生</p> <p>フロンティアとよはしには、伊藤育雄さん(元代表)の思いがある。伊藤さんは、第2の人生をかけて、豊橋市外国人市民のための医療と教育、子どもの母語保持と日本語教育支援を行った。2006年に伊藤さんが離れ一度解散したが、スタッフは、現代表の河村さんを中心に残り、2008年に再び活動を始めた。</p> <p>・子どもの日本語学習支援<br/>・保護者に日本の教育制度について情報を提供すること<br/>・地域の外国人と日本人の交流を通じてのネットワーク構築</p> <p>①親子日本語教室:外国人市民とその子どもたち<br/>中野教室・2人、多米教室・10人、緑ヶ丘教室・2人<br/>②ポルトガル語教室:<br/>日本人が10人ほど、参加者のほとんどが公務員、他にコンビニの店長さん<br/>③豊橋市国際課アフタースクール:小学生は、70~80人が参加<br/>中学生、夏休みには毎回8人くらいの生徒が2時間ずつ学習した。</p> <p>資格:特に資格は要らないが、やる気がある、子どもが好きなこと<br/>募集:ちらしを会場近くの団地に貼ったり、ポスティングしたりする。<br/>住宅に回覧版を回す(回覧板の効果は限定的)。学校にちらしを貼る。<br/>一年にスタッフ希望の電話が4~5本、学習希望の電話も同数かかる。その他、卒論を書きたいなどの電話が入る。また、ボランティア養成講座で募集したり、知り合いに声をかける。団地の先生は、団地つながりで参加してもらう。</p> |
| 工夫していること                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 団地に住む人たちに運営に参加してもらうことで、自治体内で外国人居住者とのコミュニケーションがよくなる。                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 進路開拓支援など                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 「中学生向け車座集会」を豊橋市立4つの中学校(豊岡中、南陽中、東陽中、東部中)の生徒を対象に計4回実施して、ガンバッている先輩から直接、「本当に頑張れば夢の扉は開く」というメッセージを届ける。                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 活動継続の秘訣                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 地域のニーズをきちんと把握して企画し、必要なお金は自力で調達するという心構えを常に持ち続けること。                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 活動を通じて感じたこと                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 高校受験等、学校(行政)・親に子どもたちの将来について、子どもと同じ価値観で考えてもらえないことが非常にづらい。                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 連携                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 県や市、学校と連携をして、活動を行っている。昨年は、市の指導者育成事業10回と愛知県の体験交流活動(外国人向けのキャリア教育ワークショップ、座学とお仕事体験)を行った。今年は、上述「中学生向け車座集会」の実施。豊橋市国際課のアフタースクールでの学習支援。夏休みには集中で宿題をみる。また、ジョブトレやインターンシップなど就労に関する話をしてほしい時は、外国人就労支援センターに依頼する。多文化共生リソースセンター東海とも情報交換をする。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| うまくいかなかったこと                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 公立高校へのハードルが高くなってきている。また、高校に入っても卒業できないケースも多い。なぜ高校卒業資格が必要なのかを、早い段階(小学校5年くらい)から保護者にきちんと理解してもらう必要があるが難しい。                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

連絡先(事務所)

440-0851

豊橋市前田南町 1-3-1-1401

TEL (090) 3950-3146 (河村)

TEL/FAX 0532-55-5470

Mail frontier-ty@tees.jp

HP <http://www.geocities.jp/frontiertoyohashi/>

# NPO法人外国人就労支援センターIJT

活動場所: 豊橋市牛川町字東側63



- どんな立場の子どもたちも安心して暮らせる環境をつくっていききたい。
- 地域企業や行政、医療サービスのための国際化のお手伝い。

|                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>設立 2007 年 8 月<br/>代表 小野田 美紀</p> <p>子ども 約75名</p> <p>スタッフ 25名<br/>有償 15名<br/>無償 10名</p> <p>活動時間<br/>月～金<br/>(土日、祝日休み)<br/>9:00～17:00</p> <p>活動資金<br/>・インターン事業収入<br/>・寄付金<br/>・行政から助成金<br/>・会費 年間 5 千円</p> | 主な活動と教材                                                                                                                                                                                                  | <p>①外国人青少年就労支援/International Job Training<br/>パソコン教室、日本語能力試験対策講座、日本語を使つてのコミュニケーション能力を高めるための授業、これからのために準備する母国語トレーニングなど</p> <p>②翻訳・デザインサービス</p> <p>③外国人学校支援:ブラジル人学校では、進路指導がないため</p> <p>④日本文化講座:人と会ったら帽子をとる。雨が降っても出勤するなど短期マナー講座<br/>事務関係のパソコン操作、日本で生活するために必要な知識(例、ローンの組み方)など指導</p> <p>⑤介護ヘルパー2級前講座</p> |
|                                                                                                                                                                                                            | 活動のはじまり                                                                                                                                                                                                  | <p>日本語や学習を支援する環境は整いつつあるが、その出口となる就労に関する支援が十分でないことに気づき、活動を開始。</p> <p>IJT のスタッフの一人渡邊さん個人のきっかけは「7年間、子どもに教えていた。中学校から高校をへても、就職先がない。工場も無理。それってありって思った。それがきっかけだった。」</p>                                                                                                                                     |
|                                                                                                                                                                                                            | 目指していること                                                                                                                                                                                                 | <p>今後さらに進む国際化、共生問題を積極的に地域の皆さんと取り組み、どんな立場の子どもたちも多様な夢を描ける地域社会づくりを目指す。</p>                                                                                                                                                                                                                             |
|                                                                                                                                                                                                            | 対 象 者                                                                                                                                                                                                    | <p>支援対象は特に限定していない。</p> <p>介護ヘルパー2級前講座は介護業界への職業シフトを考えている大人40名ほどが受講した。</p>                                                                                                                                                                                                                            |
|                                                                                                                                                                                                            | スタッフについて<br>資格、募集方法、研修など                                                                                                                                                                                 | <p>資格: 将来青少年に有用な技術を伝授できる人 または起業を目指している人</p> <p>募集方法: 公募</p> <p>研修: ブラジル人学校で異文化の感覚を身に付ける。</p>                                                                                                                                                                                                        |
| 工夫していること                                                                                                                                                                                                   | <p>様々なインターンに出る前に、まずは日本人と話す機会を作り出す。そのために接遇、日本のマナーの講座を徹底して行う。インターン先として機能しているカフェは、お客さんが探さないと来られない隠れ家的要素を付加し、メニューやしつらえをおしゃれにすることで営業努力をする。足を運ぶお客さんは特に意識することなく、またトレーニング生は自然と日本文化と触れ合うような状況を作ることが重要だと考えている。</p> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 進路開拓支援など                                                                                                                                                                                                   | <p>NPO の通訳など、金銭以外にもさまざまな動機で働く人の話を聞く機会を設けている。また今、ブラジルに進出する日本の企業に、ブラジルで仕事をしたい人をつなげ、ブラジルで展開させたい。日本で生活する子は納税者になる。国に帰る子は、ブラジルにうまくつなげる。現在は母国での福祉サービスとガイドを展開している。日本とブラジル、両方を身に付けた特性を生かした仕事につなげたい。</p>           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 活動継続の秘訣                                                                                                                                                                                                    | <p>活動を実際の職業や仕事としていくこと。</p>                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 活動を通じて感じたこと                                                                                                                                                                                                | <p>少子高齢化が進む中で、いずれ外国からの労働力が必要となることが予想される。非常事態になる前に、すでに同じ地域で暮らしている、日本に近い存在である在日外国人青少年たちが活躍できる社会づくりを進めなければ、日本の経済活動はより厳しいものとなることが予想できる。</p>                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 連携                                                                                                                                                                                                         | <p>静岡県湖西市ならびにブラジルパラナ州にあるブラジル人学校 Escola Nova Era(ノバエラ)との交流がメイン。もともと不就学児童も受け入れていた Escola Nova Era(ノバエラ)と協働実施し、さまざまな事業を試みている。</p>                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| うまくいかなかったこと                                                                                                                                                                                                | <p>日本語力や滞在年数によって、ジョブトレにすぐに入れる子もいれば、ジョブトレ前の日本語にかなり時間がかかってしまう子もいる。今後は日本語の部分は学生と協力する方法や、他日本語専門 NPO との協働を考えている。</p>                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

連絡先(事務所)  
440-0016  
豊橋市牛川町字東側 63  
TEL/FAX 0532-39-7406  
Mail shuroshien@gmail.com  
HP <http://www.geocities.jp/shuroshien/>





# PECLA

活動場所: 豊川市諏訪町 3 丁目 242 番地 豊川市社会福祉会館「ウィズ豊川」  
「ウィズ豊川」が使えない時、勤労福祉会館や体育館を使用する場合がある。

- 豊川市国際交流協会に属するボランティアグループ「ラテンアメリカ部会 教育プログラム」の活動の一つ
- PECLA: Programa Educativo del Círculo Latinoamericano de Toyokawa の略

|                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>設立 2003 年 1 月<br/>日本語教室<br/>代表 塚原 信行<br/>玉村 弘一</p> <p>子ども 約 25 名</p> <p>スタッフ 15 名<br/>社会人、大学生など<br/>(交通費程度支給)</p> <p>活動時間<br/>毎土曜 14:00~17:00</p> <p>活動資金<br/>・会費 年間1万円<br/>・行政からの助成金</p> | <p><b>主な活動と教材</b></p> <p>「日本語教室」: 日本語学習支援。学校の教科内容の補足説明や宿題の指導。<br/>教材は、学校の教科書・宿題・ドリル、てのひら文庫(絵本)、各種カード・カルタ・パズルなど。親の会が運営する「スペイン語教室」と「ポルトガル語教室」も並行して開催している。</p>                                                |
|                                                                                                                                                                                              | <p><b>活動のはじまり</b></p> <p>親子間のコミュニケーション言語であるスペイン語やポルトガル語を話すことのできない子どもたちを抱えて悩んでいたラテンアメリカ出身の親が集まり、日本の学校の勉強を補強していくとともに、「子どもたちが母語を忘れないように」との思いで、学校外での教育活動を始めた。</p>                                              |
|                                                                                                                                                                                              | <p><b>目指していること</b></p> <p>日本の学校の授業についていけるようにすることと、母語保持を目指している。</p>                                                                                                                                         |
|                                                                                                                                                                                              | <p><b>対 象 者</b></p> <p>豊川市及びその周辺に住み、ラテンアメリカにルーツのある小学生や中学生。日本の学校、またはブラジル人学校に通っている児童。</p>                                                                                                                    |
|                                                                                                                                                                                              | <p><b>スタッフについて<br/>資格、募集方法、<br/>研修など</b></p> <p>資格: 子どもに教える気持ちのある方。日本語教室のボランティアは資格の有無などは問わない。スペイン語教室とポルトガル語教室は、教員資格を持っている方や教えた経験のある方に依頼<br/>募集: 豊川市の広報誌などで募集している。随時募集をしている。<br/>研修: 特になし。規則などは、設けていない。</p> |
| <b>工夫していること</b>                                                                                                                                                                              | <p>学校の授業を理解するために必要な語彙の強化を目的に、絵本の貸し出しなどを行い、「読む機会」を増やすようにしている。どのボランティアでも子どもに対応できるよう、学習進度を記録した個票を作成している。「スペイン語教室・ポルトガル語教室」が並行して行われ、子どもは1時間単位(授業 45 分、休憩 15 分)で、好きなように教室を組み合わせることができる。</p>                     |
| <b>進路開拓支援など</b>                                                                                                                                                                              | <p>保護者の要望により、高校への進学をサポートするために、日本語教室とは別に中学生教室を行っている。主に一人のボランティアが曜日・時間を各中学生に割り振り、教科学習を行っている。時には、進学相談にも応じている。</p>                                                                                             |
| <b>活動継続の秘訣</b>                                                                                                                                                                               | <p>ボランティアが無理なく対応できる範囲で活動を行うこと。<br/>経済的な問題や学校対応などは、個人ベースで行うことはあるが、会としての支援はしていない。</p>                                                                                                                        |
| <b>活動を通じて感じたこと</b>                                                                                                                                                                           | <p>進路開拓には、子ども本人の強い希望と親の理解が必要。通常の日本人の子ども以上に努力が求められる。勉強に一生懸命取り組んでいるにもかかわらず、日本語能力が十分に備わっていないため、学校の成績が上がらず、進学をあきらめたり、本人の持っている能力より低いレベルの学校へ進学せざるを得ない場合もある。学校や地域社会、ホスト国である日本の社会が実情に応じて、外国籍の子どもに接することが必要。</p>     |
| <b>連携</b>                                                                                                                                                                                    | <p>消防署、警察署の協力を得て防災・防犯、交通安全教室を実施。<br/>その他は特に他機関との連携はないが、必要に応じて個人ベースで連絡をとることはある。</p>                                                                                                                         |
| <b>うまくいかなかったこと</b>                                                                                                                                                                           | <p>可能な範囲で活動するので失敗談はない。</p>                                                                                                                                                                                 |
| <b>メ モ</b>                                                                                                                                                                                   | <p>PECLA が所属するラテンアメリカ部会(CLT)は、ペルーの方とブラジルの方が毎年交代で1年ずつ代表を務める。CLT では、教育(PECLA)、芸能(ダンス教室・音楽)、スポーツ(サッカー)を行っており、ダンス教室には日本人も参加している。</p>                                                                           |

**連絡先**  
442-0878  
豊川市新道町1丁目1-3 勤労福祉会館内  
財団法人豊川市国際交流協会 気付  
\*以下すべて交流協会が連絡先。  
TEL (0533) 83-1571  
FAX (0533) 83-1581  
Mail tia@yui.or.jp  
HP <http://www.yui.or.jp/tia/>



# NPO法人子どもの国

活動場所: 豊田市保見ヶ丘5丁目1番地公団141棟第2集会所



- 日本社会で、自立して生活をしていかなければならない。
- 基礎学力をつけよう！日本で仕事をしよう！と伝えている。

|                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>設立 1999 年 11 月<br/>代表 井村 美穂</p> <p>子ども約 50 名</p> <p>スタッフ 45 名<br/>主婦、社会人、<br/>大学院生など<br/>有償 38 名<br/>無償 7 名</p> <p>活動時間<br/>月～金<br/>14:00～18:00<br/>第 4 土曜<br/>18:00～20:00</p> <p>活動資金<br/>・賛助金(企業)寄付<br/>・行政からの支援金<br/>及び委託料<br/>・協力金;1軒につき、<br/>1 か月 5 千円</p> | <p>主な活動と教材</p> <p>活動のはじまり</p> <p>目指していること</p> <p>対 象 者</p> <p>スタッフについて<br/>資格、募集方法、研修など</p> | <p>①放課後学習支援事業「ゆめの木教室」学校の教科書、副教材<br/>小・中・高生: 月曜日～金曜日 14:00～18:00<br/>②体験学習「わくわく教室」 随時(土日と夏休み期間中)<br/>③青少年の自立支援事業「そら」 水曜日 18:30～20:00<br/>④青少年の健全育成ための事業 随時相談・援助<br/>⑤交流会 第 4 土曜日 18:00～20:00</p> <p>1998 年に大人対象の日本語教室でボランティアをしていて、集会所の外でダンスをしていた 10 数名の子どもたちが、全て不就学の子どもたちだということを知り、定期訪問を始めた。</p> <p>国際社会に貢献できる人材育成と青少年の人権擁護</p> <p>①「ゆめの木教室」: 学校に入るため、そして継続的に学校に通うための学習支援<br/>子どもが 35 名、スタッフが 15 名<br/>③「そら」: 中学生就学年齢以上で目的意識の持てない子を対象にして、職業について考える機会を提供</p> <p>募集方法: 豊田市民活動センターのシニア向け職業・ボランティア紹介窓口、ホームページ、セミナーやシンポジウムなどがきっかけで問い合わせがある。<br/>研修: 保見の概況、団体のミッション、活動内容と留意点、スタッフ登録方法の 4 点を伝える。</p> |
| <p>工夫していること</p>                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先輩に、どのようなことに気を付けて勉強してきたかなど、話してもらい機会を作っている。</li> <li>・ 問題を抱えた子どもへの対応は、親と相談する、臨床心理士にアドバイスをもらう、学校での様子を親や先生に聞くなど、子どもの状況にあわせて対応。必要に応じて専門機関につなげる。</li> <li>・ 親は学力により、入れる高校とそうでない高校があることを理解していない。学校から何も言われないと「問題がない」と捉え、直前になって、望む高校を受けることができないと知り驚く親もいる。早い段階で、具体的な数字をもとに説明をしている。</li> <li>・ 親に郵便局の学資ローンを紹介している。無償化といっても、高校入学時は、まとまったお金が必要となる。お金を準備しないと、高校に行けないよ！と何度も伝えている。具体的に私立、公立だとのくらいお金がかかるのかを伝えている。</li> </ul>                                                                                                                                        |
| <p>進路開拓支援など</p>                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                             | <p>子どもの希望する職業選択に、より近づけるような高校選びのための情報提供</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <p>活動継続の秘訣</p>                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                             | <p>継続と透明性が大切。どういうことを思っているかをみせる。困っていることも含めてみせる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| <p>活動を通じて感じたこと</p>                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                             | <p>2000 年頃感じたことは、出稼ぎ(＝限られた期間のみ)ではないということ！行ったり来たりすることはあってもこの先も日本にいたいということがわかった。保護者が保護者らしくあるための後方支援をし続けたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| <p>連携</p>                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                             | <p>東保見小学校と西保見小学校とは毎月 1 回、保見中学校は年に 3～4 回、豊田市内にある高校とも意見交換の場を持っている。個別の子どもに関しては、常に学校、その他行政や専門機関と連絡を取り合いながら支援をしている。中学校の先生から直接電話がかかってくることも多い。</p> <p>一つの組織だけでは、解決できないことが多い。他団体との連携、子どもを育てる場所である地域の理解が必要。子どものことはすぐに結果がでるものではない。打ち上げ花火的では、連携が難しい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <p>うまくいかなかったこと</p>                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                             | <p>子どもの国と保護者との関係が、主体がどちらかわからなくなってしまっていて、保護者がしなければならないことをこちらに丸投げされたことが、過去に何度かあった。主体がどちらかをはっきりさせておく必要がある。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

## 連絡先(事務所)

468-0055

名古屋市天白区池場5丁目1714番地

TEL (090) 6096-2340

TEL/FAX 052-808-9783

Mail kodomonokuni1999@yahoo.co.jp

HP <http://www.kodomonokuni-aichi.org/>





# プラス エデュケート Plus Educate

活動場所: 豊明市二村台3-1-1 豊明団地55-107



## ➤ 外国籍児童生徒のための 豊明日本語・教科指導教室

|                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>設立 2009 年 10 月</p> <p>代表 森 顕子</p> <p>子ども<br/>約 30 名～40 名</p> <p>スタッフ 11 名<br/>有償 1 名<br/>無償 約 10 名<br/>社会人、主婦、<br/>大学生など</p> <p>活動時間<br/>月水金<br/>10:00～20:30<br/>火木<br/>10:00～16:00<br/>(土日、祝日休み)</p> <p>活動資金<br/>・会費<br/>・行政からの助成金</p> | <p>主な活動と教材</p> <p>活動のはじまり</p> <p>目指している<br/>こと</p> <p>対 象 者</p> <p>スタッフについて<br/>資格、募集方<br/>法、研修など</p>                                                                                                                                                                     | <p>①日本語教室: 日本語初期指導を中心に行う。・・・有料<br/>②教科支援教室:・・・有料 小・中学生とも月、水、金曜日の放課後、各 2 時間ずつ。<br/>小学生: 基本的に宿題をする。算数では教科書の文章題の日本語理解から教えている。<br/>中学生: 日本語(みんなの日本語)、数学、英語。入会時にプレテストをする。<br/>計算力中心、文章題も指導。英数中心。積み上げることは難しいが、英数で 60 点取れることを目指す。<br/>③進路相談及び学習に関する悩み相談受付<br/>④多文化交流促進: 地域住民との交流イベントや日本文化体験イベントの企画・運営</p> <p>大学の同窓会で、日本語初期指導を終えた児童、生徒の支援が薄いと聞いた。始めてみると、勉強する場がないだけでなく、文化差や価値観の違いなど、とても大きなストレスを互いにかかえることになった。知っていたら始めていなかった。国、県の大きな枠の中で、この子たちはどうしていけばいいのか、個人レベルではどうにもならないことが分かる。</p> <p>・日本語教室: 学校には行っていない、日本語を学びたい児童生徒(6歳～15歳)<br/>・教科支援教室: 日本の公立学校に行っていて、日本語及び教科支援を必要としている子どもたち(6歳～15歳)</p> <p>募集: いろいろな機会をとらえて募集をしている。<br/>資格: 資格は問わないが、応募者には面接をさせていただく。<br/>研修: 代表を中心にスタッフミーティングをして、指導法、教材の使用法などについて学ぶ。</p> |
| 工夫していること                                                                                                                                                                                                                                   | 母語に頼らずに日本語で指導する。                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 進路開拓支援など                                                                                                                                                                                                                                   | 志望校選択の相談には、個別にのる。保護者を呼んで、本人のいる前で面談をする。昼間高校では、バイトができないことや通学の費用も含めて進学のためには、いくらかかるか情報提供する。厳しい経済状況の家庭には、子どもには公立高校しかないと、適度なプレッシャーをかける。                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 活動継続の秘訣                                                                                                                                                                                                                                    | 通っている児童、生徒の学習成果をきちんと出すことにより、ボランティアのモチベーションを保ち続けること。                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 活動を通じて<br>感じたこと                                                                                                                                                                                                                            | 集住地区の場合、手をかけすぎてマイナスに出る場合がある。例えば、行政や学校に緊急で通訳をいれれば、それが当たり前になってしまって、自助努力が見られなくなる場合もある。継続ではないなら、先にいつまで支援が受けられるのか伝えておく必要があると感じる。                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 連携                                                                                                                                                                                                                                         | 学校の先生が教室に來たりすることで、精神的にサポートしてもらえ、また、先生方と情報交換ができ、「子どもたちが、座れるようになった、落ち着いた、宿題を出すようになった」など報告を受けることもある。実際、自主運営だけで、金銭面でどうやって維持していけばいいかが大きな課題だ。豊明市市民協働課や他のNPOと何とか組みたい。                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| うまくいかなかった<br>こと                                                                                                                                                                                                                            | <p>プラスエデュケートを始めた当初、中1の子どもたちに部活のことを話し忘れた。部活にはお金がかかる場合が多い。柔道着や楽器、スパイクなどの調達のため、バザーを計画したかったが、平日の昼間は保護者が、週末の夜間は、先生方が都合が悪くて設定が難しかった。</p> <p>プラスエデュケートは学校の勉強の補完をする。日本の塾の費用などの情報は入りにくく、保護者は、安価で、「もっとできるようにしてくれ」とか、「1:1で教えてくれ」とか注文がでる。その他に子どもの服装や化粧で注意をすると、差別意識があると言われたこともあった。</p> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

### 連絡先(事務所)

470-1131

豊明市二村台3-1-1 豊明団地55棟107号

TEL/FAX 0562-92-3822

Mail [plus\\_educate@yahoo.co.jp](mailto:plus_educate@yahoo.co.jp)

HP <http://www.plus-educate.aich-edu.ac.jp/>





➤ 十分な就学の機会が与えられていない在日フィリピン人の子どもたちのための学校。

|                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>設立 1998 年 4 月<br/>代表 池住 圭</p> <p>子ども約 15 名</p> <p>スタッフ 14 名<br/>有償 3 名<br/>無償 11 名</p> <p>活動時間<br/>月～金 9:30～14:30<br/>活動資金<br/>・月謝 1 か月 2 万円<br/>・会員からの年会費及び寄付<br/>一般会員<br/>3 千円、5 千円、1 万円<br/>里親会員<br/>2 万円(1 か月分の月謝を 1 年に 1 か月分だけ支える)</p> | <p>主な活動と教材</p> <p>・週 5 日の授業<br/>・遠足、スポーツフェスティバル、クリスマス会などの行事の企画、実施<br/>教材: 日本の教科書・市販のワークブック・フィリピンで使われている教科書</p>                                                                                                                                                                             |
|                                                                                                                                                                                                                                                | <p>活動のはじまり</p> <p>在留資格を持たない保護者のもとに生まれ、外国人登録がないため、十分な教育の機会が与えられていないフィリピンの子どもたちが、毎日安心して通うことができ、友だちと一緒に勉強する場を作ろうと、緊急避難的に設立された。</p>                                                                                                                                                            |
|                                                                                                                                                                                                                                                | <p>目指していること</p> <p>日本の学校にスムーズに入るための言語支援や基礎学習支援。<br/>フィリピンに帰国する可能性もあるため、フィリピン語やフィリピン文化の学習にも力を入れている。</p>                                                                                                                                                                                     |
|                                                                                                                                                                                                                                                | <p>対 象</p> <p>在日フィリピン人の子どもたち。登録したのは、これまでに 300 人弱。<br/>しかし、帰国したり日本の学校にいけるようになったりや入れ替わりが激しい。</p>                                                                                                                                                                                             |
|                                                                                                                                                                                                                                                | <p>スタッフについて<br/>資格、募集方法、研修など</p> <p>地元の小学校を退職した元教員、学生、社会人など、さまざまなボランティアが多数関わっている。現在、募集は行っていない。</p>                                                                                                                                                                                         |
| 工夫していること                                                                                                                                                                                                                                       | <p>中学校に入る前には、学校行事と科目の説明をする。また、国際子ども学校にはない「先輩・後輩」という関係など、勉強以外の中学生活についても話すようにしている。学習については、簡単な言葉に置き換えるだけではなく、教科書通りに覚えたほうが良い学習言語はそのままの言葉を使う。教科書に太字で出てくる語句の漢字は覚えられよう、振り仮名をつけたり、書き取り練習をする。また、例えば、算数・数学のテストでは、文章題は後にして先に計算問題から解くようになど、具体的なテストの攻略方法を伝え、子どもが「できた」という達成感を感じ、やる気を持ってもらえるよう心がけている。</p> |
| 進路開拓支援など                                                                                                                                                                                                                                       | <p>日本の高校を卒業することは大事。また、中学校の卒業証書をとにかくもらってほしいと伝える。学校に入る手続きも支援し、保護者の要望があれば役所や学校にも同行する。</p>                                                                                                                                                                                                     |
| 活動継続の秘訣                                                                                                                                                                                                                                        | <p>子どもたちの成長を感じられる喜びがあるから。日本の学校で勉強や部活に励んでいる様子や、フィリピンに帰った子が適正学年に編入し、スムーズに学校生活になじんでいる様子を見ると、学校を続けていて本当によかったと思う。</p>                                                                                                                                                                           |
| 活動を通じて感じたこと                                                                                                                                                                                                                                    | <p>最近の傾向として、呼び寄せが増え、年齢が高くなってから来日する子どもがいる。また以前は、幼稚園年齢から入り、長期間「国際子ども学校」で学ぶ子どもが多かったが、最近では在籍期間の短い子どもが多い。</p>                                                                                                                                                                                   |
| 連携                                                                                                                                                                                                                                             | <p>「国際子ども学校」はイギリス国教会の流れをくむキリスト教基盤の施設である名古屋学生青年センターが主催している。「国際子ども学校を支援する会」が支援を行っている。「国際子ども学校を支援する会」は会員からの寄付による財政的バックアップを行うだけではなく、放課後学習支援のコーディネート、遠足やスポーツフェスティバルなどの行事の企画・協力、交流会等を実施している。</p>                                                                                                 |
| うまくいかなかったこと                                                                                                                                                                                                                                    | <p>日本の学校での英語の授業について、話すことはできるけれどテストが苦手、得意だと思っている子どもでも文法などでつまづくことがある。語学を生かしたいと思っていた子どもでも、日本の学校での英語の成績が伸び悩むケースも多い。</p>                                                                                                                                                                        |

連絡先(事務所)

466-0804

名古屋市昭和区宮東町 260

TEL 052-781-0165 FAX 052-781-4334

Mail [nyc.chubu@nssk.org](mailto:nyc.chubu@nssk.org)

HP <http://www.nyc-chubu.org/>



- 私たちは、外国人専門の支援団体ではなく、九番団地(東海学区)の「地域住民応援団体」です。  
国籍や年齢、性差にかかわらず、すべての人が健康で豊かな生活が出来ることを願って活動しています。

|                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                               |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>設立 2008年 9月<br/>代表 川口 祐有子<br/>子ども 約50名<br/>スタッフ 13名<br/>有償 3名<br/>無償 10名(学生中心)<br/>活動時間(土日、祝日休み)</p> <p>「こどもの時間」<br/>火～金 15:00～18:00</p> <p>活動資金<br/>・寄付<br/>・日本語学習支援基金</p> | 主な活動と教材                                                                                                                                                  | ①「こどもの時間」(放課後学習支援教室): 学校の教科書、副教材<br>国籍を問わず、保育園児から高校生まで、子どもが自由に過ごせるよう教室を解放している。宿題をしたり、日本語の勉強をしたり、みんなで遊んだり…夏休みや冬休みの課題のお手伝いもしている。                                                |
|                                                                                                                                                                                | 活動のはじまり                                                                                                                                                  | 地域の小学校で、学習支援ボランティアとして2年間、1年生から6年生までいろんな学級に入り、取り出し学級から母学級に戻ってきた子どもたちが学習に悩んでいるのをみた。この子たちの力になれないかと思っていたとき、保護者から「家の子の宿題をみて」と声がかかり、背中を押される形で活動を始めた。                                |
|                                                                                                                                                                                | 目指していること                                                                                                                                                 | 最終目標は、「自分の家で、一人で宿題ができるようになる」こと。卒業万歳です。最初からある統一ルールは一つだけ、「宿題をやってから遊ぶ」。<br>あとのルールは、必要に応じてスタッフと子どもたちが話し合って決めている。                                                                  |
|                                                                                                                                                                                | 対 象 者                                                                                                                                                    | 学習に来るのは、主に小学校1年生から中学校3年生の子どもたちで、40人くらいが外国人、10人くらいが日本人。ブラジルの子が多いが、他に南米のコロンビア、ペルー、アジアでは中国、フィリピンの子たち。毎日20～30名の子どもたちが来館する。中には不就学の子どもや在日ブラジル人学校に通う子どももあり、多様な背景を持つ子どもたちの憩いの場となっている。 |
|                                                                                                                                                                                | スタッフについて<br>資格、募集方法、<br>研修など                                                                                                                             | ボランティアは、現在のところ大学生が多い。大学の先生が授業の中で「まなびや@KYUBAN」の活動の紹介をしてくれ、学生に声をかけてくれている。学生たちは、子どもの背景についてよく勉強してから来てくれるので、研修する時間がとれない私たちは、非常にありがたい。資格は問わない。子どもの話をじっくり聞いてくれる人を求めている。              |
| 工夫していること                                                                                                                                                                       | 中学生の支援は、大学生のボランティアグループ「ニネイト」に協力してもらっている。「ニネイト」は、定期テスト前に集中して教科学習支援をしてくれる団体で、1:1で指導してくれる。                                                                  |                                                                                                                                                                               |
| 進路開拓支援など                                                                                                                                                                       | 進学を希望する中学生の子どもたちには、中学校1年生の4月から、偏差値や内申点の比重などについて話し、意識させたほうが良いと感じている。まなびやでは高校生の先輩たちが、いろいろと助言してくれる。                                                         |                                                                                                                                                                               |
| 活動継続の秘訣                                                                                                                                                                        | その地域の既存のネットワークに参加させて頂いたり、地域のキーパーソンと知り合いになったりして、外国人だけではなく、日本人も含め、地域の住民とつながり、みなさんに活動を応援してもらうことがとても大切だと感じている。                                               |                                                                                                                                                                               |
| 活動を通じて感じたこと                                                                                                                                                                    | 中学生の子どもや保護者は、進路の情報について学校の先生にもっともっと頼ってもいい。先生たちはその地域、その年度の、最新の情報をもっている。そして、近くに頼れるお姉さん、お兄さん(つまり先輩)がいると、受験経験者ならではの役立つ情報や経験談を聞くことができる。                        |                                                                                                                                                                               |
| 連携                                                                                                                                                                             | UR都市機構、地域の保育園、小学校、中学校やトワイライトスクール、ブラジル人学校、NPO団体、名古屋国際センター、保護者らと連絡を密にし、問題や課題について相談しあえる関係が築けている。とくに学校の先生方が、子どものことを親身になってサポートしてくれているので、子どもたちは安心してのびのびと育っている。 |                                                                                                                                                                               |
| うまくいかなかったこと                                                                                                                                                                    | 教科学習支援では、国語の読解力をどうやって伸ばすのが課題。就学支援では、義務教育年齢を過ぎて来日した子どもたちの居場所や目標を、どうやって探り、作っていくかが大きな課題である。                                                                 |                                                                                                                                                                               |
| メ モ                                                                                                                                                                            | 平成24年4月、モール9番街から、九番団地1棟集会所に引っ越します。<br>下記連絡先は変わりません。よろしくお願いします。                                                                                           |                                                                                                                                                                               |

連絡先  
456-0053  
名古屋市熱田区 1 番 2 丁目 30-4  
シャルム一番 A-208  
TEL 070-5642-1618(川口)  
Mail manabiya\_kyuban@yahoo.co.jp  
HP <http://www.manabiya-kyuban.org>



夏まつりで「おばけやしき」



学習の様子



# NPO法人シェイクハズ

活動場所: 寺子屋「シェイクハズ」(犬山市字若宮69-1)

おかえりなさい塾(楽田ふれあいセンター) 犬山「子ども大学」(犬山市民活動支援センター)



- 日本語を学習することで、地域の中での彼らの居場所を作りたいと願っていますが、まだまだ道のりは遙かかなたです。でも、あせることなく、一緒に将来を楽しんで夢見つつ……って感じで頑張っています。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>設立 1998 年</b></p> <p><b>代表 松本 里美</b></p> <p><b>子ども約 16 名</b><br/><b>幼児親子 4 組</b></p> <p><b>スタッフ 20 名</b><br/><b>有償 4 名</b><br/><b>無償 16 名</b></p> <p><b>活動時間</b><br/><b>寺子屋「シェイクハズ」</b><br/><b>火、水、金</b><br/><b>16:00~21:00</b><br/><b>土曜 10:00~20:00</b></p> <p><b>おかえりなさい塾</b><br/><b>木曜 14:00~21:00</b></p> <p><b>子ども大学(年 22 講座)</b><br/><b>毎月第一土曜日</b></p> <p><b>活動資金</b><br/>・行政からの助成金<br/>・授業料<br/><b>寺子屋 1 か月 1500 円</b><br/><b>おかえりなさい塾</b><br/><b>1 か月 500 円(おやつ代)</b></p> | <p><b>主な活動と教材</b></p> <p>①寺子屋「シェイクハズ」: 外国にルーツを持つ青少年の居場所、学習支援の場<br/>毎週火・金曜日 16:00~21:00 学習支援<br/>(愛知県国際交流協会日本語学習支援基金助成有り)<br/>毎週水曜日 16:00~21:00 公立高校を目指す生徒の学習「希望クラス」(自主事業)<br/>毎週土曜日 10:00~12:00 青少年のための日本語教室(社会福祉機構助成)<br/>13:30~15:00 幼児と親の「ふれあい日本語教室」(社会福祉機構助成)<br/>16:00~21:00 日本語教室(自主事業)<br/>日本語教材: 45時間練習帳、絵本など<br/>学習支援教材: 教科書に沿ったドリル。通信教材<br/>指導方法: グループ学習、<br/>1対1(不登校、特別支援が必要な子ども・専門家に相談)</p> <p>②「おかえりなさい塾」学校の教科書、副教材<br/>小・中学生: 毎週木曜日 14:00~17:30 (犬山市の委託事業)<br/>小・中・(高)生: 毎週木曜日 18:00~21:00 愛知県日本語学習支援基金助成事業</p> <p>③「子ども大学」: 異文化体験、料理、遠足など(犬山市の委託事業)</p> <p>④相談会: 実施頻度、2回・ソーシャルワーカーが対応</p> <p>⑤翻訳・通訳派遣: 随時、中・ス・ポ・仏・英語他対応</p> |
| <b>活動のはじまり</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 1998 年に「まちかどの泉」としてスタート、2009 年 4 月に NPO 法人になる。法人化したきっかけは、多文化共生を始めた時に公的なことだということを意識するため                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| <b>目指していること</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 多文化共生の町づくり、いろんな人たちが暮らしやすい町づくりのきっかけになればいい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <b>対 象 者</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 寺子屋「シェイクハズ」: 小・中学生、不就学、不登校の子ども<br>おかえりなさい塾: 小・中学生、小学3年生以上が対象、最年長は、高校1年生<br>「子ども大学」: 参加者は日本人がほとんど<br>お泊り会(宿泊交流会): 子ども 95 人、スタッフ 100 人                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <b>スタッフについて<br/>資格、募集方法、<br/>研修など</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 募集方法: 常時行っている。<br>資格: 資格は問わないが、教員 OB、OG の方が多い。<br>研修: 公的機関で行われる研修に、随時参加してもらっている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| <b>工夫していること</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 保護者への料理教室講師依頼など、ふれあいセンターでのイベント実施を通して保護者に積極的な働きかけをしている。幼稚園から高校までの事業を実施して、親や親戚、兄弟などを包括的にみることができ、信頼関係をつくる努力をしている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <b>進路開拓支援など</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | できる範囲で、個人的に支援している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| <b>活動継続の秘訣</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | とにかく続けること、そして理解者を一人でも増やすこと。周囲の日本人への啓発が必要だし、行政に支援が必要だと伝えること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <b>活動を通じて感じたこと</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 日本の子どもは救う道が用意されているが、外国の子どもはそういう場所がない。日本語教育でなく、子どもの育成だと考えている。やるのはあたりまえ、子どもはかわいい。今後必要なことは、専門知識と資金。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| <b>連携</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 代表の松本さんが楽田コミュニティ推進協議委員会の委員、2か月に1度委員会に出席することで、理解者が増えることを願っている。また、地域の行事に参加してもらおうと、こまめに外国人の方を誘っている。「おかえりなさい塾」の日は、学校に子どもを迎えに行き、先生方とお話しをするようにしている。警察や市の男女共同参画推進室など、学校以外にもネットワークがある。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <b>うまくいかなかったこと</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | スタッフには、日本語教師で教え方に馴染めないなど、専門知識のある方が辞めて行かれ、残念でした。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

## 連絡先(事務所)

484-0861

犬山市若宮69-1

TEL/FAX 0568-39-5266

Mail machiizumi@ma.ccnw.ne.jp

HP <http://shake-hands.jp/>



## 第5章 夢を叶えた先輩から学ぶ

以下に進学の夢を叶えた先輩 10 人、就職した先輩 5 人の話を紹介します。登場する先輩たちの背景は、様々ですが、いくつか共通する点も見られるようです。家庭や学校など周囲の環境、学力を上げる勉強方法、考え方などについて、子どもたちが夢を叶えるためのヒントを読み取ることができるのではないのでしょうか。

### A. 進学の実を叶えた先輩の事例

#### 松田 悠さん (19 歳)

愛知淑徳大学 交流文化学部 交流文化学科 2 年  
【ルーツのある国】ペルー 【来日時期】日本生まれ



#### ●部活と学業の両立で充実した高校生活

##### 家から近い高校へ

中学 1 年のとき友だちとみんなで、家から近い豊田高校に行こうと決めました。両親も賛成してくれました。高校の評判や偏差値のことなど、家族はあまり分かりません。学校で短時間に先生や友だちから情報を得るのが大変でした。夏休みのオープンスクールにも行きました。部活動を見学したり、先輩に話を聞いたりしました。

##### 充実した部活動。「国際関係」で受験

中学では、宿題が出せずに放課後残ってすることもありましたが、高校では頑張って勉強しました。

また、私は中学からバスケットをしていましたが、豊田高校バスケット部はとても厳しく、土、日もほぼ部活の毎日。先輩、後輩の上下関係や礼儀など部活で教わりました。それに、みんなで頑張ろうという雰囲気があり、とても気持ちがよかったです。高校では、先生にも友だちにも恵まれていました。

高校 3 年の 6 月に部活が終わって、抜け殻のようになりました。それから、みんなが受験という雰囲気になり、私も進路を決めなければと思いました。

夢がはっきりせず、特に行きたい大学もなかったのもキーワード「国際系」で、近くて、自分に合っているかどうかで探しました。

大学受験で不安な点は、お金のことでした。両親に申し訳なくて、恐る恐る話しました。

国際関係で 3 校受験しました。

##### 西欧と日本の文化を比較して

大学では友だちの輪が広がって楽しいです。交流文化学部では、主にヨーロッパ文化と日本文化の比較をします。中国語、ポルトガル語、ロシア語なども学べます。中国の経済は将来性があると思い、私は中国語を勉強しています。

##### 後輩へのメッセージ

日本で生まれて日本で育ったので、国籍を意識したことはありません。むしろ自分は日本人だと思ったこともありました。

でも今になって、もっとスペイン語を勉強しておけばよかったと後悔しています。両親とあまり話せないのが残念だからです。小さいときから、家ではスペイン語を使うと決めておけばよかったです。自分の母語を大切にすることと、親とコミュニケーションを取ることが重要だと思います。





## ペヤ・ナガタ・アルドさん (24 歳)

中京大学大学院 情報科学研究科 2 年  
【ルーツのある国】ペルー 【来日時期】 4 歳

### ●好きなことを活かして進学

#### 高校では、友だちもたくさんできました

20 年前、4 歳で来日し、日本の保育園に入りました。周りが何を言っているのか分からず、保育園に行きたくなかったのを覚えています。1 年もしたら平気になりました。

中学、高校ともに卓球部でレギュラーでした。日本の部活は厳しいイメージがありますが、小さい頃から日本にいたので違和感はありませんでした。高校 (豊川高校普通科) は、明るくて開いている感じ。友だちもたくさんできました。

#### 父が再発見した「パソコン好き」

進路選びに迷っていた高 3 のある日、父が「コンピューターや情報はどうか」と声をかけてくれました。僕が中学のころからパソコン好きだったのを見ていてくれたのです。高校の先生から教えてもらった大学の中から、CAD の先生がいる中京大学情報科学部の公募制推薦入試を受けることにしました。

試験科目は、数学、小論文、面接。苦労したのは小論文です。放課後遅くまで、職員室などでいろいろな教科の先生に何回も内容を見てもらいました。情報関係の専門性が問われると思い、学びたかった CAD についても詳しく調べました。小論文は、「大学で勉強したいこと」について出題され、自分の目標を入れながら、実際に CAD について書くことができたので良かったです。

(CAD ; コンピューターで機械や建築などの設計や

製図をすること)

#### 数学はやっておいた方がいい

情報科学のおもしろさは、プログラムを自分で作れることです。パソコンを使うといういろいろな不具合や使い勝手の悪さを感じることも多いかと思いますが、情報科学を学んでいれば、自分で使いやすいプログラムを組めます。

僕は今、修士論文の一環として、CAD の「展開機構によるライブラリ」を設計しています。後輩たちが展開機構について、調べられるような図書館を作ろうという試みです。

皆さんが進路を選ぶ時に考えた方がいいことの一つは「何が好きか、やりたいことは何かを洗い直してみる」と。誰でも必ず、好きなことはあるはずですし、そのためなら、学ぶモチベーションも長続きするからです。自分の好きなもの、得意なものを探せば将来への道が見えてくると思います。

また、技術系の研究職や開発・設計部門を目指すなら、数学は必ず勉強しておいてください。

#### 将来の仕事

将来は、日本の企業に勤めたいです。仕事も出張などで海外は構いませんが、日本に慣れているので暮らしやすいです。

## 加藤カリナ博美さん (28 歳)

愛知学泉大学 経営学部 経営学科 3 年  
【ルーツのある国】ブラジル 【来日時期】 16 歳

### ●スプレッドシートで大学受験資格を得る

#### 働きながら日本語を覚えました

16 歳で家族と一緒に来日しました。家族を

支えるために、日本語が分からないまま働き始めました。学校に戻りたかったのですが、家計を支えなければならませんでした。工場

や、ブラジルの店、旅行会社などで働きました。日本語を通訳なしで話したくて、自分なりに努力し、話すことだけはできるようになりました。妹が結婚し、弟が働き始め、家庭が経済的に安定したころ、経済危機が来しました。日本にいて、これからどうしようかと悩みました。

## 母に背中を押されて

「大学に行きたい」と母に相談したら、力になると言ってくれたので、車を売って日本語学校に入りました。それから6か月間、猛勉強しました。

私は、ブラジルで高校を卒業せずに来日したので、スプレチーボを受けました。2000年から2001年に半分受けて、2008年と2009年に追加の科目を受けました。スプレチーボのことは、なかなか情報が入らず、いろいろな人に聞いたりインターネットで調べたりしました。

(スプレチーボ試験 37 ページ参照)

## 先生方の支援でAO入試合格

私は経営の勉強がしたかったので、経営や

経済について学べる学校を探しました。インターネットで愛知学泉大学を見つけ、直接話を聞きに行きました。そこで社会人でも受験できるAO入試という制度があることを知り、受験することにしました。

AO入試では、社会人としての経験から何を学んで、入学後、大学で学ぶことと合わせて、将来にどう活かしたいかをエントリーシートに書きました。難しかったです。それから、大学では何回も会議をして入学を認めてくれました。

## 留学、そして将来

愛知学泉大学にある無料の留学プログラムに合格し、カナダに短期留学できることになりました。私は、大学に入ることと、留学することが目標だったので、一石二鳥です。

それに、大学で初めて簿記の授業を取って、自分が会計的なことにすごく興味があることに気付きました。卒業後は、日本とブラジルの架け橋になれるような仕事に就きたいです。会計というドアを開いて、自分で何か興すこともやってみたいです。そして、40歳までには自分の行く道を見つけて、そこで安定して家庭も持ちたいです。

## ソウザ・デ・フルヤ・ヒロシ・ブルーノさん (22歳)

弘前大学 人文学部 現代社会課程 国際社会コース4年  
【ルーツのある国】ブラジル 【来日時期】1歳



## ●進学すれば「夢」が広がる

### 両親の苦労を理解し、国立大学へ進学

家庭では、日本語を流ちょうに話す祖母が面倒をみてくれ、家でも学校でも日本語だったので、僕はポルトガル語が話せません。日本の学校で、勉強が分からないところは、姉に聞いて真面目に勉強しました。

中学生の頃から家計について、親が教えてくれるようになりました。給料をこれだけもらって、家賃がこれだけだと、具体的に数字を挙げて話し合った上での生活だったので、親の苦労がよくわかりました。

だから、勉強したいから、私立の高校や、大学に行きたいなんて言えませんでした。学費の安い国公立の大学を狙うしかありませんでした。

### 大学選び

大学進学を意識したのは中学ぐらいです。苦労する両親のように、工場に派遣という形で働かなければいけないのが、すごく嫌でした。でも、両親には本当に感謝しています。言葉も通じない日本に来て、子どものためにと、疲れていても手料理を食べさせ、休みの日には公園に連れて行ってくれました。

一方で、自分自身がブラジルから日本に来たこともあり、「国際的な人の移動」について興味がありました。でも親に負担はかけたくなかったのです。そこで国際関係を学べ、学費や生活費も安い弘前大学を選びました。

## 外国人の働ける「場」を作りたい

受験勉強を始めたのは、高校3年です。先生に特別なプリントを準備してもらい、放課後残って勉強しました。必死でした。努力の結果、成績が伸びたのは12月以降、センター試験前で、弘前大学に合格できました。

高校までは「詰め込み」式の勉強が多かったのですが、大学では自分で考える授業が多く、それがすごく楽しいです。また友だちもたくさんできました。大学に進学して自分の可能性が広がったと感じています。

僕は今、国際政治を学ぶゼミナールに入り、

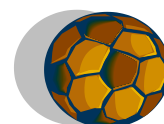
ブラジルとポルトガルなど、旧植民地と旧宗主国の関係をテーマに研究しています。また卒業論文では、外国人の集住都市で「地域の国際化」について研究し、まとめています。

皆さんに伝えたいのは、高校までの勉強はものを考える基礎なので大切にしてほしいこと、そして少し先で構わないので将来を真剣に考えたり、自分自身を振り返ったりしてほしいということです。そうすることで、自分の進路も見えてきます。

僕は春から、青森でリサイクル用品の小売業に就職します。いずれ僕の両親や仲間など外国人が働ける店を出すことが夢です。

## 末次カリナさん (20歳)

【ルーツのある国】ブラジル 【来日時期】12歳



### ●サッカーでアメリカの大学に進学

#### 日本の中学校を中退し、ブラジル人学校へ

12歳で来日して、小学校に入り卒業しましたが、中学校にはなじめず、6か月で辞め、それからブラジル人学校に行きました。

14歳のとき、一時帰国して1年間ブラジルで中学校に通っていました。15歳で再来日して、ブラジル人学校の高校2年に編入し、卒業しました。

日本は、ルールが厳し過ぎると思います。言葉の問題もあるし、先生にはもう少し、私たちは、みんなと同じようにはできないということを理解してほしいかったです。

#### 奨学金のある大学を探して

サッカーを始めたのは日本に来てからです。それまでは野球をしていました。学校に行きながら、夜練習をして、日曜日には試合もありました。

サッカーを始めてから、アメリカに行く夢ができて、自分から進んで英語の勉強をしました。ビデオを見たりしながら覚えました。

いろいろなサイトでアメリカの大学について調べました。ネットで探すことは、自分より先にソフトボール留学していた姉が助けてくれました。

自分で試合やリフティングのビデオを撮って、いろいろな大学に書類と一緒に送りました。

た。その結果、アリゾナにある大学に留学が決まりました。外国人はあまりいません。女子サッカーの奨学金で行ったので大学の授業料や寮費は無料です。食事もついています。アメリカの大学では、ビザの関係で学外でのバイトはできません。それに勉強とサッカーの練習を両立させるだけで大変です。バイトする時間はありません。

アメリカの大学では、最高2年しかいられません。次はアラバマの大学に行くことが決まっています。それもネットで調べました。サッカーの奨学金は、前と同じで、学費は無料です。

#### 今、しなければいけないことをする

プロを目指すためには練習、とにかく練習。それに学校でもいい成績を取らないと、奨学金が無くなって在学できなくなってしまいます。

将来は、アメリカか、ブラジルでプロサッカー選手になることを考えています。日本でのことはあまり考えていません。両親も賛成しています。

## 小寺美知江さん (29 歳)

愛知県立刈谷東高等学校 通信制課程 4 年  
【ルーツのある国】ブラジル 【来日時期】10 歳

### ●高卒資格の大切さに気づき、高校通信制課程で勉強

#### 社会人を経て、通信制課程へ編入

いろいろな事情があり、高2のとき、高校を中退しました。社会人になり、これからも日本で生活していくなら、高校の卒業資格は絶対に必要だからと、小学校の頃から勉強を見てもらったり、相談にのってもらったりしているトルシーダの伊東さんに言われて、刈谷東高校通信制課程で学ぶことを決めました。26歳のときです。

刈谷東高校では、在学中に取った数学や英語の単位を認定してもらい、2年次に編入できました。卒業に必要な単位は77単位ですが、通信制課程では、各科目の単位を取るために面接（授業）や定期試験を受ける他に、単位数の何倍かのレポートを出さなければなりません。レポートの課題が分からないと、先生に電話をかけてヒントをもらったりできますが、私は電話では分かりにくいので、直接聞きに行きます。私には、古典と家庭科が本当に難しいです。

3年生で高卒認定試験の倫理、政治経済、地学が合格しました。受からなかった日本史と物理が卒業までにまだ4単位足りません。

同級生は120人、16歳から70歳代までいますが、20～30代が多く、男女は半々、仕事を持ちながら通っている人が多いです。

## ヌエ 伊禮 ピエールさん (22 歳)

名古屋商科大学 外国語学部 英語コミュニケーション学科 4 年  
【ルーツのある国】ペルー 【来日時期】2 歳

### ●コツコツと勉強を続けて、大学進学

#### いじめやけんかもあったけど・・・

2歳のときに来日して、日本の保育園に入りました。小学校では、勉強は難しかったけれど、学芸会は楽しかったです。いじめやけんかもありましたが、原因は自分にもあったと、今思えます。

中学校では、サッカー部に入っていました。

#### 家庭と職場の支援を受けて

子どもは2人とも小学校に通っていて、子どもが寝た後の夜10～12時が自分の勉強の時間です。読めない漢字が多く、辞書を引きながら進めるので時間がかかります。主人は、提出期限ギリギリに完成したレポートを、24時間提出できる学校のレポート受けまで夜、投函しに行ってくれることもあります。

職場はNPO法人トルシーダです。日本語を教えたり通訳をしたりしています。時間の調整をしてもらいながら勉強を続けています。

#### 将来は助産師になりたい

今は、今年度の卒業を目指しています。1月に最後のテストがあり、合格すれば3月に卒業できます。卒業後も仕事をしながら勉強を続けて、看護学校に行きたいです。愛知県の医療通訳システムの通訳者に登録していて、病院で通訳をすることもあります。専門用語が多く難しいですが、勉強になります。さらにいろいろな経験を積んでから、社会人枠で看護学校の試験を受けたいと考えています。日本で出産する外国人が増えているので、役に立てると思います。

部活と駅伝大会などが記憶に残っています。

#### 信頼できる先生のおかげで高校時代は充実

一般入試で愛知県立岩津高校普通科を受検し、合格しました。

2年で進学コースと普通コースに分かれ、進学コースを選びました。岩津高校では進学



する生徒は30人くらい、4年制大学に進学するのは数人です。中学では、成績もあまりよくなく、先生方との信頼関係もありませんでした。高校では、先生方の期待が感じられ、気持ちを切り替えて頑張ることができました。高校では、英語と歴史（世界史）が面白かったです。

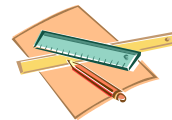
また、高校でしかできないことをしたかったので、生徒会の副会長をしました。仲間とのチームワークができ、任された仕事をやり遂げることの楽しさを知りました。

高校を辞めたいと思うことは何度かありましたが、辞めると自分に負けてしまうと思いました。高校を中退した日本人の先輩から、「中退すると、人生がひっくり返るから、高校を辞めるな」と言われたことがあり、何度もその言葉を思い出しました。

## シルバ・カイケ・ドス・サントスさん (18歳)

愛知県立豊田西高等学校 定時制課程 1年

【ルーツのある国】ブラジル 【来日時期】4歳



### ●中卒認定試験に合格し、定時制高校に進学

#### 小学校卒業まで

4歳で来日しましたが、ブラジル人が経営する託児所に行っていたこともあり、日本の小学校に入ったのは3年生のときでした。

ここでは、取り出し授業があり、1～2年生の漢字の勉強をしたりしました。普通学級は難しかったし、日本語がわからなくて、時々、授業で寝ていました。

#### 中学校時代（ブラジル人学校と日本の中学）

日本語の勉強はしたくなかったし、日本の小学校では友だちもあまりできず、つまらなかったのも、小学校卒業後、ブラジル人学校に入りました。

ポルトガル語の勉強が必要で、小学校3年生から始め、1年に2年間分ずつ進みました。宿題はあまりなく、休憩時間が楽しかったです。

サッカーのコーチから、日本の高校に入ってサッカーで活躍すれば、将来選手になれる可能性がある聞き、高校に入りたいと、トルシーダの伊東さんに相談しました。中学校

## 大学では海外ボランティアも

大学は、指定校推薦で名商大に入りました。英語コミュニケーション学科です。先生方のほとんどが外国人で、日本語が分かりませんし、留学生との交流もあり、英語で話すことが不可欠になりました。自分の英語レベルは努力次第でさらに伸びると思っています。

大学に入って自分を支えてくれる、信頼できる友だちが増えました。クラスメートと一つのチームのような雰囲気、落ち着く場所ができました。

名商大は海外へのボランティア参加が日本一多い大学だそうです。私も夏休みを利用してドイツに行き、環境保全の手伝いをしました。

今は、就職活動をしながら、卒論を仕上げています。営業職を希望しています。

を卒業していないと高校入試が受けられないと聞き、11月に日本の中学校に編入しました。中学校は、友だちもできて楽しかったです。しかし、結果的には在籍期間が短く、卒業には至りませんでした。

#### 中卒認定試験合格を目指して

NPO法人トルシーダの日本語教室で4月から11月まで、同じように中卒認定試験を目指す二人と一緒に勉強しました。でも勉強していない友だちもいたし、遊びたかったからあまりまじめにできませんでした。

12月に他の二人が合格して、僕は3教科しか受からなかったとき、真面目に勉強しよう、考えが変わりました。その後の1年で、受からなかった国語と社会の勉強を一生懸命にしました。その1年で僕はすごく変わったと思います。

翌年の試験が終わったとき、「頭の中でいろいろなことを考えているけど、日本語でもポルトガル語でもきちんと言えないから、中卒認定試験に合格していてもいなくても、勉強は続けなくちゃいけないと思う。」と伊東さん



に気持ちを話しました。その年、認定試験の残りの2教科に合格しました。

12月から面接と作文の練習をして、豊田西高校定時制を受け、合格しました。

### 定時制高校のことと将来の希望

豊田西高校定時制の1年生は、入学時38人いましたが、8月には34人になりました。結構たいへんですが、僕は4年で卒業するつもりです。

西高の先生は楽しいです。授業のとき、僕たちを笑わせたり、手伝ったりしてくれます。分からない漢字を黒板に書いてくれます。

将来は、いい仕事に就きたいので日本語をもっと覚えたいです。8月から車の部品を作る会社でアルバイトをしています。いつか正社員になりたいと思っていますが、高校を卒業すれば正社員として就職できる可能性が高くなると思います。

僕にとって、家族は大切な存在です。今は日本での将来を考えていますが、父や母は先々、ブラジルに帰国して自分のお店を出すことを考えているようです。いつになるかは分かりませんが、そのための、ビジネスやコンピューターについて学ぶことも必要だと思っています。どちらにしても高校卒業後を見据えて、アルバイトのお金を少しずつ貯金しています。

### 僕にとってトルシーダとは

トルシーダは、僕が学校に進むため必要でした。今、誰かが勉強をどうしたらいいか、僕に聞いたら、僕はトルシーダに行けばいいと答えます。先生たちは僕のことをあきらめませんでした。だから僕も勉強と学校をあきらめないで、今もがんばり続けます。「ありがとうね、先生。」と言いたいです。

## サンチェス・カルロス・ミツアキさん (25歳)

バルセロナ自治大学4年生 (高校卒業後スペインの大学へ進学)

【ルーツのある国】ペルー 【来日時期】4歳



### ●二つの言語と専門性を身につける

#### スペイン語を学ぶため留学

最初に留学を考えたのは、高2の頃です。ペルー人なのに、スペイン語が上手ではなく、話すときに日本語とスペイン語が混ざってしまう自分が悲しかったです。

日本での進学も考えましたが、ネイティブの先生から学びたかったし、日本から出てみたいという冒険心もありました。両親と一緒にインターネットで調べ、スペインのサラマンカにある語学学校に留学することを決めました。

#### 語学学校を経てサラマンカ大学へ

語学学校では、コミュニケーションは中級クラスでしたが、文法、読み書きは初級からでした。語学学校の後、予備校に入りSelectividad (大学入学資格試験)のための勉強をしました。スペイン語、分析、世界史、哲学、英語、文学などの勉強をしました。Selectividadの点数で、入学できる大学、学

部が決まります。

その結果、サラマンカ大学で経営経済を学ぶことにしました。通訳・翻訳業を目指して語学の勉強をすることも考えましたが、専門知識を持った上で、二言語ができる能力を活かしたいと思いました。

大学の勉強で苦労したのは、経済に関する専門用語や、専門的な計算を理解することでした。授業で分からないことは、自分で本を読んで調べるしかありません。未だにスペルミスなどもあるので、日本で育ったペルー人で、スペインに留学していて、日本語がネイティブだという事情を伝えます。そこから話が始まることもあります。

#### バルセロナ自治大学へ編入

サラマンカ大学経営経済学部は日本でいう短大のようなもので、3年生修了後、バルセロナ自治大学へ編入しました。

今は就職を目指し、日本へ進出したスペインのアパレルメーカーで研修をしています。

スペインでは日本の新卒採用と違い、研修を社会経験にして、就職へ繋がります。大学と企業が協力し、研修が行われますが、「学生で、日本語ネイティブで書類が読めて、スペイン語で仕事ができること」という条件に、自分しかないと思いました。申し込み5日後には人事の担当をしていました。

## 今、考えていること

スペインへ来て、日本のことを知らなかつ

## 木皿メイリさん (38 歳)

豊田市ポルトガル語子弟教育支援員  
ブラジル出身



## ●保護者の立場から 娘を県外の大学（私立文系）に通わせて

### 娘の将来を考え決めたこと

娘が小学校に入るとき、帰国するかどうか夫婦で話し合い、小学校から高校まで、日本で過ごすことに決めました。

小学3年生の頃、反抗期があり大変でしたが、それからは娘とよく話すようにしました。娘の勉強は分からなかったけれど、隣にいて、勉強を見るふりをしていました。娘は中学3年生になる頃からしっかりして、安心して見ていられるようになりました。

高校の説明会には私が一緒に行きました。学校の雰囲気を気に入って、決めました。

大学進学について娘は、初め東京で音楽か英語の勉強がしたいと言ったのですが、関西外国語大学に決めました。娘は今、英語キャリア学部英語キャリア学科1年生です。東京は、家賃が高く難しかったこと、中部より関西の方がチャンスが多く、娘の世界が広がるような気がしたからです。

娘は「将来、留学して英語の先生か通訳になりたい。自分の母語もしっかり勉強したい。」と言っています。仕事でも勉強でも好きなことをさせてやりたいと思います。

### お金のこと

娘には、学費他で月に20万円位かかります。仕送りは毎月5万円、他にアパート代の3.8万円が主人の口座から引き落とされます。娘

たことに気付かされました。政治や文化、宗教などにもっと興味を持って生活しておけばよかったと思います。日本で教科書に出てきたときには関心を持てなかった夏目漱石や、森鷗外といった日本文学をもっと読みたいと感じています。

研修で人事採用に関わっているのも、EUの経済状況が悪いことは、よく分かります。失業率20%のスペインでの就職はとても厳しいですが、こちらでの就職を目指しています。

も塾で英語を教えるアルバイトをしています。

私は、仕事で日本人と一緒に過ごす中で、日本では教育費がかかることを聞いていました。私たちは、娘が小さいときから毎月1万円位ずつ貯金をしていました。

### 子どもを理解することが大切

これまで娘に対しては、厳しく接してきました。親の立場からだけしか娘のことを見ず、娘が考えていることを親の立場でしか聞けませんでした。

今考えると、娘には、つらいこともたくさんあったと思います。今の仕事を通して、子どもたちが不安定なのがよくわかります。怒るばかりじゃなく、子どもをよく見た方がいいです。子どもには自信を持たせることが必要です。

## B. 就職した先輩の事例

### 中村ハンナ小百合さん (23 歳)

愛知医科大学病院 看護師

【ルーツのある国】ブラジル 【来日時期】3 歳

#### ●看護師

##### 本が好きだった子ども時代

小さい頃から本が好きだったので、国語の勉強にはあまり困りませんでした。漢字ドリルを母と一緒に勉強したこともあります。両親の意向で中学校から中高一貫の私立学校に入学しました。

##### 人の役に立ちたいと看護大学へ

いい大学に行って、資格を持てば将来困らないだろうと思いました。もともと人の役に立つ仕事がしたかったことと、TV番組や、病院で働く通訳さんを見て、医療関係の仕事に興味を持ちました。

高2のとき、看護系の大学、専門学校の説明会に行きました。看護師の勉強は専門学校でもできますが、知識と技術の両方が学べるのは大学です。

公募制推薦入試で、愛知医科大学看護学部に進学しました。推薦を受けるために、苦手なことは先生に聞きに行き、好きな教科は絶対に通知表で10を取るよう頑張りました。

##### 大学では必死で勉強

私は、好きな教科、嫌いな教科がはっきりし過ぎていて、自分で勉強することに慣れていませんでした。実習では、レポートに追わ

れ、本格的に国家試験の勉強を始めたのは、4年生の実習終了後です。友だちと一緒に必死で勉強しました。

##### 家族の支え

子どもの頃からダメなときは家で泣きます。今でも仕事のことを家族に話して、ストレスを発散することがよくあります。父には、「何をしてもいいが、絶対に途中で辞めるな。責任を持って行動しろ」と言われてきました。

##### 患者さんが生き生きできる看護を

私はポルトガル語ができるので、今勤務している病院で医療通訳登録をしています。外国人の中には、言葉が分からず戸惑う患者さんがいますが、問題は言葉だけではありません。国が違うことで、常識だと思っていることが違う場合があります。そんなときには間に入って、折り合いをつけることが必要です。

職場には、みんなで向上していこうという雰囲気があります。専門看護師、認定看護師の資格が取れるような配慮もあります。

「ありがとう」という患者さんの言葉が単純にうれしいです。これからも勉強して、患者さんを生き生きとさせるいい看護を心掛けたいと思います。

### 伊木・デフレイタス・ロドリゴさん (25 歳)

豊田市立保見中学校 教師

【ルーツのある国】ブラジル 【来日時期】10 歳

#### ●英語の先生

##### 家族のサポート

ブラジルを出たときには、小学3年生だったのに、日本の学校では4年生の後期に編入

しました。授業についていくのが難しく、帰りたいと言ったとき母に、「ここでやらなければ、あなたは弱い人間になる」と言われました。でも両親は、厳しいだけではなく、常に



そばでサポートしてくれました。家族の支えは、やはり心強いものです。

## 言葉の勉強と先生のサポート

自主勉強で左が日本語、右がポルトガル語の辞書を作りました。友だちに聞くきっかけにもなったし、先生も時々見て使ってくれました。ひらがな、カタカナの勉強にもなりました。

中学校で3年間担任だった国語の先生は、困っていたとき、「ロド君の国の言葉はポルトガル語だよ。国が違うから教科書が読めないのは仕方がない。皆がサポートしないとロド君の将来はない」と皆に言ってくれました。

また、漢字のテストで満点を取ると、黒板の端に名前が書かれました。そのためによく漢字を書いて頑張りました。

中学校の頃までは、家では日本語を使うなと言われました。ポルトガル語を保持したことが、結果的に英語の学習にも役に立ったと思います。英語は、日本語を通すより、ポルトガル語を通した方が学びやすいと思います。

## サッカー選手から先生に、進路希望を変更

中学校時代は、サッカー選手になりたかったです。高1の終わりに病気になり、7か月入院して、サッカー選手の夢が途絶えました。

自分が頑張ってきた英語を使って仕事をしたいと思い始めました。大学に入る時点で、英語を教え、さらに命の大切さを伝えられる先生になろうと思いました。

大学4年生の5～7月、教員採用試験のために、いままでやったことがないくらい勉強

しました。面接で思いを熱く語り、無事合格できました。

## 今は3年生の副担任で、サッカー部顧問

私は、日本国籍を持っていませんが、それでも教師になれます。給料やボーナスなど、すべての条件は、日本人の教師と同じです。

教師として親御さんに言いたいことは、親御さんはいつか帰るというけれど、結果的にはいつ帰るのかは分かりません。そのため、日本の学校のシステムを理解することは大切です。子どもさんの将来のために進路説明会へ行ってください。普段忙しくて週末には休みたい気持ちは分かりますが、親の理解しようとする努力が必要不可欠です。

また、高校入学に30万円必要だといっても急にはそろいません。教育資金を毎月少しずつ貯めていくことをおすすめします。

## 子どもたちへのメッセージ

生徒たちは、「学んでいることがすぐ学力を上げることにつながらない」と言うことがあります。今すぐに結果はでなくても、やがて高校入試や高校に入ってから役にたつと気付くこともあります。だから簡単にあきらめないでほしいです。

私自身も中学の時は、あまり勉強が分からなかったけれど、高校に入ってからでも遅くないと思いました。スタートラインは、自分で決められます。ただ、遅すぎないためには、早く決断し、進んでいくことです。すべてのことは自分次第です。

## ロペス・ビビアネ・森谷さん (23歳)

電話オペレーター

【ルーツのある国】ブラジル 【来日時期】3歳

## ●転職してオペレーター

### 日本語能力試験1級には合格したけれど

日本語、国語が好きで、小学6年のとき日本語能力試験の1級に合格しました。

中学生のころは、周りに流されて、自分のことがわからなかったし、自分に自信がなく

頭が悪いと思っていました。日本人には負けるし、教科書は難しいし、ポルトガル語はできないし……。あきらめていました。

### 高校は就職活動優先、秘書検定対策が役立つ





中学卒業後、猿投農林高校に進学しました。猿投農林高校を選んだのは、先生から「この学校は評判がいいし、他の校則が厳しいところはあなたに合わない」と言われたからです。

高校に入ってから、将来、言語に関することをしたくなりました。農林なので、英語の時間数が少なくて残念でした。学校では、皆がゆったりしていて感じが良かったです。学校は、就職活動優先で、私の学年から秘書検定がとれるようになりました。電話対応の正しい日本語などもありましたが、まさか仕事で使うようになるとは思いませんでした。今、とても役に立っています。

## 工場はおもしろい

高校卒業後、大学に行きたかったのですが経済的に難しく、地域で評判の良い製造業の会社に正社員で就職しました。工場の仕事は意外におもしろく、好きになりました。

工場では日本人とブラジル人が一緒に働いています。私はポルトガル語があまり話せませんでしたが、トラブルのときよく呼び出されて仲介役をしました。ポルトガル語も間違えを恐れずに話したら、6か月で話せるようになりました。

工場では3年半働きました。働いている人の中には、「本当は、私はこんなことをしたいと思っていたわけではない。」と言っている人がいて、将来の自分を見ているような気がして、怖くなりました。

その逆で、電話サービス会社で、オペレーターとして働いていて、人に接することに疲れたと、工場に入った人もいます。優秀な人でした。その人は、今、幸せだと言っています。仕事に対する価値観は、人それぞれに違い、一つではないと思います。

## ララン・エルビンさん (20 歳)

自動車部品メーカー勤務

【ルーツのある国】フィリピン 【来日時期】 日本生まれ

## ●工業高校を卒業して就職（正社員）

### 国際子ども学校（ELCC）でいろいろ勉強

13 歳までELCCで日本語や算数、理科、フィリピンのことを学びました。英語は役に

## 二つの言語を活かし、オペレーターに

転職のきっかけは、もともと知り合いだった現在のブラジル人上司から、「日本語もポルトガル語もどちらもできるから試してみたら」と、誘われたからです。

仕事では、インターネットが使えない、申込み、廃止、引っ越しの手続きなどの案内をします。

勤務は 8:45~17:15、休憩 1 時間で 7 時間半の勤務です。2 か月更新の契約社員ですが、時間給がいいです。

初め、ビジネス日本語はできてもポルトガル語がうまくいきませんでした。日本にいるブラジル人は、様々な所から来ています。アクセントが違うし、若者言葉を混ぜて早口で話す人もいます。

ブラジル関係のオペレーターは、ポルトガル語が得意な人、日本語が得意な人に分かれます。私は、日本語ができることが強みになりました。1 年経ちましたが、仕事を通して成長できたと思います。

## 周りのサポート

中学の進路選択の際や、高校 1 年時、進級が危ぶまれたときなど、先生方が良くしてくださり、私もがんばれました。勉強では、中3と高3のときは、本当にまじめに頑張りました。皆の前でほめてくださった中学の先生、自分のことを認め、応援してくださった高校の先生、感謝しています。

また、高3では、絶対にフリーターにならなかつたので、正社員として会社に就職できるよう、服装にも気を付けて休まないようにしました。



立ちました。宿題をしていかないと厳しく叱られたこともありました。

中学に行くことが決まって、漢字を一生懸命勉強しました。



## 中学校と進路選択

中学に入って学校のルールは見て覚えめました。勉強では、社会などが全く分からず苦勞しました。周りからは英語が得意だろうと見られました。

中3のとき、自分は英語が好きだし、日本語とフィリピン語の両方が分かるので、将来は通訳になりたいと思いました。しかし、家庭の事情から高校卒業後すぐに働かなければならず、高校紹介パンフレットから就職率が高い春日井工業高校を選びました。電気科です。

## 就職に向けて

高校3年生の夏休みに、履歴書の書き方や面接の練習などがありました。会社を決める際は、会社紹介の資料に先輩が書き残しておいてくれたメモなどを参考にして選び、学校から紹介をうけました。親は、会社が犬山で

自宅から遠いので少し心配したようですが、自分がよければいいと言いました。

## 仕事を覚える毎日

会社では、ラインで流れてくる部品を組み立てて製品にします。自分の所属する部署は、製品になる前の試作をして、商品化できるかどうか考える部署です。

自分が正社員になったとき、名前がエルビンなので先輩や上司は驚いていたけれど、今は他の同僚と対応は同じ。普通です。

工場は、3交替の勤務体制ですが、入って1年目なので8:10~17:05の勤務にしてもらっています。入ってくる部品が毎日違い、分からないことが多く苦勞しますが、上司に聞きます。

関連企業が、タイ、フィリピン、アメリカなどにあり、いつか教える立場になってフィリピンに行きたいと思います。

## 猪野 梨枝さん (36歳)

株式会社 K&T ASSOCIATES 代表取締役

【ルーツのある国】ブラジル 【来日時期】15歳



## ●起業（通訳・翻訳の会社）

### なりたかったのは宇宙飛行士

ブラジルの中学校時代は、理系に進んで宇宙飛行士になりたかったです。とても偏差値の高い私立高校に入りました。しかし、一人でブラジルに残されてしまっていたため、寂しくもあり、高校の休みに先に日本に来ていた家族を訪ねて、日本で家族と一緒に暮らす決心をしました。

私は当時、日本語が全く分かりませんでした。テレビでコンピューター専門学校の宣伝を見て、コンピューターの勉強がしたいと、母と説明を聞きに行きました。その専門学校は、高校卒業資格がないと受験できないことが分かったのですが、応対された先生が親切にも私立高校に連絡を取ってくださいました。

後日、その私立高校の編入試験を受けました。国語は全くできなかったのですが、英語と数学が満点に近く、無事、編入することが

できました。

### バイトに明け暮れた大学時代

高校卒業後、外国人の推薦枠で、南山大学外国語学部日本語学科に入りました。

大学入学当初はアルバイトに明け暮れました。日本語とポルトガル語の両方を活かせる国際電話のオペレーターもしました。その他にもいくつかのバイトを掛け持ちし、終電で帰って翌朝新聞配達というような生活でした。

大学の授業はというと、授業を休んでまでアルバイトをしていたため、日本語で話ができるけれども、講義は分かりにくいと感じてしまいました。卒業までに必要な単位数が危なくなってきた、3年の後期に我に返り、講義に出るようになりました。真面目にやろうと思い、意地でも卒業証書がほしいと頑張りました。

## 起業するまでにした仕事

卒業後、ブラジルの航空会社にグランドホステスとして就職しました。その後、住宅管理会社に通訳として勤務しました。退職後、フリーの通訳をしていましたが、金曜の夕方にブラジル人向けのNHKの番組で翻訳の依頼をいただき、会社を設立する必要に迫られました。3年前に友人のTさんと株式会社を立ち上げました。

## 株式会社 K & T ASSOCIATES

資本金は300万円。私の他に12名が働いています。現在、日本からブラジルに月に100社が出て行くそうですが、当社へは、1か月に10社程度からの問い合わせがあります。

現在の営業内容は、ブラジル海外進出コンサルティング、人材派遣、翻訳・通訳事業などです。

## これからの目標

ポルトガル語の通訳のレベルを統一できるような何かを作りたいです。皆が一緒になって、定期的に研修を受けてレベルアップしていけるようにしたいです。

専門的な現場に立ったとき、どちらの言葉もわかるのに、通訳できないことがありました。そのとき、自分は、まだ一人前ではない

し、身に付けなければならないことがたくさんあると感じました。

## 通訳を目指す後輩へのアドバイス

日系ブラジル人として自分のアイデンティティを持って、日本のことももっと知ることが大切だと思います。私は、積極的に地域の行事に参加するようにしています。日本は自分のルーツの一つでもあるから、誇りに思えることもあります。

以前、翻訳の仕事を他の人に依頼した際、内容に信用ができず、自分で最初からやり直したことがありました。認識の違いだから仕方ないと、最初の約束通りお支払いしましたが、その人に次の仕事を依頼することはありませんでした。

日本に長い間滞在しているから通訳ができる、父母と話せるから通訳ができる、ポルトガル語ができるから通訳ができると、誤解してはいけません。まず、会社に就職して仕事で書類が書けるようにすること、電話の受け答えや、名刺交換なども当然できることが大切です。お母さんに付き添って市役所に行って通訳しているから、仕事になると思わないでほしいです。

通訳を目指すなら、いろいろな経験をし、語学のスキルを高めて知識や社会常識も身に付ける必要があります。がんばってください。

## C. 先輩たちへの取材から見てきたこと

15人の先輩たち一人ひとりのお話から、「このように多様な夢の実現を目指す若い力が、この地域に育ちつつあること」に驚き、感動しました。これらの経験は、今後、この地域に暮らす子どもたちにとって、大きな励みであり、ロールモデルになるものです。

そこで、先輩たちが進路の実現に向けて、どんな意識で臨み、どんな工夫をしてきたのか、周囲はどんな支援を行ってきたのか、以下に共通してみられることについてまとめていきます。

## ●先輩たち

### 夢や目標を持つ ～親の働きかけも大切～

今回話を聞いた先輩の多くが、「将来への夢を持っている。」と答えてくれました。夢を持つ「きっかけ」として挙げられていたことの一つは、「子どもの頃から好きだったこと（例：コンピューター）」です。また、中学校

の勉強で「得意なこと（例：英語）」をさらに伸ばしたいという声も多く聞かれました。将来の進路を考えるときには、自分の「興味や関心」がある分野や、「自信がある」と自覚している分野を起点にしていることが共通してみられました。

しかし、夢や目標は、全ての先輩に最初か

らあったわけではないようです。中村さん(看護師)は、小学4年生の頃から「将来、何になりたいのか」親から繰り返し問いかけて、自分の興味に気付いたそうです。

## 進路選択のあり方

### <高校>

志望高校を決める際に、「やりたいことが学べる」、「成績」の他に、「校風」なども重視される例がありました。親や先生方など「周囲の人の意見」を参考にし、「この学校は評判がいいし、あなたに合っていると思う。校則が厳しいところは、あなたには似合わない。」と中学の先生に言われ、高校を決めたビビアネさん(会社員)は、満足した高校生活を送って無事、卒業しています。

### <大学>

大学進学については、主に「学びたいこと・学問・テーマ」とともに、通訳や看護師など「なりたい職業」から学部を選んでいく姿が見受けられました。また、歴史が好きでヨーロッパにあこがれてスペインの大学に進学したサンチェスさんや、サッカーを学ぶためアメリカの大学に進学したカリナさんなどの事例のように、海外への進学も有力な選択肢となっていることが特徴だと感じられました。

## 様々な思いがバネ

### ～ネガティブな思いも強い動機になる～

進学した先輩たちに共通しているのは、強い動機により、一生懸命勉強した時期があるということです。加えて、その動機も「通訳を介するのがいやで…」、「弱い人間になりたくない…」、「経済的に親に迷惑はかけられないから…」、「大学に行けなかったことが、ずっと悔しかった。」など、必ずしも、ポジティブな思いだけではありません。ネガティブな思いも強い動機に変えながら、受験を乗り切ろうとしたことがうかがわれます。

同時に、何人かの先輩たちから「親のように派遣社員にはなりたくない。」という声が聞かれました。これらは、親を否定するものではなく、その苦勞に尊敬や感謝の念を抱きつつ、語られたものでした。

選択しなければならぬときに、自分自身が置かれた状況から逃げない先輩たち。先輩たちが頑張れる強さの基盤は、自分自身のためだけではない場合が多いと言えるようです。

## 先輩たちの情報収集の方法について ～自ら積極的に動くことが大切～

まず、高校進学に関しての情報収集は、日本の高校の事情を保護者があまり知らないために、本人が中学校で友人たちや先生に聞くケースが見受けられました。

一方、大学についての情報収集では、高校の進路指導室などを利用すると共に、ほとんどの先輩がインターネットを積極的に活用していました。海外に留学したサンチェスさんや、カリナさんはインターネットを使って、大学を探し手続まで行っています。インターネット上では、英語やポルトガル語、スペイン語などで検索できる情報が豊富にあります。

また、中には来日間もない時期に、「何も分からないけど、とにかく学校へ行きたい。」と、テレビのCMで見た専門学校を、直接訪ねた人もいました。その学校は、高校卒業資格が必要だったため、対応した方は「まずは高校へ入ること」を勧め、その場で、編入試験が受けられる私立高校に連絡を取ってくださったそうです。偶然の幸運が重なったようにも見えますが、自ら積極的に動いたからこそ、つかんだチャンスです。

誰かの協力を得るには、まず自分の希望を口に出して意思表示をすることが必要です。自ら動けば、周囲の誰かが、キーパーソンに変わってくれることもあります。

## 勉強の工夫と先生方の協力

先輩の話の中には、工夫しながら自分に合った勉強方法を見つけている例がありました。自分で日本語とポルトガル語の辞書を作った先輩や、苦手な理科を克服しようと、補習用のプリントを先生からもらい、家で勉強する先輩がいました。

また、「本が好きでたくさん読んだので、国語の勉強は困らなかった。」という声も聞かれました。漫画でもいいので、本を読む習慣があることが、学習に結びつきます。

そして、受験勉強のためにまとまった時間集中して勉強した例が幾つかありました。

例えば、「放課後、職員室に通い、小論文の個別指導を受けた。」「先生方に特別なプリントを用意してもらい、夜遅くまで学校で受験勉強をした。」などの声が聞かれました。これらの先輩たちの声からは、生徒本人が一生懸命努力する様子を見て、学校の先生方にも「何

とかしてあげたい。」という気持ちが湧きおこり、授業時間以外の特別指導に至ったことがうかがわれます。こうした先生方の励ましで、生徒本人もさらに頑張れる。そんな良い関係が育まれたからこそ、得られた合格だと考えられます。

## ルーツのある国と日本をどちらも大切にする

取材した先輩たちには、ルーツのある国と日本の文化のどちらも肯定する人が多かったです。

また、「語学の勉強が好き、得意」、「語学を活かした仕事に就きたい」、「海外に興味がある」、「海外で就職したい」など、自らの境遇から語学の学習や、海外に興味に向いている先輩が多く、そのことが進路選択にも大きな影響を与えていました。

外国につながる子どもたちが希望する仕事の一つとして「通訳」を挙げる人が多い傾向にあります。こうした若者に対して、通訳者の猪野さんは「よい通訳になるには、自分のアイデンティティーをはっきり持って、日本のことをもっと知って楽しんでほしい。」とアドバイスしています。日本生まれの子が増え、母語は苦手というケースも少なくありませんが、自分のルーツのある国に誇りを持つことは、自信につながります。「猪野さんご自身のアイデンティティーは」という質問に、「日系人です。」と明確に答えてくれました。

## ●奨学金の利用について

約半数の先輩たちが大学時代に奨学金の利用をしています。日本学生支援機構の奨学金を利用した人が3名、国の教育ローン（日本政策金融公庫）を利用した人が1名いました。

また、医療系の大学に進学した先輩は、貸与を受けた地方自治体で、卒業後、一定期間以上働けば学費を返さなくてもよいという制度を利用していました。

他に、大学独自の奨学金を受けている先輩が2人いました。大学独自の奨学金には成績や評価が良ければ、返済義務がないものもあります。お話をうかがった先輩は、優秀な成績で、学費の自己負担はほとんど無いとのことでした。

海外の大学に進学をした先輩も決してたくさんのお金を使っているわけではありません。

さらに、移民の子弟という自分のルーツから「国際的な人の移動」や「地域の国際化」を大学での研究テーマにしようとする先輩もいました。自分自身のルーツを視点に、現代の日本社会を考え、理解しようとする先輩も生まれています。

## 自分らしさを発揮するために大切なもの

今回の取材の中では、日本の中学や高校の部活動や生徒会活動を通して、先輩や後輩、友人たちとの一体感を体験している先輩たちが多く見受けられました。例えばある先輩は高校時代の部活動は、「みんなで頑張ろうというのが、全員から伝わってきて、上を目指そう！一緒に頑張ろう！というのが、とても気持ち良かった。」と語っています。

さらに大学生の先輩の声からは、大学で、好きな勉強や活動が評価されたという達成感が見受けられます。また、「支えてくれる、信頼できる友だちが増えた。」、「クラスメートと一つのチームのような感じで、落ち着く場所ができた。」との声も聞かれました。これらの声からは、「ありのままの自分」でいられる安心感や、周囲の友人に受け入れられたとの満足感が感じられました。

一方、日本になじめず、ブラジル人学校などに転校して、日本では無理をしない、あるいは海外に進学するという選択をした先輩もいました。

サッカーでアメリカの大学に入ったカリナさんは、学費だけではなく、寮での生活費も含めた奨学金を受けています。もちろん、その奨学金を受け続けるためには、サッカーで活躍するだけではなく、学業でも一定の成績を収めるなどの努力が必要です。

また、大学のプログラムを使い無料で海外留学をして英語の力を伸ばした先輩がいます。

フライトアテンダントになったエスティマさん（「外国につながる子どもたちの進路開拓ガイドブック」で紹介）の英語力は、ニュージーランド留学を機に飛躍的に伸びたと言います。私立大学は高いからと、初めからあきらめてしまわず、身近な大学に入学し、そこで活躍することで、次のステップが拓くこともあります。



## ●保護者の支援

### 小さいころからの意識付けと準備

---

先に述べたように、看護師になった中村さんのお母さんは、一緒にテレビを見ながら、繰り返し「将来は何になるのか」と尋ね、子どもに将来の仕事について意識付けしてきたそうです。そのためか、中村さんは小さい頃から「職業」ということを意識していたと言います。

また、子どもの特性や好きなことを認識して、子どもが進路で迷ったとき、希望に向けて歩き始められるように、後押しするケースが多くありました。

情報の勉強をしている先輩は、大学には進学したいけれど、何を勉強したらいいのか悩んでいたとき、お父さんに「コンピューターが好きだったよね」という言葉をかけられ、志望校を決めたと言います。

木皿さんは、保護者の立場から「子どもが小学校に上がるころから夫婦で子どもの将来と、家族の生活基盤をどこに置かなどについて話し合った。」と語っています。また、子どもが小学生時代から将来のための貯金をし、子どもの大学進学に備えたそうです。

他にも、高校入学以降にかかる教育費の具体的な金額や教育ローン、大学独自の奨学金のことなどについて、職場の日本人から情報を得ているケースでは、ゆとりを持って子どもの進学に対応している様子が見られました。

### やさしい励まし ～一緒にいるだけでもいい～

---

外国につながる子どもたちの保護者の中には、日本語で書かれたお知らせや案内が読めない人もいます。子どもたちが、学校から持ち帰る宿題を見てやれる人は少ないようです。

今回の取材では、子どもたちがその状況を知りながらも、「横について、一緒に勉強を見てくれていたこと」に感謝している声が、幾つも聞かれました。例えば、ある人は親として「疲れていても子どもの隣で一緒に勉強したり、読めない漢字の本を広げて、勉強する振りをしたりしていた。」と話してくれました。子どもたちも、親が漢字が読めないことを知っていました。それでも、一緒に勉強する振

りをしてくれる。そんな親のやさしさに、先輩たちは励まされたと感謝の言葉を口にしていきます。

また、「お金のことは、心配しなくてもいいから頑張きなさい。」という言葉は、進路決定する際の大きな後押しとなります。子どもにとっても学費は、気になる部分であり、「大丈夫」という言葉で、安心して勉強に向き合うことができるようです。

社会人がもう一度学校に戻る場合、家庭での協力が不可欠です。例えば、既に結婚している小寺さん（高校通信制課程）には、本人の熱意を認め応援するご主人の存在があります。時には、学校に提出するレポートを夜遅く投函用のポストに届けてくれることもあるそうです。

先輩たちは、家族の応援と協力を頑張りとする気に変え、自分自身の力としています。

### 家族でよく話す

---

今回取材した先輩たちは、家族でよく話をしている人が多いと感じられました。外国につながる子どもたちは、両親からは日本語で勉強を教えてもらうことが難しいという現実があります。日本語あるいは、ポルトガル語（スペイン語、タガログ語）で互いにゆっくり話したり、簡単な言葉を選んだり、努力をしながらコミュニケーションをしていることが、尊いと感じられました。

中には、家庭の経済状況をありのままに説明して、今家にいくらお金があって、生活のためにいくら必要なのかという現実を共有していたという例もありました。そのことによって、この先輩は、高校は公立高校、大学は国立大学を目指そうと決意し、努力していったそうです。

その他にも「自分は、プライドが高いから」と言った先輩は、弱気になったときには、「泣くのは家に帰ってから、親の前で…」と話してくれました。家族が互いの考えや気持ちを素直に話せる親子関係が、心のよりどころとなり、社会人になってからも先輩たちを支えていることがうかがえます。



## ●周囲の支援

### 学校の先生の支援

先輩たちの周りには、先輩たちのやる気を上手に引き出してくださった先生方が必ずいました。

例えば本人が勉強に困っていたとき、クラスメートにサポートを呼び掛け、先輩を応援してくれた先生がいました。先輩をみんなの前でほめて勇気づけてくれた先生もいました。

また、厳しいだけだと思っていた先生が、先輩の進級のために、他の先生方に頭を下げてくれたことを知り、感謝した先輩もいます。そんな先輩には、先生や級友への信頼感が生まれ、やる気が出たと言います。

他にも、先生から生徒会活動を勧められた先輩は、生徒会副会長として、皆の意見をまとめ、リーダーシップが発揮できたと語って

くれました。こうした先輩たちの話からは、先生方の期待に応え、充実した学校生活を送った様子がうかがえました。

### 友人からのアドバイス

友人のアドバイスに耳を傾け、頑張った先輩もいました。

高校時代、何度も学校を辞めたいと思ったと話すピエールさん(大学生)は、その度に、高校を退学した日本人の先輩から「高校を辞めるな」「中退すると、人生がひっくり返るから」と言われたことを思い出したと言います。「ここまで頑張ってひっくり返すことはできないと、退学を思いとどまった。」と言います。

この忠告は、外国人、日本人にかかわらず、全ての生徒に向けて言えることだと思います。

### 支援者としてできること — NPO法人トルシーダー

私たちは今回、12の「外国につながる子どもたち」の支援団体にお話をうかがいました。

日本語支援、学習支援を軸に、地域交流や、保護者に対する働きかけなどの活動が熱心になされていました。中には、在留資格の無い子どもたちの居場所作りや、就労支援という社会問題に取り組む団体もあり、外国人を支援する地域の日本語教室への、様々な期待を感じさせられました。

支援者が決して子どもをあきらめないことで進路が拓いた例がありました。子どもには支援者の覚悟を認識できる力があり、支援者の心積もりが本人の希望を支えます。

小中学校時代、学校生活がスムーズにいかなかった子どもたちが、支援団体のサポートを受け、今では仕事と勉強を両立させて新たな夢に向かって努力しています。中学夜間学級を卒業することや、中学校卒業程度認定試験のための支援は、高校進学という大きな扉を開け、その後の可能性を広げる転換点にもなるものです。

このガイドブック第1章のアンケート結果では、日本の中学校に在籍する生徒の84%が、「日本で高校進学を希望」しています。しかし、学校での成績が「とても良い、良い、普通」と答えた中学生は、合わせて30%に過ぎ

ません。このことから、子どもたちに対して、小中学校、高校受験期、高校入学後など、段階に応じた支援が必要だということが分かります。

さらに外国につながる子どもたちが、地域社会に参加していくためには、「国際」や「多文化共生」だけではない、様々な分野からの働きかけや、支援が必要とされます。

アンケートでは、日本の学校に通う中学生、高校生の67%が、「将来日本で生活する」と答えています。外国につながる子どもたちは、「外国人」としてではなく、私たちと同じ地域の住人として、成長しています。いろいろな段階で様々な人たちの支援がつながり、広がっていくことが、求められています。

日系の人たちの来日は、1990年から始まりました。その頃、子どもだった人たちも、今は成人して日本社会の中で頑張っています。

通信制高校で学ぶ小寺さんとNPO法人トルシーダとの関わりは、彼女が小学校3年生のときから20年近くになります。小学校時代の日本語支援、学習支援。中高時代の悩み相談。その後の仕事、子育てと人生の時々において関わり方は変わりますが、いつしか、気遣いをされる側になるほど、長い付き合いができるのが、支援者の醍醐味かもしれません。

## 第6章 日本語と母語、学習言語について

「自分の国の言葉をもっと勉強しておけばよかった。」「ペルー人なのに、スペイン語が上手に話せないことが悲しかった。」先輩のインタビューでは、「進路に見通しができて、母語が大切だったことが分かった」という声をたくさん聞きました。

日本での生活が長くなり、子どもの日本語が上手になると、家庭でコミュニケーションができないという問題が出てきます。さらに、母語か日本語かどちらかの言葉がしっかりとできていないと、学習のための言語能力が身につかなかったり、抽象的思考ができなかったりするダブル・リミテッドと呼ばれる状態になり、教科学習が困難になります。

そうならないためには、どうしたらいいのでしょうか。最後に、「日本語と母語」について、バイリンガル教育の第一人者であるトロント大学教授の中島和子先生の講演と、「学習言語」について千葉県立柏中央高校の時原千恵子先生の論文を掲載します。なお、中島和子先生の講演は、ブラジル人のお母さんたちに向けてお話されたときのものをまとめたものです。

### A. 日本語と母語について

#### 『ポルトガル語も日本語も・両言語の可能性のために家庭でできること』

トロント大学教授 中島 和子氏

##### 1. 二つの言葉を伸ばす

外国で子どもを育てるとき、「帰国したときに困らないように母語を育てたい」けれども、「現地の学校にも行って日本語も習ってほしい」という二つの選択肢があり、とても困ります。しかし、大切なことは、どちらかを選ぶ、ということではなく、両方できるようにするにはどうしたらいいか、と考えることだと思います。大きくなったとき、両方の言葉ができる子、両方の言葉を使って仕事ができる人にどうしたら育てられるか、というのが問題だと思います。

日本の学校へ行くブラジル人の子どもは、ブラジル人の家に片足を入れて、もう片足を日本の学校に入れて、両方の世界と付き合っていかなければなりません。この両方の世界と付き合うとき、それぞれの世界のルールが違います。ですから、子どもは、この両方のルールと付き合って生きていく力を持たなければならないのです。子どもたちは、両方の世界と付き合いながら、将来、両方の国で働ける人に育っていくのです。

##### 2. 日本語とポルトガル語の使い分け

子どもたちが二つの言葉を育てるために大事な要因が三つあります。

1. 家の中でどんな言葉話すか
  2. 学校でどんな言葉話すか
  3. 学校と家庭を取り囲む社会でどんな言葉話しているか
- この三つが子どもの言葉に影響を与えます。

##### ①家庭の言葉が大事

子どもの最初の言葉の先生はお母さんとお父さん、つまり家庭です。理想的には、家の中ではポルトガル語、外へ出たら日本語と、二つの言葉を使い分けることです。使い分けしていると、両方の言葉が育ちます。バイリンガルに育てるためには、ここでは一つの言葉、ここではもう一つの言葉と、その使い分けがはっきりと子どもに分かる方がいいのです。

子どもは、自分で言葉を獲得する力があります。

一つの言葉を強くしておけば、もう一つの言葉は自分の力で習得していきます。でも、一つ強い言葉がないと、両方ともが中途半端になってしまう傾向があります。子どもは日本語の方が強くなると、家の中に日本語を持

ち込みます。そういう時は、親は、仕方がないと諦めてしまわずに、必ずポルトガル語を話すようにしてください。

言葉の習得は、年齢と関係があります。日本で育つ幼児の場合、ほぼ、五歳くらいまでにポルトガル語がなくなってしまうのが、普通です。その次が八歳です。八歳までに母語がなくなる子どもがとても多いです。八歳までに、ポルトガル語を話せるようにしておくと、それが土台になります。会話力を土台に、あとで読み書きの力も伸ばせます。従って、八歳までにポルトガル語を失わないようにしておくことがとても大切です。

## **②学校で勉強した言葉が一番強くなる**

バイリンガルが育つ環境は、大きく分けて二通りあります。一つは国際結婚などで、家の中で二つの言葉に触れて子どもが育つ場合です。

もう一つは、自分の国の言葉が先にあって、その上に二つ目の言葉が加わる場合です。ブラジルの学校に通っていて、途中で日本に来て、日本の学校に転校したという場合がその例です。

ポルトガル語がまずあって、その上に日本語が加わります。こういう場合には土台となるポルトガル語がとても大切です。学校へ行ったときに、ポルトガル語がしっかりしている子は、日本語も自分でできるようになる力があります。ポルトガル語があまりできない子は、日本語でも苦労しますし、その習得に時間がかかります。

日本の学校に通っている場合、日本にいる時間が長くなるにつれ、どうしても日本語の方が強くなります。ポルトガル語は土台として必要なのですが、日本の学校では日本語で勉強するので、日本語で頭を使って考えます。頭を使った言葉が一番強い言葉になります。これは仕方がないことです。

## **③友だちと、どんな言葉話をしているか**

毎日の生活の中で、ポルトガル語を話す友だちが周りにたくさんいると、特殊な問題が出てきます。友だちとポルトガル語で話せるということは、ポルトガル語の会話力の保持には役に立ちます。しかし、子どもたちの世界には子どもたちだけの合言葉、仲間言葉というものできて、ポルトガル語と日本語が混ざったような「ジャポンゲス」を合言葉の

ように使うようになります。それは普通です。同国人が大勢いたら必ずそうなります。

そういう状況の中で、どういう工夫をしたら、両方の言葉が育つかということを考えることが大切です。子どもの言葉は成長し、伸びていきます。今は「ジャポンゲス」を使っているとしても、次第に、ポルトガル語だけできちんと話す場所、日本語だけできちんと話す場所、仲間とジャポンゲスで話している場所が分かるようになります。三つを使い分ける訓練をすれば、大人になったとき、自分でその場に合う言葉を選べるようになります。

## **3. 母語が伸びにくい環境の中で**

日本で生活しているということは、どうしても日本語の方が強くなってしまい、母語が伸びにくい環境にあります。母語が埋もれて沈んでしまう環境の中で困ることは何でしょうか。

### **①言葉とアイデンティティー**

第一に、一番楽にコミュニケーションができる言葉が日本語になるということです。日本語の方が上手になり、よく使うようになります。しかし、子どもは、日本語を使うから日本人になるというわけではありません。

アイデンティティーの根っこになるのは家の文化です。子どもたちのアイデンティティーは年齢とともに変化していきます。日本語しか話せない子でも「自分はブラジル人だ」ということは必ず分かるようになります。家庭がしっかりしていれば、自分が何人（なにじん）か、後ではっきりするのです。

### **②現地語の伸び**

二番目は、「現地語」の伸びがあまりよくないということです。つまり家の中でポルトガル語を使い、学校で日本語を使う状況です。親の助けなしに子どもが自分で日本語ができるようになると、親はその子を「ネイティブのようだ」と思います。しかし、実は、ネイティブに近く聞こえるだけで、文章を書くと間違いがたくさんあったり、読むときにも全部は分かっているなかったりします。それは普通のことです。

小学校二、三年生までは、いい成績を取ることができるのですが、五、六年生になると、

成績が伸び悩むことがあります。日本の子どもは、抽象的な内容を学習するときの伸びが早く、五、六年生になるとどんどん伸びていきます。しかし、二つの言葉にまたがって育つ子どもは、時間がかかるのです。特に 10 歳の壁と言われる 五、六年生の壁を越えて、抽象的な内容を理解するには、倍の時間がかかるかも知れないと思っている方がいいのです。

二つの言葉、二つの文化を持った子どもたちは、両方を足して考えてあげてください。また長い目で見る必要があります。子ども時代は、基礎の力を作っている段階です。日本語の基礎、ポルトガル語の基礎、その基礎を土台に後で子どもたちが好きなように伸ばせばいいのです。二十代の初めくらいまでに、両方の言葉が育てばいいのだと思ってください。遅れているのではないかと、悩むことはありません。子ども時代に獲得した力を基礎に自力で伸びることができるはずです。

### ③聞く力、話す力と、読み書きの力

子どもたちの現地語の力で一番強いのは「聞く力」、その次が「話す力」です。そして一番弱いのが「読み書きの力」です。会話の力と読み書きの力のギャップがあることが特徴です。読み書きは努力をしないと自然にはなかなか身に付きません。

家庭の中でお母さんやお父さんができることは、なるべく読む本をたくさん置いておくこと。そして、できるだけ本の読み聞かせをすることです。文字を通して意味がつかめるということが分かるように、ポルトガル語の読み書きを教えてくれるところを探してやる必要があると思います。

## 4. 親から受けついだ言葉と文化を持つ子どもたち

---

外国で育つ子どもたちの中には、「母語は何か」と聞かれても答えられない子どもがたくさんいます。毎日の生活は日本語でも、初めて習った言葉はポルトガル語です。普通よくあるように、母語と外国語という分け方をしていたのでは、子どもたちは、どちらが母語か分らないのです。ポルトガル語は弱いけれども、自分の根っこの言葉なのですから、外国語ではありません。母語と外国語という分け方が間違っているのです。

子どもたちは、「現地で使っている言葉、学校の言葉」と、「親から受け継いだ言葉と文化（つまり継承語、継承文化）」、この二つを持った子どもたちなのです。

（2004 年 1 月 N P O 法人トルシーダでの講演より）

### 『 日本語で学ぶために 』

千葉県立柏中央高校 時原千恵子 氏

#### ー生活言語と学習言語、そして言語権ー

近年の政治的、経済的、社会的状況の変化によって、日本に移動してくる人々が増え続けており、親の移動は必然的に子どもの移動も引き起こしています。大人より適応力がありそうに見える子どもたちは、実は内面では多くの危機にさらされることになります。環境の急激な変化の中で、言語習得やアイデンティティ形成など、たくさんの困難を抱えているのです。

「大学に行って、スペイン語を勉強したい。日本語でわからなくなるとスペイン語に逃げ、スペイン語でわからなくなると日本語に逃げる自分が嫌だ。ちゃんと使える言葉を身につけたい」と、普段は口数が少なく感情を表に出さないミゲル(仮名)がいつになく強い口調で言いました。

1999 年、彼が高校3年生の秋のことでした。1991 年に小学校4年で来日して以来、滞日9年間になろうとしていました。その後、彼の大学受験準備を手伝う中で、彼の抱える困難が次第に明らかになっていきました。私にとって、ミゲルとの出会いが「日本語を母語としない子どもたち」と関わる原点となっています。

それ以来10年以上経ちますが、私自身がやれたことはほんのわずかです。そんな中、2008年4月からの2年間、琉球大学大学院で「日本語を母語としない子どもたち」の現状について研究する機会に恵まれ、彼・彼女たちが置かれている状況に関する問題点を3つの視点ー「アイデンティティ」「(日常)生活言語と学習(思考)言語」「言語権」ーから読み解こうと試みました。

ここでは、そのうちの「生活言語と学習言語」と「言語権」の2つについて触れたいと思います。これらの視点から、日本語学習と母語保持の両方がどんなに重要かが見えてきます。

#### 1. 生活言語と学習言語

私は、自分の個人的経験から、中学生になってから来日した生徒より、小学校低(中)学年で来日した生徒に学習のつまづきが多いように感じていました。なぜ滞日年数が長く、日本語により長く接している生徒の方なのでしょう。他の現場教員からも、外国籍の子どもが日常生活ではなんの支障もないのに、学習がなかなか進まないという報告が少なくないことも知りました。

前述のミゲルに関していえば、日本語(特に書きことば)の習得が不十分であることに改めて驚かされました。彼の日本語の作文はまるで暗号のごとくほとんど読解不能でした。日常生活では流暢な高校生言葉を話しているのに、何故だろうかと目を疑いました。

第2言語習得に関しては「臨界期仮説」がしばしば取り上げられます。一定の年齢(7

歳、12歳、思春期など、学説はさまざま)を越えると第2言語の習得が著しく困難になるという説です。しかし、これでは教育現場からの指摘を説明することはできません。

一方、「(日常)生活言語」と「学習(思考)言語」を区別することで、その状況を説明する研究者たちがいます。その根拠となるのがカミンズ(Jim Cummins)の理論と思われます。カミンズによれば、BICS (basic interpersonal communicative skills)とCALP (cognitive/academic language proficiency)は異なる能力であり、前者は文脈の支えがある場面で働き、後者は文脈からは独立した場面で働く能力を指します。言い換えると、BICSは表情やジェスチャーなどの言語以外の助けがある場面で具体的な内容について対面で会話をする時の力のことであり、CALPは場面状況からは切り離された抽象的な内容についてことばだけで理解し表現する力のことです。すなわち、思考を支えること



ばの力でもあり、認知的発達や学力および読み書きの力と密接に関連します。また、カミンズは、子どもの第2言語能力は、すでに獲得している第1言語能力に依存しているとしています。そして、言語間で深く関係しあうのは主にCALPの方で、第2言語の発達のためには第1言語のCALPが土台になると言っています。つまり、日本語を母語としない子どもの場合、母語が発達しているほど、日本語も習得しやすいということになります。

カミンズはBICS/CALP理論をさらに発展させ、「場面依存度」と「認知力必要度」という2つの座標軸から第2言語習得を考えました。子どもが場面への依存度が高い言語能力を獲得するのにかかるのは1～2年ですが、場面への依存度が低い場合の流暢な言語能力を獲得するには5～7年かかるとしています。多くの研究者が「学習言語の習得には5～7年かかる」と論じていますが、抽象的思考を表現するような場面依存度の低いCALPの習得を指していると思われます。カミンズの理論は、教育現場の現象の原因を明らかにし、子どもたちの抱える困難が目に見える以上に大きいことを示しています。

以下、BICSを「生活言語」、CALPを「学習言語」とし、子どもたちの状況を山田(2007)のたてた仮説をもとに説明してみます。小学校低(中)学年という時期は、「学習言語」の基礎を身につける時期ですが、ニューカマーの子どもたちはまず日本語の「学習言語」を学ぶことになります。1、2年もたてば、ある程度不自由なく「生活言語」は操れるようになりますが、その先の言語運用能力の向上は教科の理解とともに本人の努力に任されてしまうことが多いのです。一方で、母語での「学習言語」は一切伸びていないばかりか、日本語の学習に専念していた分、母語の「生活言語」すら退化すること考えられます。日本語の「生活言語」の習得が比較的速いのは、これらの母語を失うことと引き替えになっているのではないのでしょうか。

来日直後には日本語が全く話せなかった子どもが、1年後には日常会話を上手にこなすようになったのを見て安心するのは、教師として自然な心情だと言えるでしょう。しかし、そういう状況であっても、生活言語と学習言語の相違を認識し、日本語指導を続けること

が必要です。子どもたちの年齢や滞在年数などの状況にあったテキスト、教授法が待たれており、この分野における研究者の積極的な関与が望まれています。

母語の保持・伸長については、学習言語以上に、教育行政や教育現場においてその重要性が理解されていません。忘れてならないのは、子どもたちは、まだ母語習得の途中にあるということです。思考と言葉との関係は深く、知識は言葉を通じて獲得されます。人は、思考に輪郭を与えるために言語を必要とし、思考した内容を言葉によって明確化することで思考の積み上げも可能になるのです。また、抽象的語彙から抽象概念を想起するためには、言語化された抽象概念の獲得が必要となります。大切なことは、子どもたちの日本語習得が第一かつ唯一の目標ではなく、子どもたちの言語習得の全体像をとらえることなのです。

## 2. 言語権

「言語権」ということばと概念に出会ったのは、琉球大学の授業の中であり、衝撃を受けたのを覚えています。

以下、「言語権」とは何か、私なりの解釈で説明してみます。端的に言えば、「言語権」とは母語を使用する権利と(実質的な)公用語を学習する権利のことです。「言語権」は人権の一部であり、人権を言語的な観点からも保障する考え方、人間の平等という概念を言語的に適用しようという試みだと言えます。

「言語権」の第一人者とされる、Tove Skutnabb-Kangas(トーヴェ・スクトナブ＝カンガス)とRobert Phillipson(ロバート・フィリップソン)は、言語権を「必要な権利」と「拡張的な権利」に分け、とりわけ前者を「言語的人権」と呼んでいます。具体的には、母語を学ぶ権利、少なくとも初等教育を母語で受ける権利、そして母語を多くの(公的な)場面で使用する権利および居住する国の公用語のうち少なくとも一つを学ぶ権利としています。そして、「これらの権利に制限を加えることは言語的不正、基本的な言語的人権の侵害とみなすことができる」(木村訳、1999年)とまとめています。2人の言う「言語権」は、国内の言語的少数者集団(政治的・経済的に多数派に支配されていることが多い)を想定

しているようですが、「言語権」が人権の一部であるのなら、移住者・移民の言語権もまた認められて然るべきでしょう。なかでも、子どもたちは、母語習得やアイデンティティの確立など、言語が大きく影響する年齢であり、彼・彼女たちに対しての言語権の保障は急を要するものと言わざるを得ません。さらには、日本における日本語を母語としない子どもたちのような集団さえも成していない人々の権利を考えると、極めて重要な視点となるはずです。

日本においては、言語権に関する議論はまだ20年程の歴史しかなく、特に注目されるようになったのは、ここ10年間だと思われます。諸外国では、国内の少数民族による言語権主張をきっかけとして言語権が議論されてきたという経緯がありますが、日本では、言語習得や言語使用について人権として位置づけられてはきませんでした。日本国内におけるアイヌ語、琉球諸語、韓国・朝鮮語、中国語の使用に関して、人権の視点からは論じられることはなかったのです。さらに、日本に在留する外国人が直面する言語の不利益もまた、人権の問題としてとらえられてきませんでした。

また、日本語を母語としない子どもたちは全国的に「広く、薄く」（川上・市瀬、2005年）在籍し、「1人」在籍校が全体の約半数、「5人未満（1～4人）」の学校が約8割も占めています。そのため、彼・彼女たちは、日本の子どもの中で「見えない存在」となってしまうか、問題は本人個人のものとされてしまい、学校全体で取り組む課題となりにくくなります。このようにして、日本語を母語としない子どもたちの言語的困難は放置されたまま、日本語がわからなくとも日本の子どもたちと同じ授業を受け、同じ基準によって評価されてきました。多くの場合、母語を使用する機会は失われていき、母語や母文化を評価されることもありませんでした。

また、子どもたちに対して「特別扱いをすべきではない」とされてきた教育現場においては、何らかの特別扱いは「恩恵」や「施し」という意識が生じやすいのです。そして、そのような意識を持っている限りは、彼・彼女たちへの対応は余分の仕事と考えられがちです。しかし、「言語権」の観点からすれば、そ

の特別扱いは権利の保障という責務を実行しているにすぎません。つまり、「言語権」は日本語を母語としない子どもたちに対する意識を大きく変える概念なのです。

では、日本語を学習する権利と母語を保持する権利について、もう少し具体的に考えてみましょう。

日本語を母語としない子どもたちの多くは、日本社会に留まるか、長く生活していくことになります。彼・彼女たちにとって日本語を習得することは、日本社会で生きていくうえで重要な鍵となります。そして、日本語習得がうまくいくかどうかは、適切な初期指導にかかっていると思われます。私が行ったインタビュー調査への協力者の中に、たまたま同国出身で来日6年目の高校生2人がいたのですが、日本語習得レベルのあまりの違いに驚きました。一方の生徒は日本語指導を受ける機会がなかったのに対して、他方の生徒は中学校で手厚い初期指導を受けていました。また、長期的な日本語指導の必要性も忘れてはなりません。学習言語の習得には5～7年かかるわけですし、「中学校時代に学んだ日本語力が日常生活言語から学習思考言語に深まるのが高校時代であることを思うと、高校でこそ日本語の本格的な学習が必要である」（佐久間、2005年）という指摘もあるほどです。

母語保障に関してはどうでしょうか。アイデンティティ形成の面からも、第2言語としての日本語習得のためにも、そして、自らの言語を使用するという言語権の観点からも、母語保障は不可欠のと言えます。しかし、現実には、母語学習は日本語学習の妨げになると考えられたり、家庭での会話が日常生活の簡単な会話に終始し、子どもたちの母語が保持・伸長されることは難しい状況にあることも多いのです。

「言語権」ということばと概念は、劇的に私の視座を変えてくれました。子どもたちに対して必要なのは、「恩恵」ではなく権利の保障だということを明らかにしてくれました。そして、私たちが為すべきことは、その実現を目指すことなのだということを示してくれました。今こそ、言語教育政策が求められており、国レベルから現場に至るまで意識の変革が必要な時なのです。

<主な参考文献>

- ・山田泉「多文化・多言語主義と子どもの発達」、『外国人の定住と日本語教育 [増補版]』ひつじ書房、2007 年
- ・石原昌英・木村護郎・渋谷謙次郎他「特集 言語権とは何か」、『月刊言語』2008 年 2 月号、大修館書店)
- ・渋谷謙次郎「言語権の理論的諸問題」、『言語権の理論と実践』三元社、2007 年
- ・川上郁雄・市瀬智紀「多国籍化する社会の言語教育とは何か―地域と子どもの視点から」、『多言語社会と外国人の学習支援』慶應義塾大学出版会、2005 年
- ・佐久間孝正「多文化に開かれた教育に向けて」、『外国人の子どもと日本の教育―不就学問題と多文化共生の課題』東京大学出版会、2005 年
- ・Cummins, J. (1981) Age on Arrival and Immigrant Second Language Learning in Canada: Reassessment. *Applied Linguistics*, 2
- ・Phillipson, R. & Skutnabb-Kangas, T. (1995). Linguistic Rights and Wrongs. *Applied Linguistics*, Vol.16, No.4. Oxford: Oxford University Press  
(ロバート・フィリップソン、トーヴェ・スクトナブ＝カンガス 木村護郎訳「言語的不正と言語権」、『ことばへの権利 言語権とはなにか』三元社、1999 年)

「外国人青少年の夢エスコート事業」企画編集委員会 委員名簿（敬称略）

|                |                            |
|----------------|----------------------------|
| アビ・イレリカ        | 学校法人イーエーエス伯人学校 日本語コーディネーター |
| 稲垣 幸一          | 岡崎市立北中学校 校長                |
| 井村 美穂          | 特定非営利活動法人子どもの国 代表          |
| 粕谷 浩二          | 豊田市総合企画部国際課 課長             |
| 金田 エリザ         | 豊田市立保見中学校 語学相談員            |
| 川口 祐有子         | NPOまなびや@KYUBAN 代表          |
| 川崎 均           | 豊田市立保見中学校 教諭               |
| 白井 彩絵          | 公益財団法人豊田市国際交流協会 主査         |
| 広瀬 誠           | 豊田市総合企画部国際課 主査             |
| 藪崎 昭彦          | 豊田市教育委員会学校教育課 指導主事         |
| 伊東 浄江          | 特定非営利活動法人トルシーダ 代表          |
| 宇野 光           | 特定非営利活動法人トルシーダ 作業班         |
| 福永 文子          | 特定非営利活動法人トルシーダ 作業班／ライター    |
| 孝森 めぐみ         | 特定非営利活動法人トルシーダ 作業班         |
| 稲波 智子          | 愛知県地域振興部国際課多文化共生推進室 室長補佐   |
| 大橋 充人          | 愛知県地域振興部国際課多文化共生推進室 主任主査   |
| 鈴木 利充          | 愛知県地域振興部国際課多文化共生推進室 主査     |
| 矢野 英美          | 愛知県地域振興部国際課多文化共生推進室        |
| ウガルテ・パレデス・カルメン | スペイン語版 アンケート翻訳             |
| シノザキ・エジルソン     | ポルトガル語版 アンケート翻訳            |
| 宮川 美保          | タガログ語版 アンケート翻訳             |
| 柴田 久美子         | 特定非営利活動法人トルシーダ 表紙イラスト      |





外国につながる子どもたちの  
**進路応援ガイドブック**

～ 地域の支援者の皆様へ ～

2012 年（平成 24 年）3 月 発行

【 発 行 】

愛知県地域振興部国際課多文化共生推進室  
〒460-8501 名古屋市中区三の丸 3 丁目 1 番 2 号  
電話：052-954-6138（ダイヤルイン）  
<http://www.pref.aichi.lg.jp/tabunka.html>  
E-mail：tabunka@pref.aichi.lg.jp

【企画・編集】

特定非営利活動法人トルシーダ